

年  
報

# 年報

2015



東北大学病院がんセンター

東北大学病院  
がん診療相談室

受付時間月曜日～金曜日 8時30分から16時まで  
TEL 022-717-7115 (直通)  
FAX 022-717-7132

東北大学病院がんセンター

平成28年3月

## 巻 頭 言



東北大学病院  
がんセンター長 石岡千加史

東北大学病院は平成 18 年度に全国の大学病院に先駆けて都道府県がん診療連携拠点病院に指定されました。この指定にともない当院にがんセンターが設置され、化学療法センター、緩和ケアチーム、がん医療相談室、がん登録室などのがんセンターの組織をはじめ、関連診療科や部署が協力して拠点病院の機能強化に努めてきました。以来、東北地方のがん医療に中心的な医療機関として、最新医療の普及、医療従事者の養成、高度がん医療の推進と提供、院内がん登録の推進、がんの臨床試験の推進などに貢献しています。

平成 24 年 6 月にわが国の第 2 期がん対策推進基本計画が策定され、第 1 期の基本計画に盛り込まれた内容に加えて、がん患者の就労の問題、小児がん対策、がんの教育・普及啓発が新たに計画に盛り込まれました。この国の基本計画の改訂にともない第 2 期宮城県がん対策推進計画が平成 25 年 3 月に発表され、東北大学病院は都道府県がん診療連携拠点病院としての機能強化が一層求められています。とりわけ、宮城県内の地域がん医療水準の向上や地域がん医療連携に関する本院への期待は大きく、平成 24～27 年度には宮城県医療再生事業により当センターに先進包括的がん医療推進室を設置し、県内の地域がん医療の実態調査と多職種による医療・介護連携のセミナーを地方開催いたしてきました。平成 28 年度以降も継続して地域がん医療の推進に取り組みます。また、平成 24 年度には全国に初めて 15 カ所指定された小児がん診療拠点病院の 1 つに指定され、当センターに平成 26 年度に小児腫瘍センターを設置しました。さらに、平成 24 年度から文部科学省補助金事業である東北がんプロフェッショナル養成推進プラン（東北がんプロ）が採択され、平成 19 年度から引き続きがん専門医療従事者の養成を推進しています。東北がんプロの事業の 1 つとして平成 25 年度に本学医学系研究科に地域がん医療推進センターが設置され、当センターと連携して地域がん医療の推進に取り組んでいます。

平成 26 年 1 月 10 日、厚生労働省健康局長通知「がん診療提供体制の整備に関して」では、がん診療連携拠点病院の在り方について新たな指針（新指針）が示され、その中で、都道府県がん診療連携拠点病院における一層の診療機能強化が求められています。当センターは、宮城県がん診療連携協議会の各部会が推進する PDCA サイクルを取り入れ、診療

提供体制の向上を図ります。また、新指針に沿って、当院では平成 27 年 4 月から緩和ケアセンターを設置するとともに、放射線治療センターを新たに設置する準備を進めています。また、新指針では臨床試験のより一層の推進が求められています。当がんセンターは院内の他部署と協力し、がん医療の新しい医学的エビデンスを創成するための臨床研究の支援にも積極的に取り組む予定です。年々進歩する最新のがん治療を患者に優しく安全に提供するために、今後も様々な課題に取り組めます。今後とも関係各位の御協力をお願い申し上げます。

# 目 次

## I 組織概要

- 1. 設立の経緯 ..... 1
  - ・沿革等
- 2. 組織等 ..... 3
  - ・組織図、センター概念図等

## II 事業報告

- 1. がん診療連携拠点病院関連事業 ..... 4
  - (1) 概要 ..... 4
  - (2) ダブルトップについて ..... 5
  - (3) 事業内容 ..... 5
- 2. 東北大学病院内事業
  - (1) 部会からの報告
    - 診療部会 ..... 8
    - 研究部会 ..... 11
    - 教育部会 ..... 25
    - 相談支援・情報部会 ..... 28
    - がん登録部会 ..... 37
  - (2) 診療科・部署からの報告
    - 放射線関係 ..... 41
    - 化学療法センター ..... 42
    - 薬剤部 ..... 56
    - 緩和ケアチーム ..... 58
    - 先進包括的がん医療推進室 ..... 61
    - 小児腫瘍センター ..... 70
    - テレパソロジーセンター ..... 74
- 3. がんプロフェッショナル養成事業 ..... 77
- 4. 東北大学病院化学療法センター看護業務概要 ..... 79

## III 資料編

- 1. 関係規程、内規等（院内、県協議会等） ..... 82



# I 組織概要

## 1. 設立の経緯

### 沿革

平成18年 8月	「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定
平成18年10月	東北大学病院がんセンター開設 腫瘍評議会の設置 診療部会、研究部会、教育部会、広報部会の設置
平成18年12月	平成18年度宮城県がん診療連携協議会総会の開催
平成19年 1月	緩和ケアチーム運用開始 院内がん登録開始
平成19年 2月	第1回がん会議（全体会議）の開催
平成19年12月	がん登録部会の設置
平成20年 4月	第1回がんセミナーの開催
平成20年 6月	がん相談支援室の設置
平成20年10月	第1回臨床病理カンファレンスの開催
平成21年12月	第1回地域連携クリティカルパス部会の開催
平成22年 4月	第1回地域連携クリティカルパスWGの開催
平成23年10月	宮城県地域連携クリティカルパス(5大がん)運用開始
平成24年 4月	先進包括的がん医療推進室の設置
平成25年 2月	「小児がん拠点病院」に指定
平成25年 4月	医学物理室の設置
平成26年 2月	宮城県がん診療連携協議会に宮城県がん診療提供体制委員会の設置
平成26年12月	小児腫瘍センターの設置
平成27年 7月	緩和ケアセンターの設置
平成27年 9月	テレパソロジーセンターの設置

### 設立の経緯

平成16年に開始された第三次がん十ヵ年総合戦略の基本方針として「がん医療の均てん化」が挙げられたが、当初、均てん化を担うべき厚生労働省の指定するがん拠点病院に大学病院は含まれてはいなかった。しかし、平成18年2月、厚生労働省が定めるがん拠点病院の枠組みが大きく変わり、がん対策が本格化する中、平成18年8月東北大学病院は宮城県立がんセンターと共に「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定された。

「がん診療連携拠点病院」の指定要件として、院内各種のがん診療体制はもとより、放射線治療体制、化学療法体制、緩和ケアチームの整備と専門医療職の配置のほか、地域に対して、研修事業、ネットワーク事業、院内がん登録事業、がん相談支援事業、普及啓発・情報提供事業が求められており、さらに、「都道府県がん診療連携拠点病院」の場合は、地

域のがん診療連携拠点病院に対する研修や診療支援が求められ、本院でも、「都道府県がん診療連携拠点病院」として、院内機能の整備と研修や人材交流を通じたほかの拠点病院に対する指導力が求められることとなった。

このような中、院内整備、地域や地域のがん拠点病院との交流の基点として、平成18年10月、院内にがんセンターが開設されることとなった。同時に、がんセンターの業務の総括、企画、立案及び自己評価を行うため、腫瘍評議会を設置し、また、業務を円滑に進めるため、下部組織として4つの部会を立ち上げた。

一方、平成18年12月には宮城県内の拠点病院の連携を図るため県立がんセンターとともに宮城県がん診療連携協議会を設置し、第1回総会を開催するなど、対外的にも、がん診療連携拠点病院としてスタートを切った。

さらに、院内においても、平成19年1月に、緩和ケアチームの運用と院内がん登録が開始され、同年12月には、院内がん登録業務の進展、拡大に伴い、研究部会よりがん登録分野を「がん登録部会」として独立・新設させた。

また、平成20年4月に第1回がんセミナーを開催、平成20年6月には、がん相談支援室の設置を行い、平成20年10月に第1回臨床病理カンファレンスを開催した。

22年4月以降も引き続きがん診療連携拠点病院として、地域連携クリティカルパスの作成に当り、県内全域で使用できる効率的かつ機能性の高い統一パスを作成するため、「地域連携クリティカルパス部会」の中にさらに、5大がん各部位のワーキンググループを設置し、地域連携クリティカルパスの作成・運用に向けて作業を進め、23年9月に仙台医療圏と大崎地方でパスの説明会を開催し、10月から運用している。

24年4月にがん医療の空白地域の解消に向けて、先進包括的がん医療推進室が設置され、全県下に標準的がん医療の普及と最新のがん医療の提供に努めている。また、25年2月には、診療の実績のほか、緩和ケアの実施体制や地域医療機関との連携、患者の長期フォローアップ、相談支援体制などが評価され、東北ブロックとして「小児がん拠点病院」に指定されました。

25年4月に医学物理室が設置され、放射線治療における精度管理を行っています。

26年1月に厚労省から、「がん診療連携拠点病院等の整備について」新指針が示され、都道府県拠点病院は宮城県におけるがん診療の質の向上及びがん診療の連携協力体制の構築、PDCA サイクルの確保に関し中心的役割を担うことになり、宮城県がん診療連携協議会の下に宮城県がん診療提供体制検討委員会を設置し、検討を始めたところです。

26年12月にがんセンター内に「小児腫瘍センター」を組織化し、入院から外来までの包括的な小児がん医療を提供することを目的とし、各科の協力に基づいた診療と長期フォローアップや緩和医療、成人診療科との連携を強化しています。

27年7月に全てのがん患者やその家族等に対して、診断時からより迅速かつ適切な緩和ケアを提供するため、「緩和ケアチーム」、「緩和ケア外来」及び「緩和ケア病棟」を統括した「緩和ケアセンター」を組織化し、医師・看護師を中心とした多職種が連携したチーム医療の提供体制を整備しました。また、9月に病理医不足及び病理医の高齢化対策として、遠隔地の病院より伝送された病理画像の病理診断支援を行うとともに、診療レベルの維持・向上や均てん化、研修医や若手医師の教育、医師及び病理医に対する生涯教育、病理医育成事業を行うテレパソロジーセンターを設置いたしました。

## 2. 組織等



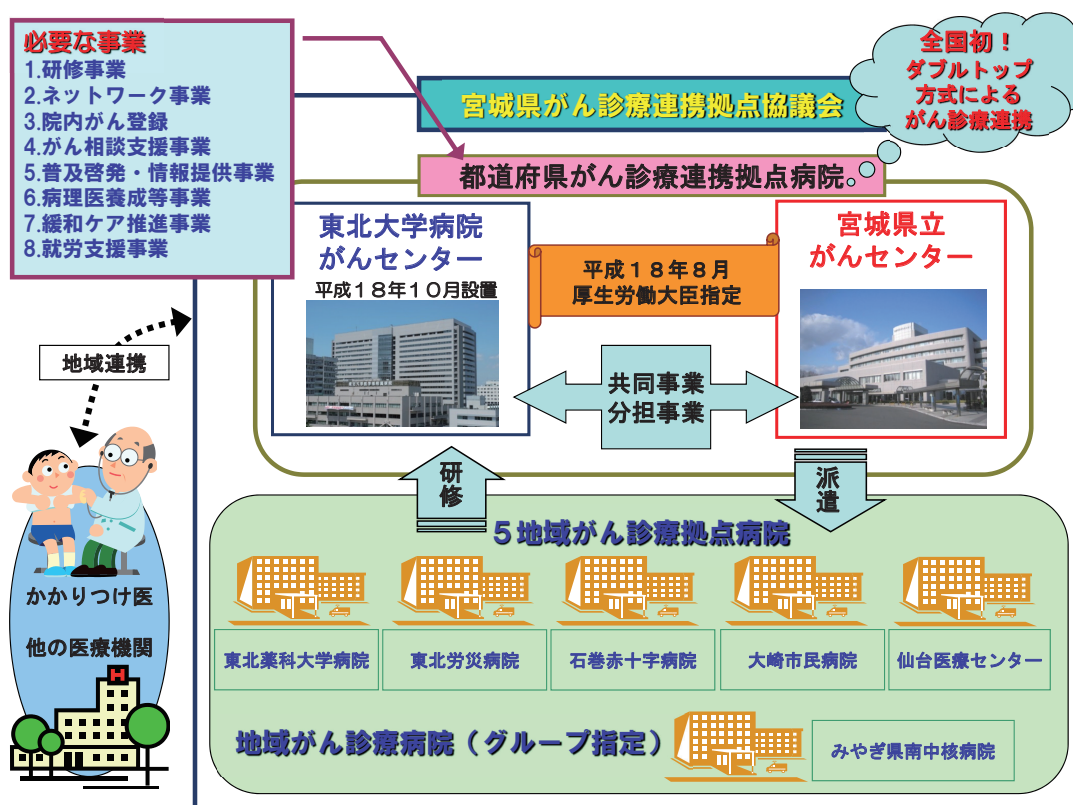


## II 事業報告

### 1. がん診療連携拠点病院に係る事業

#### (1) 概要

- ・ 本院は、平成 18 年 8 月に厚生労働大臣から県立がんセンターと共に 1 県 2 拠点（ダブルトップ）として全国初の「都道府県がん診療連携拠点病院」の指定を受けた。
- ・ がん診療連携拠点病院はがん医療の均てん化を図ることを目標として整備されたものであり、指定要件において「診療体制」、「研修体制」、及び「情報提供体制」を整備し、併せて院内がん登録事業、がん相談支援事業等を実施することとなっており、県立がんセンター及び地域がん診療連携拠点病院と連携を図りながら諸事業を実施している。
- ・ 宮城県においては、県内のがん診療の質向上及び拠点病院事業の円滑を図るため、平成 18 年 12 月に「宮城県がん診療連携協議会」を設置し、その下部組織に 3 つの部会（化学療法、放射線治療、緩和ケア医療）を設け、平成 21 年 7 月には新たに、がん診療連携拠点病院の指定要件を充足させるため、3 つの部会（がん登録、地域連携パス、患者相談）を設け、医師、コ・メディカルを対象とした研修事業等を行っている。



## (2) ダブルトップ体制(2拠点)について

- ・ 本院と県立がんセンターによるダブルトップ体制の主な役割分担は、概ね次のとおりとなっている。

- 東北大学病院 : 人材育成・教育面、医師派遣・診療支援メイン  
※協議会部会担当:化学療法部会、放射線治療部会、緩和ケア部会、看護部会及びがん登録部会
- 県立がんセンター : がん医療ネットワーク化の推進、がん情報提供の拠点、緩和ケア、相談支援のネットワーク化の拠点  
※協議会部会担当:地域連携クリティカルパス部会、患者相談部会及び口腔ケア部会

## (3) 事業内容

事業内容は次のとおりとなっている。

### 1) 教育研修事業

- ・ 宮城県がん診療連携協議会の7部会については、化学療法部会、放射線治療部会、緩和ケア部会、看護部会及びがん登録部会は本院、地域連携クリティカルパス部会、患者相談部会及び口腔ケア部会については県立がんセンターがそれぞれ担当し、次表のような研修等を実施している。

### 【化学療法部会】

開催日	研修会等名	対象	参加者数
H28.1.19-1.20	がん薬物療法研修	医師、薬剤師、看護師	6名
H28.1.26-1.27	がん薬物療法研修	医師、薬剤師、看護師	6名
H27.2.9-2.10	がん薬物療法研修	医師、薬剤師、看護師	6名
H28.2.23-2.24	がん薬物療法研修	医師、薬剤師、看護師	6名
H28.3.15-3.16	がん薬物療法研修	医師、薬剤師、看護師	6名
H27.4.2	平成27年度第1回東北大学病院化学療法カンファレンス	医師、薬剤師	35名
H27.5.7	平成27年度第2回東北大学病院化学療法カンファレンス	医師、薬剤師、看護師	50名
H27.6.4	平成27年度第3回東北大学病院化学療法カンファレンス	医師、看護師	50名
H27.7.2	平成27年度第4回東北大学病院化学療法カンファレンス	医師、薬剤師、看護師	62名
H27.8.6	平成27年度第5回東北大学病院化学療法カンファレンス	医師、薬剤師	35名
H27.9.3	平成27年度第6回東北大学病院化学療法カンファレンス	医師、薬剤師	40名
H27.10.1	平成27年度第7回東北大学病院化学療法カンファレンス	医師、薬剤師	43名
H27.11.5	平成27年度第8回東北大学病院化学療法カンファレンス	医師、薬剤師、看護師	46名
H27.12.3	平成27年度第9回東北大学病院化学療法カンファレンス	医師、薬剤師、看護師	46名
H28.1.7	平成27年度第10回東北大学病院化学療法カンファレンス	医師、薬剤師、看護師	42名

H28.2.3	平成27年度第11回東北大学病院化学療法カンファレンス	医師、薬剤師、看護師	36名
H27.7.22	宮城県がん診療提供体制の評価(化学療法)	医師、薬剤師、看護師、事務	20名
H27.12.4	宮城県がん診療提供体制現地調査(化学療法)	医師、薬剤師、看護師	5名
H27.12.9	宮城県がん診療連携協議会化学療法部会	医師、薬剤師、看護師、事務	20名
H28.3.5	市民公開講座「知っておきたい抗がん剤治療」	一般市民、がん患者、がん経験者及び家族	194名

### 【緩和ケア部会】

開催日	研修会等名	対象	参加者数
H27. 6. 6-6. 7	第51回宮城県緩和ケア研修会	医師、看護師、臨床心理士	31名
H27. 7. 18-7. 19	第52回宮城県緩和ケア研修会	医師、看護師、薬剤師	48名
H27. 8. 29-8. 30	第53回宮城県緩和ケア研修会	医師、看護師	28名
H27. 9. 26-9. 27	第54回宮城県緩和ケア研修会	医師、看護師、薬剤師、作業療法士、理学療法士	39名
H27. 11. 7-11. 8	第55回宮城県緩和ケア研修会	医師、看護師	44名
H27. 12. 5-12. 6	第56回宮城県緩和ケア研修会	医師、看護師、薬剤師	47名
H28. 1. 23-1. 24	第57回宮城県緩和ケア研修会	医師、看護師、薬剤師	35名
H28. 2. 13-2. 14	第58回宮城県緩和ケア研修会	医師	39名

### 【放射線治療部会】

開催日	研修会等名	対象	参加者数
H27.12.11	宮城県がん診療提供体制の評価(放射線療法)	医師、医学物理士、診療放射線技師、事務	22名
H28.3.26	放射線治療・がん医療従事者勉強会	医師、医学物理士、診療放射線技師	38名

### 【地域連携パス部会】

開催日	研修会等名	対象	参加者数
H27.8.18	宮城県がん診療連携協議会地域連携パス部会	医師、看護師、MSW、事務	17名
H28.2.18	宮城県がん診療連携協議会地域連携パス部会	医師、看護師、MSW、事務	14名

## 2) がん登録事業

- ・ 平成 21 年 7 月に新たに宮城県がん診療連携協議会にがん登録部会を設置し、本院が担当し、第 1 回がん登録部会を平成 21 年 10 月 20 日に開催し、宮城県におけるがん診療連携拠点病院内がん登録データの分析及び評価等について検討している。

### ○ 本院

病院全体としての統一的かつ効率的ながん登録を支援する「院内がん登録システム」を開発し、平成 19 年 2 月から運用に供している。

今後、県内拠点病院に同システムを提供し普及させることにより、県内における院内がん登録の統一的推進を図る予定である。

### ○ 県立がんセンター

宮城県地域がん登録の集計、分析作業等を（財）対がん協会がん登録室と連携し実施しているほか、地域拠点病院を対象に院内がん登録の導入及び運用について、助言・指導を行っている。

## 3) 相談支援事業

- ・ 平成 21 年 7 月に新たに宮城県がん診療連携協議会に患者相談部会を設置し、県立がんセンターが担当し、平成 21 年 8 月にはセカンドオピニオン・患者相談窓口調査を、平成 21 年 12 月にはがん診療に関するアンケートの実施を行っている。

### ○ 本院

地域医療連携センター内に「がん診療相談室」を設置し、専任の相談員を配置し、病院内外の患者、家族及び地域医療機関等からの相談に対応している。

## 4) 地域連携クリティカルパス事業

- ・ 平成 21 年 7 月に新たに宮城県がん診療連携協議会に地域連携クリティカルパス部会を設置し、本院が担当し、第 1 回地域連携クリティカルパス部会を平成 21 年 12 月 4 日に開催し、がん診療連携拠点病院の指定要件を充足させるため、県内の地域連携クリティカルパスの作成に向けて取り組み、23 年 10 月から県内全域で使用できる 5 大がん統一パスの運用を開始した。

## 5) 情報・ネットワーク事業

### ○ 本院

県外医療機関との情報交換及び東北地方規模でのネットワーク体制の整備を図るため「東北がん評議会」、「東北 6 大学による意見交換会」及び「東北ネットワーク協議会」を開催、あるいは参加している。

### ○ 県立がんセンター

県内拠点病院による相談支援センター連絡協議会を設置し、情報の共有化、相互相談、相談事例の照会等を行っている。

## 2. 東北大学病院内事業

### (1) 部会からの報告

#### 診療部会

荒井陽一（部会長）

診療部会は、癌関連のカンファレンス、がん相談、地域連携クリティカルパス事業などを通じて、高度で先進的ながん診療をスムーズに提供するための活動を行っています。

#### 【東北大学病院臨床病理カンファレンス】

初期研修医の教育カリキュラムの機能とアドバンスド講義科目「がんプロ合同セミナー」の講義も兼ねています。初期研修医の参加を義務づけており、毎回多くの出席者による活発な議論が行われています。

開催日	発表者	症例	病理指導医	臨床指導医	参加人数
第1回 H27. 6. 1	佐藤 加奈 阿部 謙太郎	心筋生検にて巨細胞の出現を伴った劇症型心筋炎の一例	斎藤 涼子 臼渕 肇	青木 竜男 (循環器内科)	98名
	半沢 友理 曾我 天馬	前縦隔原発T細胞性リンパ芽球性リンパ腫の治療中に両下肢麻痺、痙攣を発症し、急激に悪化する呼吸不全により死亡した一例	村上 圭吾 北脇 優子	長谷川 慎 (血液・免疫科)	
第2回 H27. 9. 7	寺尾 千秋 穴倉 匡祐	極めて稀なアルドステロン単独産生の副腎皮質癌の1例	中村 保宏 山崎 有人	森本 玲 (腎・高血圧・内分泌化)	76名
	逸見 朋隆	Hirschsprung病にて大腸亜全摘後消化管運動機能障害のため小腸移植を施行され7年後に腹腔内出血にて死亡した一例	藤島 史喜 佐藤 直美	工藤 博典 (小児外科)	
第3回 H27. 12. 7	五十嵐 江美	認知症症状が出現し、筋萎縮性側索硬化症、前頭側頭葉変性症の臨床診断で経過観察中に重症肺炎で死亡した一例	佐藤 聡子 及川 麻理子	古川 勝敏 (老年科)	77名
	遠藤 愛子 渡邊 正太郎	臍帯血移植後早期に間質性肺炎を合併した皮膚原発T細胞性リンパ腫の一例	柴原 裕紀子 臼渕 肇	福原 規子 (血液・免疫科)	
第4回 H28. 2. 1	大江 崇 池田 春香	肺癌治療中に急性心筋梗塞を発症し呼吸機能悪化を来した一例	村上 圭吾 井上 千裕	岡崎 達馬 (呼吸器内科)	92名
	鍋井 敬文	拡張型心筋症と診断され脳出血を発症し死亡に至った一例	藤島 史喜 深谷 佐智子 安藤 紘花	秋山 正年 (心臓血管外科)	

【がん相談室・セカンドオピニオン外来の活動】

詳細については、がん相談室からの報告を参照してください。

【その他の活動】

宮城県がん診療協議会地域連携クリティカルパス部会にて、地域連携クリティカルパス事業を推進しています。中でも前立腺癌地域連携クリティカルパスの運用件数が急増しており、宮城県内の広い範囲で連携体制が構築されつつあります。

平成 27 年度 前立腺がん地域連携クリティカルパス運用実績報告

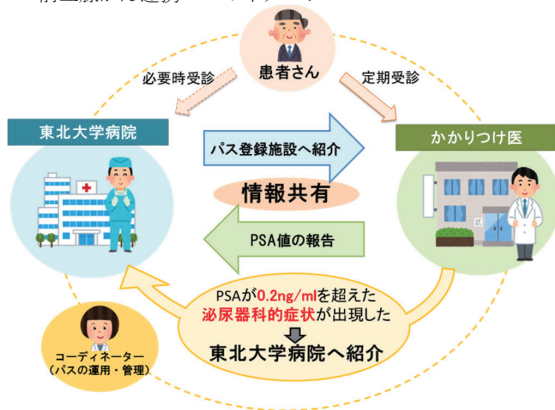
当院では平成 26 年度から、前立腺全摘術施行患者を対象とした地域連携クリティカルパス（以下、連携パス）を導入し、運用を開始している。

●前立腺がん地域連携パス～術後 PSA 経過観察～

【対象患者】前立腺全摘術施行患者

【適応条件】術後の病状が安定し、再発のリスクが低く、根治が期待される患者。

➤前立腺がん連携パスのイメージ



➤前立腺がん連携パス計画表

**前立腺がん地域連携クリティカルパス 「PSA経過観察」前立腺全摘術施行後**

地域医療機関とがん診療連携拠点病院が連携して、前立腺全摘術施行後の患者さんの経過観察を行うシステムです。

【対象者】  
術後の病状が安定し、再発のリスクが低く、根治が期待される患者さん  
【地域医療機関の先生方へお願いしたいこと】  
3～6ヶ月に1回、定期的な問診と採血  
→PSA（前立腺特異抗原）の値を確認していただくのみです。  
\*がん診療拠点病院にPSA値ご報告のFAXをいただきますと診療報酬の算定が可能です。  
【PSA測定のめやす】

術後	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年
測定間隔	3ヶ月に1回					6ヶ月に1回 (PSAの追加測定は、かかりつけの先生にご相談をお願いします)				

<再紹介のめやす> ① PSA値が 0.2ng/mlを超えた場合  
② 泌尿器科的な症状が出現した際

**東北大学病院 泌尿器科 へご紹介ください。**

\* PSA値の報告の際、がん診療連携拠点病院（B005-6-2/300点）の算定が可能です。

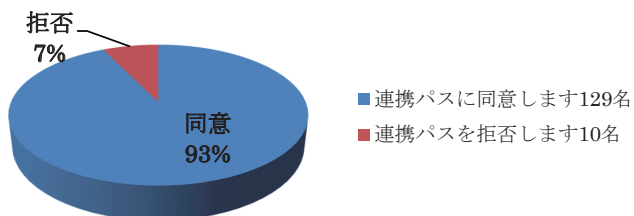
拠点病院/担当者名	東北大学病院 泌尿器科 / ○○○○
連絡先	022-717-7000

術後に予め登録された施設（紹介元・かかりつけ医等）へ紹介し、各施設において2年間は3ヶ月ごと、その後は半年ごとに腫瘍マーカーPSA（前立腺特異抗原）の測定を行う。数値が **0.2ng/ml** を超える場合、もしくは**泌尿器科的な症状が出現した場合**に当院へ戻る一部循環型システムである。

●前立腺がん連携パス介入患者

	患者数
平成 26 年度	45 名
平成 27 年度	94 名
計	139 名

地域連携パス同意率 (n=139)

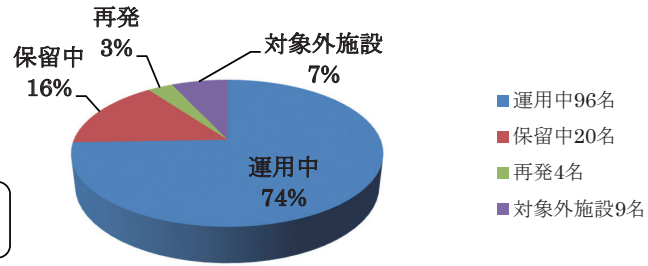


●同意患者 129名の経過

パス運用中	96名
保留中*	20名
再発	4名
施設対象外*	9名

〔保留中…医師の判断で連携パス保留中〕  
〔施設対象外…連携パスが不可能な施設〕

同意患者の経過 (n=129)



●連携パス患者 116名（運用中 96名・保留中 20名）の内訳

【患者居住地】

地域		人数
大崎・栗原医療圏	栗原市	6
	加美郡	4
	遠田郡	4
	大崎市	1
石巻・登米・気仙沼医療圏	石巻市	4
	登米市	2
	気仙沼市	2
	南三陸町	1
仙台医療圏	仙台市	62
	亘理郡	14
	黒川郡	6
	宮城郡	1
	多賀城市	1
仙南医療圏	柴田郡	2
	角田市	1
	刈田郡	1
宮城県外	青森県	2
	福島県	2
合計		116

～前立腺がんパス連携医療機関～

**大崎・栗原医療圏**  
平田内科整形外科/栗原中央病院/若柳病院/菅原内科クリニック/宮城島クリニック/渋谷皮膚科泌尿器科/岩淵胃腸科/内科医院/鈴木診療所/涌谷町国民健康保険病院/鈴木内科医院

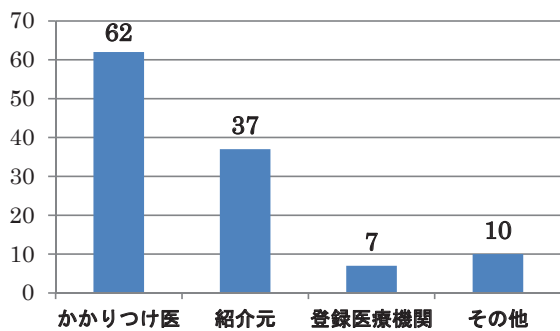
**石巻・登米・気仙沼医療圏**  
うちクリニック/やすらぎの里クリニック/気仙沼市立病院/南三陸病院/もうのファミリークリニック/三浦泌尿器科/かづま内科クリニック/仙石病院

**仙南医療圏**  
公立黒川病院/日吉たきむら内科/大清水県南中核病院/平井内科

**仙台医療圏**  
公立黒川病院/日吉たきむら内科/大清水県南中核病院/おおくま腎泌尿器科/八乙女クリニック/東岡内科醫院/仙台腎泌尿器科/南吉成クリニック/山形内科消化器科/おおひら内科クリニック/JR 仙台病院/若山医院/ふくじゅ草クリニック/内科佐藤病院/土橋内科医院/石川内科/大内医院/貝ヶ森きむら医院/川平内科/奥口内科クリニック/栗生内科胃腸科医院/長野内科胃腸科医院/仙台赤十字病院/あいクリニック/門間医院/仙台柳生クリニック/今井クリニック/小林内科医院/くまがいクリニック/佐藤内科外科クリニック/たかはし内科/つば町かず内科/五十人町おおも内科/三浦内科医院/東北医科薬科大学若柳病院/愛宕橋にしざわ脳神経外科/岩沼泌尿器科クリニック/菊地内科医院/浜吉田駅前内科/大友医院/ヒロミ小児科/松村クリニック/熊谷内科医院/三浦クリニック/高橋内科乳腺クリニック/柿沼循環器科

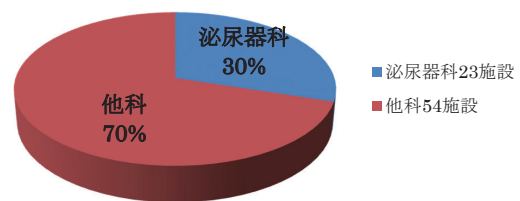
**県外** 【青森】 佐々木泌尿器科病院 【福島】 うめだ腎泌尿器科/石原クリニック

●連携パス患者 116名の紹介先



●前立腺がんパス連携医療機関：計 77 施設

連携医療機関 (n=77)



稼働開始から 2 年経過するが、現在まで大きな問題はなく、順調に運用継続できている。今後は長期にわたり本連携パスが機能していくよう、配慮や工夫をしていくことが重要であると考え。

(平成 26 年 5 月～平成 28 年 3 月分集計結果)

## がん研究部会

海野倫明（部会長）

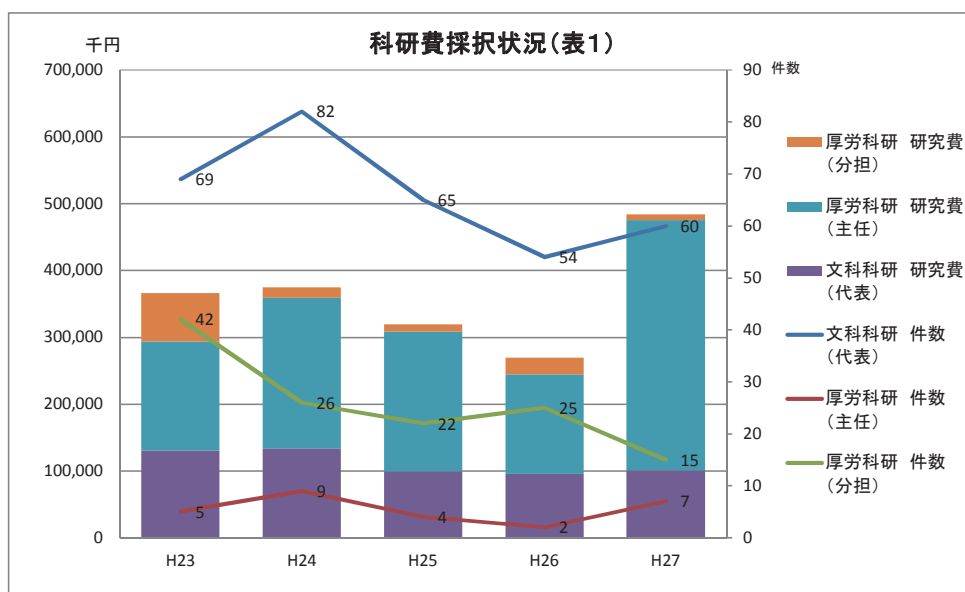
がん研究部会は、東北大学病院における「がん研究及びがん臨床試験の活動状況」を把握することを目的に、平成19年度から、がん研究及びがん臨床試験等に関する活動状況調査(アンケート調査)を実施している。

- 表1. がん研究に関する科学研究費採択状況
- 表2. がんの臨床試験に関する活動状況
- 表3. がんに関する受託研究、共同研究、治験の契約状況
  - アンケート依頼先：病院の各診療科・部、臨床試験推進センター、医学系研究科（保健学専攻を含む）、加齢医学研究所（臨床系）、歯学研究科の各分野

癌の臨床研究に関する科学研究費の採択状況の推移を見ると、平成22年度～24年度に比べて採択件数および金額は平成25年度、平成26年度ともにやや減少していたが、平成27年度は大幅に増加した。特に厚生労働省科学研究費補助金の獲得が大幅に伸びていることは大変喜ばしい。今後もさらに一層の競争的資金獲得を目指したい。また、がんの臨床研究（自主研究）の件数はほぼ横ばいであった。昨今の医療情勢と、新たに「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」が改定されたことが関係していると推察される。その一方で、受託研究・共同研究・治験の契約状況は、昨年度、一昨年度に比較し大幅な伸びを示しており、病院の経営にも大きく貢献していると考えられた。今後も東北大学病院がんセンターとして臨床研究に力強く取り組んでいきたい。

◎ 科研費採択状況(表1)

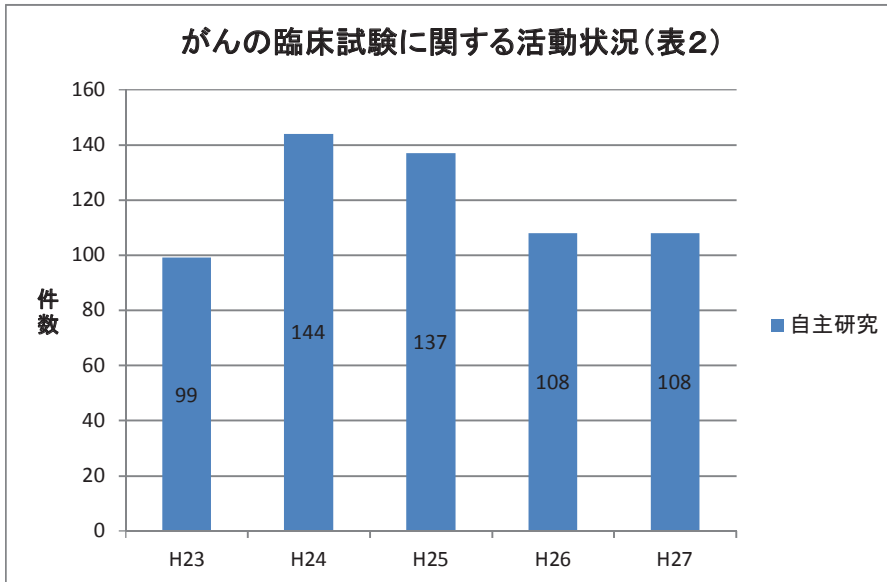
種別 \ 年度	H23	H24	H25	H26	H27
文科科研 件数 (代表)	69	82	65	54	60
厚労科研 件数 (主任)	5	9	4	2	7
厚労科研 件数 (分担)	42	26	22	25	15
文科科研 研究費 (代表)	130,430	133,200	99,100	95,600	100,830
厚労科研 研究費 (主任)	162,790	225,541	209,208	148,508	373,923
厚労科研 研究費 (分担)	72,893	15,570	10,660	24,928	8,804





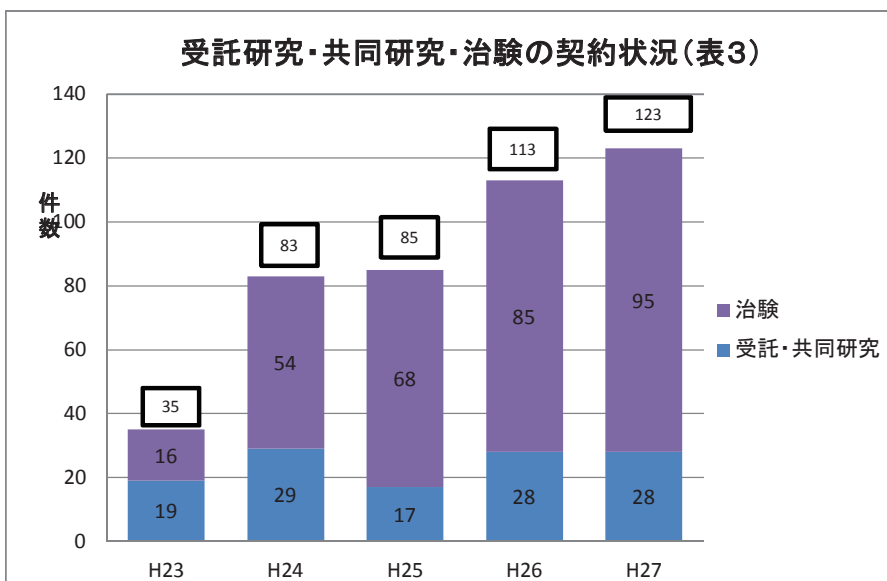
◎ がんの臨床試験に関する活動状況(表2)

種別	年度				
	H23	H24	H25	H26	H27
自主研究	99	144	137	108	108



◎ 受託研究・共同研究・治験の契約状況(表3)

種別	年度				
	H23	H24	H25	H26	H27
受託・共同研究	19	29	17	28	28
治験	16	54	68	85	95
合計	35	83	85	113	123



(表1)平成27年度がんに関する科学研究費補助金採択状況

番号	研究種目	代表分担の別	研究代表者名	課題番号	所属部局	所属診療科・分野	研究課題名
1	若手研究(B)	代表	佐藤 輝幸	15K19407	医学系研究科	呼吸器内科学分野	肺小細胞癌においてEZH2阻害剤がエピゲノムに及ぼす影響とその標的遺伝子群の同定
2	基盤研究(C)	代表	岡崎 達馬	26461176	大学病院	呼吸器内科	抗血管新生及び抗リンパ管新生療法による抗腫瘍免疫療法の効果増強作用の検討
3	若手研究(B)	代表	小林 誠	15K19408	大学病院	呼吸器内科	M-CSF誘発性リンパ管新生刺激因子 VEGF-C,Dの細胞内シグナル解析
4	基盤研究(C)	代表	高橋 雅信	15K08962	大学病院	腫瘍内科	大腸癌新規サブタイプ発癌に関わる小分子RNA機能の解明と新規治療標的分子の探索
5	基盤研究(B)	代表	石岡 千加史	15H04307	加齢研	臨床腫瘍学分野	高DNAメチル化型大腸癌の抗EGFR抗体薬耐性克服に関する研究
6	基盤研究(C)	代表	下平 秀樹	26460958	加齢研	臨床腫瘍学分野	進行大腸癌におけるレゴラフェニブ治療に対する階層的分子マーカーの探索
7	基盤研究(C)	代表	高橋 信	15K06851	加齢研	臨床腫瘍学分野	TP53 signatureの診断キット開発と検証のための後ろ向き観察研究
8	挑戦的萌芽研究	代表	吉田 紀子	15K15108	医学系研究科	先進外科学分野	乳癌における膜型ERの蛍光ナノ粒子による高精度定量化及び臨床検体におけるその応用
9	若手研究(B)	代表	戸子台 和哲	26861036	東北メディカル・メガバンク機構	地域医療支援部門	Luminex法を用いた臓器移植後抗HLA抗体の慢性拒絶反応における役割の解明
10	基盤研究(C)	代表	多田 寛	26460639	大学病院	乳腺・内分泌外科	乳癌術前化学療法後の転移リンパ節での乳癌幹細胞の量・機能の高感度蛍光ナノ解析
11	若手研究(B)	代表	佐藤 章子	26830093	大学病院	乳腺・内分泌外科	解糖系亢進に基づく乳癌新規治療法の探索と事前効果予測に関する研究
12	若手研究(B)	代表	宮下 穰	26830094	大学病院	乳腺・内分泌外科	トリプルネガティブ乳癌における治療アルゴリズムの構築:臓器横断的アプローチ
13	基盤研究(A)(一般)	代表	大内 憲明	25253039	医学系研究科	腫瘍外科学分野	乳癌HER familyの高感度ナノ定量化による分子標的治療効果予測の基盤整備
14	基盤研究(C)(一般)	代表	渡部 剛	15K10045	医学系研究科	腫瘍外科学分野	シリコンフォトマル薄型PEMを用いた乳房温存ナビゲーション手術の確立
15	研究活動スタート支援	代表	村上 徹	15H06040	大学病院	麻酔科	患者皮膚由来シュワン細胞を用いた難治性神経障害性疼痛の治療戦略
16	基盤研究(C)	代表	桜田 晃	25462170	大学病院	呼吸器外科	喀痰中のマイクロRNAを用いた肺癌の早期発見に関する研究
17	基盤研究(C)	代表	徳永 英樹	15K10698	大学病院	婦人科	子宮内膜癌における筋層浸潤と局所免疫反応の解析
18	基盤研究(C)(一般)	代表	新倉 仁	26462510	医学系研究科	婦人科学分野	子宮体癌センチネルリンパ節転移の腫瘍量、形態による2次リンパ節転移のリスク評価
19	挑戦的萌芽研究	代表	八重樫 伸生	26670710	大学病院	産婦人科	卵巣がんの超早期発見に向けた卵管采部の病理学的検索及び血中循環DNA測定
20	基盤研究(B)	代表	八重樫 伸生	15H04978	大学病院	産婦人科	日本人標準ゲノムとジャポニカアレイを用いた子宮内膜症発症の遺伝要因解明
21	基盤研究(B)	代表	宇都宮 裕貴	26293356	大学病院	産婦人科(周産母子センター)	レチノイン酸によるアポトーシス関連遺伝子を介した子宮内膜癌増殖制御機構の解明
22	基盤研究(C)	代表	三塚 浩二	15K10571	大学病院	泌尿器科	日本人前立腺癌患者に対するホルモン療法の有害事象の検証と対策
23	基盤研究(C)	代表	山下 慎一	15K10572	大学病院	泌尿器科	新規パルスジェットメスによる無阻血腎部分切除術の開発
24	基盤研究(B)(一般)	代表	荒井 陽一	26293348	医学系研究科	泌尿器科学分野	前立腺全摘術後の機能的アウトカムを改善させる神経温存方法の確立

25	基盤研究(C)(一般)	代表	山田 成幸	15K10570	医学系研究科	泌尿器科学分野	長期予後を持つ精巣癌患者QOL維持のために、新規QOL評価法を確立
26	基盤研究(C)(一般)	代表	伊藤 明宏	25462465	医学系研究科	泌尿器科学分野	糖鎖バイオマーカーによる予後予測で、理想的な前立腺癌治療が提供可能となる
27	基盤研究(C)(一般)	代表	川崎 芳英	26430153	医学系研究科	泌尿器科学分野	脂質ラフトをターゲットとした腎癌に対する新規分子標的治療の構築
28	基盤研究(C)(一般)	代表	齋藤 英郎	26462393	医学系研究科	泌尿器科学分野	日本人独自のノモグラムによる腎腫瘍に対する標準的治療法の確立
29	基盤研究(C)(一般)	代表	佐藤 信	26462394	医学系研究科	泌尿器科学分野	DSGb5糖鎖は、泌尿器癌バイオマーカーになり得るか？
30	基盤研究(C)	代表	川口 奉洋	26462196	大学病院	脳神経外科(高度救命救急センター)	パルスジェットメスによる深部頭蓋底腫瘍摘出法の開発
31	基盤研究(B)	代表	中川 敦寛	15H04945	大学病院	脳神経外科(高度救命救急センター)	組織切開・形態学的温存下に切開面周囲に薬液浸潤可能な衝撃波メスの開発
32	基盤研究(B)(一般)	代表	齋藤 竜太	26293319	医学系研究科	神経外科学分野	局所広範囲ドラッグデリバリー技術の安定化と汎用化に向けた研究
33	基盤研究(C)(一般)	代表	遠藤 俊毅	26462197	医学系研究科	神経外科学分野	パルスジェットメスによる脊髄神経機能温存下脊髄腫瘍摘出法の開発
34	基盤研究(C)	代表	小川 武則	26462595	大学病院	耳鼻咽喉・頭頸部外科	質量分析計を用いた新規頭頸部癌唾液、血液マーカーの検出
35	若手研究(B)	代表	中目 亜矢子	15K20176	大学病院	耳鼻咽喉・頭頸部外科	次世代シーケンサー、マイクロアレイを用いた頭頸部多段階がん機構の解明
36	基盤研究(C)(一般)	代表	石田 英一	25462673	医学系研究科	耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	マイクロアレイを用いたHPV関連頭頸部発癌と予後に関わるマイクロRNA異常解析
37	若手研究(B)	代表	石川 陽二郎	15K19765	大学病院	放射線治療科	体幹部定位放射線治療における視認下能動的呼吸停止システム基盤の開発研究
38	若手研究(B)	代表	神宮 啓一	26860970	医学系研究科	放射線腫瘍学分野	放射線治療における経皮的挿入型体内緩徐吸収性スペースターの基礎的研究と臨床応用
39	若手研究(B)	代表	森 菜緒子	25861058	大学病院	放射線診断科	乳癌biomarkerとしての3テスラMRI拡散強調画像の撮像法、評価法の確立
40	若手研究(B)	代表	嶋内 亜希子	26860972	大学病院	放射線診断科	マイクロバブルを用いた血管密度解析による、乳癌微小リンパ節転移診断法の確立
41	基盤研究(C)	代表	前川 由依	15K09913	大学病院	放射線診断科	乳房拡散強調画像推奨プロトコール作成とADC値標準化に関する研究
42	若手研究(B)	代表	角谷 倫之	15K19199	大学病院	放射線診断科	子宮頸がんに対する外部照射と腔内照射の高精度な積算線量評価システムの開発
43	基盤研究(C)(一般)	代表	高澤 千晶	26461783	医学系研究科	放射線診断学分野	マイクロバブル造影超音波とMRI画像の3次元融合による乳癌微小環境の定量化
44	特別研究員奨励費	代表	李 麗	25-03410	医学系研究科	放射線診断学分野	頭蓋内胚細胞腫瘍生存例における放射線誘発認知機能障害:MR機能画像による病態解明
45	基盤研究(C)	代表	豊島 将文	26462509	大学病院	周産母子センター	がん患者の血栓症予防を目的としたMET-PAII経路阻害による分子標的治療開発
46	基盤研究(C)	代表	有永 洋子	25463419	大学病院	がんセンター	アロマセラピーとエクササイズを用いた乳がん関連リンパ浮腫自己管理プログラムの効果
47	基盤研究(C)	代表	丹田 奈緒子	15K11408	大学病院	予防歯科	食道癌発現促進因子としての口腔細菌叢機能の網羅的解析
48	基盤研究(C)(一般)	代表	福重 真一	15K08392	医学系研究科	分子病理学分野	DNA脱メチル化技術を用いた前立腺癌細胞増殖に関与する高度メチル化遺伝子の探索
49	基盤研究(C)(一般)	代表	齋木 由利子	15K10084	医学系研究科	分子病理学分野	マイクロRNAによる食道癌の抗がん剤感受性予測システムの確立

50	基盤研究(C)(一般)	代表	堀井 明	26460468	医学系研究科	分子病理学分野	リプログラミングによるがんの制御法の開発
51	基盤研究(B)(一般)	代表	佐藤 富美子	26293460	医学系研究科	保健学科 がん看護学分野	乳がん体験者の生活の再構築を促進する長期リハビリケアプログラムの構築に関する研究
52	基盤研究(B)(一般)	代表	宮下 光令	25293165	医学系研究科	保健学科 緩和ケア看護学分野	がん患者に対する緩和医療の質の評価方法の確立
53	挑戦的萌芽研究	代表	宮下 光令	15K15161	医学系研究科	保健学科 緩和ケア看護学分野	進行がん患者の抗がん剤治療の目的の理解度と終末期医療に関する医師との話し合い
54	若手研究(B)	代表	佐藤 一樹	15K20692	医学系研究科	保健学科 緩和ケア看護学分野	終末期在宅療養推進のための在宅医療のあり方: Mixed Methods研究
55	若手研究(B)	代表	佐藤 一樹	24792424	医学系研究科	保健学科 緩和ケア看護学分野	在宅緩和ケアの質の簡便な評価方法の開発
56	基盤研究(C)(一般)	代表	齋藤 秀光	15K04108	医学系研究科	保健学科 精神看護学分野	緩和ケア家族の死別反応予測因子の検討及び精神支援の有用性に関する研究
57	基盤研究(C)(一般)	代表	石橋 忠司	25461799	医学系研究科	保健学科 画像診断学分野	デジタルマンモグラフィソフトコピー標準化に関する研究
58	基盤研究(C)	代表	吉田 英子	25463235	歯学研究科	予防歯科学分野	軟組織創傷治癒過程を加味した頭頸部がんリハビリテーション診療ガイドラインの提言
59	基盤研究(C)	代表	細川 亮一	15K11409	歯学研究科	予防歯科学分野	放射線治療における口腔粘膜炎症因子と予防薬の網羅的解析に関する研究
60	基盤研究(B)	代表	小関 健由	26293440	歯学研究科	予防歯科学分野	新しい口腔粘膜脈管系炎症評価法と粘膜マッピング法による口腔粘膜炎症予防法の開発
61	AMED委託研究開発費	分担	福原 規子	15ck0106077s0502	病院	血液・免疫科	高齢者多発性骨髄腫腫瘍に対する至適な分子標的療法の確立と治療効果および有害事象を予測するバイオマーカーの探索的研究
62	AMED委託研究開発費	代表	石岡 千加史	15cm0106057h0005	加齢研	臨床腫瘍学分野	「創薬コンセプトに基づく戦略的治療デザインの確立」(大腸がん治療反応性を予測するバイオマーカーの探索)
63	AMED補助金シーズB18	代表	石岡 千加史		病院	腫瘍内科	「HDAC/PI3K 2重阻害作用を有する新規デブシペプチド類縁体の開発」
64	AMED委託研究開発費	分担	川岸 直樹	15fk0210003h0002	病院	移植・再建・内視鏡外科	多施設共同研究による肝移植後肝炎ウイルス新規治療の確立と標準化
65	AMED委託研究開発費	代表	大内 憲明	15ck0106019h0002	医学系研究科	腫瘍外科学分野	乳がん検診における超音波検査の有効性検証に関する研究
66	厚生労働科学研究費補助金	分担	大内 憲明	H27-がん対策一般-004	医学系研究科	腫瘍外科学分野	研究者と自治体の協働による、がん検診受診率向上等、自分自身で健康を守るための国民の行動変容を促す方法の開発と評価
67	AMED委託研究開発費	分担	保坂 正美	15ck0106087h0002	医学系研究科	整形外科学分野	高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究
68	AMED委託研究開発費	分担	高野忠夫	15ck0106057h0002	病院	産婦人科(臨床研究推進センター)	上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験
69	AMED委託研究開発費	分担	高野忠夫	15ck0106052s0602	病院	産婦人科(臨床研究推進センター)	早期子宮頸がんに対する機能温存低侵襲手術の確立に関する研究
70	AMED委託研究開発費	分担	荒井 陽一	15lk0103008h0004	医学系研究科	泌尿器科学分野	標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発
71	AMED委託研究開発費	分担	富永 梯二	15ck0106086h0002	医学系研究科	神経外科学分野	標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクチンの第三相臨床研究
72	AMED委託研究開発費	分担	笹原 洋二	15Aek0106004h0003	医学系研究科	小児病態学分野	難治性神経膠芽腫に対するIL2、CSF併用ch14.18免疫療法の国内臨床開発
73	厚生労働科学研究費補助金	分担	笹原 洋二	H26-がん政策一般-004	医学系研究科	小児病態学分野	小児がん拠点病院を軸とした小児がん医療提供体制のあり方に関する研究
74	AMED委託研究開発費	分担	菊地 克子	15ck0106061s0302	病院	皮膚科	がん治療に伴う皮膚変化の評価方法と標準的ケアの確立に関する研究

75	厚生労働科学研究費補助金	分担	渡辺 みか	H27-特別一指定—033	病院	病理部	Whole Slide Imaging(WSI)による病理診断の多施設検証研究
76	厚生労働科学研究費補助金	分担	宮下 光令	H26-がん政策—一般-018	医学系研究科	保健学科 緩和ケア看護学分野	働くがん患者の職場復帰支援に関する研究—病院における離職予防プログラム開発評価と企業文化づくりの両面から
77	厚生労働科学研究費補助金	分担	宮下 光令	H27-がん対策—指定-007	医学系研究科	保健学科 緩和ケア看護学分野	がん診療拠点病院におけるがん疼痛緩和に対する取り組みの評価と改善に関する研究
78	AMED委託研究開発費	代表	宮田 敏男	15lk0201008h0004	医学系研究科	分子病態治療学分野	PAI-1阻害に基づく新規放射線障害治療薬の臨床開発
79	AMED委託研究開発費	代表	宮田 敏男	15Ack0106145h0001	医学系研究科	分子病態治療学分野	慢性骨髄性白血病に対する根治薬の臨床開発研究
80	AMED委託研究開発費	代表	宮田 敏男	15cm0106096h0002	医学系研究科	分子病態治療学分野	がん幹細胞を標的とした根治療法の開発(慢性骨髄性白血病(CML)幹細胞標的薬の開発研究)
81	厚生労働科学研究費補助金	分担	佐藤 文俊	H27-難治等(難)—一般-027	医学系研究科	難治性高血圧・内分泌代謝疾患地域連携寄附講座	副腎ホルモン産生異常に関する調査研究
82	AMED委託研究開発費	代表	三枝 大輔	15gm0710001h0203	医学系研究科	医化学分野(兼任) メディカルメガバンク機構・ゲノム解析部門	疾患関連リソリン脂質の同定と医療応用

(表2)平成27年度 がんの臨床試験に関する活動状況

番号	氏名	区分 (科研費、 自主研究等)	代表・ 分担の別	分担者の場合の代表者の 所属機関・職・氏名	研究名称・課題名	臨床試験の 対象地域・施設	フェーズ	期 間	UMIN等への 登録の有無	左記登録WebサイトURL
1	張替 秀郎	科研費	分担	愛知県がんセンター 中央病院 血液・細胞療法部 森島 泰雄	高リスクDLBCLに対する導入化学療法 (bi-R-CHOP療法またはbi-R-CHOP/CHASER療法)と大量化学療法 (LEED)の有用性に関するランダム化第Ⅱ相試験	JCOG	Ⅱ		有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000004501&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000004501&amp;language=J</a>
2	張替 秀郎	科研費	分担	国立がん研究センター東病院 血液腫瘍科 塚崎 邦弘	成人T細胞白血病・リンパ腫に対する骨髄破壊の前処置法を用いた同種造血幹細胞移植療法を組み込んだ治療法に関する第Ⅱ相試験	JCOG	Ⅱ		有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000004838&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000004838&amp;language=J</a>
3	張替 秀郎	科研費	分担	愛知県がんセンター 血液・細胞療法部 部長 木下 朝博	未治療進行期低リスク群のびまん性大細胞型Bリンパ種に対するR-CHOP療法におけるRituximabの投与スケジュールの検討を目的としたランダム化第Ⅱ/Ⅲ相試験	JCOG	Ⅱ/Ⅲ		有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000001100&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000001100&amp;language=J</a>
4	張替 秀郎	科研費	分担	国立がん研究センター東病院 血液腫瘍科 塚崎 邦弘	成人T細胞白血病・リンパ腫に対するインターフェロンα/ジドブジン併用療法とWatchful Waiting療法の第Ⅲ相ランダム化比較試験	JCOG	Ⅲ		有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000013709&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000013709&amp;language=J</a>
5	張替 秀郎	科研費	分担	名古屋市立大学病院 血液・膠原病内科 飯田 真介	高齢者または移植拒否若年者の未治療症候性骨髄腫患者に対するmelphalan+prednisolone+bortezomib (MPB) 導入療法のランダム化第Ⅱ相試験	JCOG	Ⅱ		有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000013023&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000013023&amp;language=J</a>
6	井上 彰	自主研究	分担	仙台厚生病院 部長・菅原 俊一	局所進行非小細胞肺癌への化学放射線療法におけるシスプラチン+UFTとシスプラチン+ペムトレキセドの無作為化第Ⅱ相試験	北日本肺癌臨床研究会	Ⅱ	2010.8～ 2015.7	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000004746&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000004746&amp;language=J</a>
7	井上 彰	自主研究	分担	宮城県がんセンター 医療部長・前門戸 任	非小細胞肺癌に対するTS-1隔日投与法の検討	北日本肺癌臨床研究会	Ⅱ	2012.1～ 2013.12	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000008215&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000008215&amp;language=J</a>
8	石岡 千加史	自主研究	代表		T-CORE1201: KRAS遺伝子野生型の治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌に対する2次治療としてのCetuximab(q2w)+mFOLFFOX6またはCetuximab(q2w)+mFOLFIRI療法の臨床第Ⅱ相試験及び治療効果を予測するバイオマーカーの検討	主に東北地方 (東北臨床腫瘍研究会)	Ⅱ	2012.3～ 2016.6	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000009444&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000009444&amp;language=J</a>
9	石岡 千加史	自主研究	共代表	東北大学加齢医学研究所・石岡千加史、北海道大学病院・小松嘉人、埼玉医科大学国際医療センター・嶋田顕、国立がん研究センター中央病院・山田康秀	T-CORE1202: 切除不能大腸癌1次治療におけるTS-1, irinotecan, bevacizumab併用療法の有用性を検証する臨床第Ⅲ相試験	全国	Ⅲ	2012.4～ 2015.4	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000008819&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000008819&amp;language=J</a>
10	石岡 千加史	自主研究	代表		フッピリジンを含む化学療法に不応の高齢者治癒切除不能進行・再発大腸癌患者に対するトリフルリジン・チニバル塩酸塩療法の第Ⅱ相臨床試験 (T-core1401)	主に東北地方 (東北臨床腫瘍研究会)	Ⅱ	2015年2月 ～2018年1月	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000020373&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000020373&amp;language=J</a>
11	西條 憲	医師主導	分担	国立がんセンター東病院・頭頸部内科長・田村 信	再発・転移頭頸部扁平上皮癌に対するPaclitaxel+Carboplatin+Cetuximab(CE)併用療法の第Ⅱ相試験	全国	Ⅱ	2013.6～ 2015.5	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000012287&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000012287&amp;language=J</a> <a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000012287&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000012287&amp;language=J</a>
12	下平 秀樹	自主研究	分担	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 臨床医学系消化器内科 兵頭 一之介	高度腹水を伴うまたは経口摂取不能の腹膜転移を有する胃癌に対する5-FU/LV療法 vs. FLTX(5-FU/LV+PTX)療法のランダム化第Ⅱ/Ⅲ相比較試験	全国	Ⅱ/Ⅲ	2013年6月 ～2017年7月	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000012788&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000012788&amp;language=J</a>
13	下平 秀樹	自主研究	分担	山形大学 医学部・腫瘍学講座 教授・吉岡 孝志	T-CORE1203: トラスツマブを含む初回化学療法に不応のHER2過剰発現を有する治癒切除不能進行・再発胃癌に対するトラスツマブドセタキセル併用療法の第Ⅱ相試験	主に東北地方 (東北臨床腫瘍研究会)	Ⅱ	2013.4～ 2017.4	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000012560&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000012560&amp;language=J</a>
14	高橋 雅信	自主研究	分担	慶応義塾大学医学部 一般・消化器外科 北川 雄光	臨床病期ⅠB/Ⅱ/Ⅲ食道癌(T4除く)に対する術前CF療法/術前DCF療法/術前CF-RT療法の第Ⅲ相比較試験 (JCOG1109)	日本全国 (JCOG)	Ⅲ	2013年6月 ～2024年8月	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000011013&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000011013&amp;language=J</a>
15	高橋 雅信	自主研究	分担	国立がん研究センター 中央病院 飛内 賢正	消化管・肝胆膵原発の切除不能・再発神経内分泌癌 (NEC)を対象としたEP療法とIP療法のランダム化比較試験 (JCOG1213)	日本全国 (JCOG)	Ⅲ	2014年10月 ～2021年7月	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000017173&amp;type=summary&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000017173&amp;type=summary&amp;language=J</a>
16	高橋 雅信	自主研究	分担	慶応義塾大学医学部 一般・消化器外科 北川 雄光	切除不能または再発食道癌に対するCF療法とbDCF療法のランダム化第Ⅲ相比較試験	日本全国 (JCOG)	Ⅲ	2014年10月 ～2020年3月	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000017550&amp;type=summary&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000017550&amp;type=summary&amp;language=J</a>
17	高橋 昌宏	自主研究	分担	京都大学医学部大学院研究科 臨床腫瘍学講座 金井 雅史	切除不能胆道癌に対するGEM/GDDP/S-1とGEM/GDDPを比較するランダム化第Ⅲ相試験	全国	Ⅲ	2014年10月 ～2019年9月	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000016723&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000016723&amp;language=J</a>

(表2)平成27年度 がんの臨床試験に関する活動状況

18	高橋 雅信	自主研究	分担	国立がん研究センター 中央病院・食道外科 井垣 弘泰	臨床病期(cinical-T1N0M0)食道癌に対する食道切除術と化学放射線療法同時併用療法(CDDP+5FU+RT)のランダム化比較試験JCOG0502	日本全国 (JCOG)	II	2006.12～ 2017.12	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000000668&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000000668&amp;language=J</a>
19	高橋 雅信	自主研究	分担	慶応義塾大学 医学部・外科 北川 雄光	臨床病期II/III(T4を除く)食道癌に対する根治的放射線療法 +/- 救済治療の第II相試験 (JCOG0909, EC-CRT+Salvage-P2)	日本全国 (JCOG)	II	2010.4～ 2018.4	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000004179&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000004179&amp;language=J</a>
20	高橋 雅信	自主研究	分担	山形大学 医学部・腫瘍学講座 教授・吉岡 孝志	T-CORE 1102 S-1術後補助化学療法後再発HER2陰性胃癌に対するXP(カベンタピン+シスプラチン)療法の第II相臨床試験	主に東北地方 (東北臨床腫瘍研究会)	II	2012.3～ 2016.1	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000008053&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000008053&amp;language=J</a>
21	森 隆弘	自主研究	分担	和歌山県立医科大学 第2外科 山上 裕機	標準療法不応の進行・再発食道癌に対する新規腫瘍抗原と腫瘍新生血管関連遺伝子由来ペプチドを用いた新規ペプチドワクチン療法 -第I/II相臨床試験-	全国	I/II	2013年8月 ～2016年8月	無	
22	海野 倫明	自主研究	代表		進行胆管癌に対する術前化学放射線療法の有効性と安全性の検討-第II相試験	東北大学病院	II		有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;recptno=R000002093&amp;type=summary&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;recptno=R000002093&amp;type=summary&amp;language=J</a>
23	海野 倫明		分担	東京大学医学部 附属病院	初発肝細胞癌に対する肝切除とラジオ波焼灼療法の有効性に関する多施設共同ランダム化並行群間比較試験	全国	III		有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;recptno=R000002165&amp;type=summary&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;recptno=R000002165&amp;type=summary&amp;language=J</a>
24	海野 倫明	自主研究	代表		大腸癌肝転移切除後化学療法としてのXELOX(Capecitabine+Oxaliplatin)+ベハズマブ療法第II相臨床試験	関連病院	II		有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;recptno=R000004184&amp;type=summary&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;recptno=R000004184&amp;type=summary&amp;language=J</a>
25	海野 倫明	厚生 科研究費	分担	国立がん研究センター 中央病院 肝胆外科・小菅 智男	膵がん切除患者を対象としたゲムシタピンとS-1の併用療法(GS療法)をゲムシタピン単独療法と比較する術後補助化学療法のランダム化第III相試験	全国	III	2010.11～	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;recptno=R000005242&amp;type=summary&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;recptno=R000005242&amp;type=summary&amp;language=J</a>
26	海野 倫明	自主研究	代表		若年者胆道癌の発症要因に関する研究-日本肝胆膵外科学会プロジェクト委員会 胆04研究	日本肝胆膵外科学会 高度技能修練施設(211施設)	調査研究 (後向き観察研究)	2013年1月 ～2014年3月	無	
27	海野 倫明	自主研究	代表		胆道癌術後補助化学療法におけるゲムシタピン塩酸塩とテガフル・ギメラシル・オテラルカリウム配合剤の有効性の比較(無作為割り付け比較第II相試験)	関連病院	II	2013.9- 2018.8	予定	
28	海野 倫明	自主研究	代表		進行胆管癌症例に対する塩酸ゲムシタピンとテガフル・ギメラシル・オテラルカリウム配合剤併用術前化学療法の安全性・有効性の検討)	東北大学病院	I-II	2011.4- 2016.3	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;recptno=R000005932&amp;type=summary&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;recptno=R000005932&amp;type=summary&amp;language=J</a>
29	海野 倫明	自主研究	代表		塩酸ゲムシタピン、テガフル・ギメラシル・オテラルカリウム配合剤およびシスプラチンに不応となった切除不能進行・再発胆道癌に対するパニツマブ単剤治療の安全性および奏効率の評価	東北大学病院	I-II	2011.4- 2016.3	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;recptno=R000004626&amp;type=summary&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;recptno=R000004626&amp;type=summary&amp;language=J</a>
30	海野 倫明		分担	東京大学大学院 國土 典宏	KRAS野生型切除可能大腸癌肝転移に対する術後補助化学療法mFOLFOX6と周術期化学療法mFOLFOX6+セツキシマブの第III相ランダム化比較試験(EXPERT試験)	全国	III	2012.5.1-	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;recptno=R000009175&amp;type=summary&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;recptno=R000009175&amp;type=summary&amp;language=J</a>
31	海野 倫明		分担	岩手医科大学 若林 剛	EGFR陽性・KRAS遺伝子野生型の結腸・直腸癌肝転移例における治療切除不応例に対するCetuximab併用療法の検討(FOCAL Study)	東北	II	2010.12.1- 2017.12.1	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;recptno=R000005566&amp;type=summary&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;recptno=R000005566&amp;type=summary&amp;language=J</a>
32	海野 倫明		分担	弘前大学大学院医学研究科 袴田 健一	KRAS遺伝子野生型切除不能・進行再発大腸癌に対する一次治療としてのIRIS+Panitumumab併用療法臨床第II相試験(TOHOKU POWER trial)	東北6大学	II		有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;recptno=R000009916&amp;type=summary&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;recptno=R000009916&amp;type=summary&amp;language=J</a>
33	海野 倫明	自主研究	代表		膵腫瘍手術症例における膵腫瘍組織Corticotropin-Releasing Hormone発現と予後との相関研究ならびにQOL調査の前向きコホート研究	東北大学病院	観察研究	2012/12/20	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;recptno=R000011043&amp;type=summary&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;recptno=R000011043&amp;type=summary&amp;language=J</a>
34	海野 倫明	自主研究	代表		塩酸ゲムシタピン及びS1不応切除不能進行/再発膵癌に対するFOLFOX療法の前向き試験	東北大学病院	II	2012.5.1-	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;recptno=R000008356&amp;type=summary&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;recptno=R000008356&amp;type=summary&amp;language=J</a>
35	海野 倫明	自主研究	代表		膵癌術前化学療法としてのGemcitabine+S1療法(GS療法)の第II相臨床試験(NACGS2+2)	東北大学病院	II	2012/10/5	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;recptno=R000010488&amp;type=summary&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;recptno=R000010488&amp;type=summary&amp;language=J</a>

(表2)平成27年度 がんの臨床試験に関する活動状況

36	海野 倫明	自主研究	代表		術前画像陰性・術中診断陽性の転移性膵癌に対する主病巣・転移巣切除の安全性・有効性の検証	東北大学病院	I	2013.1.9-	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;rcptno=R000009464&amp;type=summary&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;rcptno=R000009464&amp;type=summary&amp;language=J</a>
37	海野 倫明		分担	和歌山県立医科大学 山上裕機	切除不能進行膵癌(局所進行又は転移性)に対するTS-1通常投与法とTS-1隔日投与法のランダム化第II相試験	全国	II	2012.8.3- 2016.7.31	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;rcptno=R000010116&amp;type=summary&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;rcptno=R000010116&amp;type=summary&amp;language=J</a>
38	海野 倫明	自主研究	代表		高速液体クロマトグラフィー-接続型タンデム質量分析装置-LC-MS/MSによるタンパク質絶対定量法を用いた腫瘍組織における薬物代謝酵素群発現量測定と、膵癌術後補助化学療法としてのゲムタビンの効果予測への応用	東北大学病院	観察研究	2011.9.1-	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;rcptno=R00007402&amp;type=summary&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;rcptno=R00007402&amp;type=summary&amp;language=J</a>
39	海野 倫明	自主研究	代表		胃全摘術後症例を対象とするリバクレオン投与による栄養状態改善・便性改善の効果	東北大学病院	II	2012.4.1-	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;rcptno=R000008038&amp;type=summary&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;rcptno=R000008038&amp;type=summary&amp;language=J</a>
40	海野 倫明	自主研究	代表		腹腔鏡手術後における静脈血栓塞栓症予防に対する低分子量ヘパリン(Enoxaparin Sodium)の有効性についての無作為化比較試験	関連病院	III	2013.2.1- 2016.7.31	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;rcptno=R000010691&amp;type=summary&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;rcptno=R000010691&amp;type=summary&amp;language=J</a>
41	大沼 忍	自主研究	分担	国立がんセンター東病院 吉野孝之	Stage III結腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFOX療法またはXEROX療法における5-FU系抗がん剤およびオキサリプラチンの至適投与期間に関するランダム化第III相比較試験(Achieve Trial)(JFMC47-1202-C3)	多施設共同試験	III	2012.9- 2021.	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;rcptno=R000010043&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;rcptno=R000010043&amp;language=J</a>
42	大沼 忍	自主研究	分担	弘前大学 消化器外科 袴田健一	KRAS遺伝子や性型切除不能・進行再発大腸癌に対する一次治療としてのIRIS+Panitumumab併用療法	多施設共同試験	II	2012.10- 2015.7.	無	
43	工藤 克昌	自主研究	分担	大阪市立大学 平川 弘聖	切除不能進行・再発胃癌症例に対するTS-1の連日投与法および隔日投与法のランダム化第II相試験(JFMC43-1003)	全国多施設共同試験	II	2010.12~	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;rcptno=R000005467&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;rcptno=R000005467&amp;language=J</a>
44	工藤 克昌	自主研究	代表		胃全摘術後症例を対象とするリバクレオン投与による栄養状態改善・便性改善の効果	東北大学病院	II	2012.4~ 2014.3	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;rcptno=R000008038&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;rcptno=R000008038&amp;language=J</a>
45	工藤 克昌	自主研究	分担	東京大学 胃食道外科 瀬戸泰之	胃癌手術症例における術後食事摂取量調査(観察研究)	全国多施設共同試験		2012.11~ 2013.3	無	
46	工藤 克昌	自主研究	分担	岐阜大学 吉田 和弘	治療不能進行・再発胃癌症例におけるHER2の検討-観察研究-	全国多施設共同試験		2011.9~ 2016.8	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;rcptno=R000007324&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;rcptno=R000007324&amp;language=J</a>
47	佐々木 巖	自主研究	分担	新潟大学 消化器外科 神田 達夫	切除可能な消化管間質腫瘍(GIST)肝転移患者の治療方法に関する第II相試験 《イマチニブ療法》 GIST研究会臨床試験(B)	全国多施設共同試験	II	2008.10~	有	<a href="http://www.cancer.gov/clinicaltrials/search/view?cdrid=615624&amp;version=HealthProfessional&amp;protocolsearchid=9088462">http://www.cancer.gov/clinicaltrials/search/view?cdrid=615624&amp;version=HealthProfessional&amp;protocolsearchid=9088462</a>
48	佐々木 巖	自主研究	分担	東京医科歯科大学 教授・杉原 建一	治療不能進行結腸癌(stage III)を対象としたフッ化ピリミジン系薬剤を用いた術後補助化学療法の個別化治療に関するコホート研究	全国多施設共同試験		2009.5~	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;rcptno=R000002452&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;rcptno=R000002452&amp;language=J</a>
49	佐々木 巖	自主研究	分担	国立病院機構 大阪医療センター 外科・黒川 幸典	大型の胃GISTに対する術前イマチニブ療法の日韓共同第II相試験	全国多施設共同試験		2010.1~	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;rcptno=R000003763&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;rcptno=R000003763&amp;language=J</a>
50	佐々木 巖	自主研究	分担	広島大学	高齢者における腹腔鏡下大腸癌切除の有効性と安全性に関する後ろ向き調査	全国多施設共同試験		2011.9~	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;rcptno=R000007565&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;rcptno=R000007565&amp;language=J</a>
51	佐々木 宏之	自主研究	分担	東海大学 眞廣 荘太郎	再発危険因子を有するStageII大腸癌に対するUFT/LV療法の臨床的有用性に関する研究(JFMC46-1201)	多施設共同試験	III	2012.5~	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;rcptno=R000009171&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;rcptno=R000009171&amp;language=J</a>
52	佐々木 宏之	自主研究	代表		結腸・直腸癌治療切除例に対するTS-1の術後補助化学療法Feasibility試験(SOS-002)	多施設共同試験	II	終了時期未定	無	
53	柴田 近	自主研究	代表		進行・再発胃癌におけるT分割投与Docetaxel療法+S1併用療法の検討 ~臨床第I/II相試験~	東北大学病院	I/II	2007.5~	無	
54	柴田 近	自主研究	代表		局所進行胃癌に対するTS-1+分割CDDP併用術前化学療法の第II相臨床試験	東北大学病院	II	2009.3~	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;rcptno=R000002139&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;rcptno=R000002139&amp;language=J</a>
55	柴田 近	自主研究	分担	東京女子医科大学 東医療センター 小川 健治	胃癌・結腸癌閉鎖症術後患者に対する術後術後免疫増強健康食品(GPS)取得の確化に関する無作為化第2相比較試験	全国多施設共同試験	III	2009.8~	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;rcptno=R000002673&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;rcptno=R000002673&amp;language=J</a>



(表2)平成27年度 がんの臨床試験に関する活動状況

56	柴田 近	自主研究	分担	大分大学 北野 正剛	胃全摘術施行後の消化管機能異常に対する大建中湯の臨床的効果～予防的効果に関する探索的検討～(プラセボを対照とした多施設二重盲検間比較試験)(JFMC42-1002)	全国多施設共同試験	Ⅲ	2011.1～	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R00000585&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R00000585&amp;language=J</a>
57	内藤 剛	自主研究	代表		腹腔鏡下手術後における静脈血栓症予防に対する低分子量ヘパリン(Enoxaparin Sodium)の有効性についての無作為比較試験	多施設共同試験	Ⅲ	2013.2～	有	
58	三浦 康	自主研究	分担	東京医科大学 杉原健一	StageⅢb大腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法としてのUFT/Leucovorin療法とTS-1/oxaliplatin療法のランダム化比較第Ⅲ相試験(ACCS-CC 02)	東北大学病院	Ⅲ	2010/2～ 2015/11	有	
59	三浦 康 (安藤敬典)	自主研究	代表		StageⅢ(Dukes' C)結腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法としてのカベタピン使用時における手足症候群軽減を目的としたビタミンB6投与の検討第Ⅱ相臨床試験	東北大学病院	Ⅱ	2010/9～ 2012/3	有	<a href="http://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R00000509&amp;language=J">http://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R00000509&amp;language=J</a>
60	石田 孝宣	医師主導 臨床試験	分担	財団法人 癌研究会有明病院 レディースセンター 乳癌科・岩瀬 拓士	N-SAS BC05・閉経後乳がんの術後内分泌療法5年終了患者に対する治療終了とアナストロゾール5年延長のランダム化比較試験	北日本肺癌臨床研究会	Ⅲ	2008.1～ 2014.12	有	<a href="http://www.csp.or.jp/csp/or/companv">http://www.csp.or.jp/csp/or/companv</a>
61	石田 孝宣	医師主導 臨床試験	分担	愛知県がんセンター 中央病院乳癌科 岩田 広治	N-SAS BC06・レトロゾールによる術前内分泌療法が奏功した閉経後乳がん患者に対する術後化学内分泌療法と内分泌単独療法のランダム化比較試験	日本、 多施設共同	Ⅲ	2009.1～ 2016.12	有	<a href="http://www.csp.or.jp/csp/or/companv">http://www.csp.or.jp/csp/or/companv</a>
62	石田 孝宣	医師主導 臨床試験	分担	愛知県がんセンター 中央病院乳癌科 澤木 正孝	N-SAS BC07・HER2 陽性の高齢者	日本、 多施設共同	Ⅲ	2011.10～ 2016.7	有	<a href="http://www.csp.or.jp/csp/or/companv">http://www.csp.or.jp/csp/or/companv</a>
63	石田 孝宣	医師主導 臨床試験	分担	京都大学大学院医学系研究科 外科学講座乳癌科 教授 戸井 雅和	エストロゲン受容体陽性HER2陰性乳癌に対するS-1術後療法ランダム化比較第Ⅲ相試験	日本、 多施設共同	Ⅲ	2012.2～ 2017.1	有	<a href="http://www.csp.or.jp/csp/or/companv/sanka/potent">http://www.csp.or.jp/csp/or/companv/sanka/potent</a>
64	保坂 正美	厚労科研費	分担	九州大学政経外科 教授 岩本 幸英	高悪性度取部腫瘍に対する標準治療確立のための研究課題文「骨肉腫術後補助化学療法におけるIfasfamide併用の効果に関するランダム化比較試験」	東北大学病院	Ⅱ	2010～2025 研究期間16 年	有	
65	近藤 丘		分担	順天堂大学 教授・鈴木健司	胸部薄切CT所見に基づきすりガラス影優位のcT1N0肺癌に対する区域切除の非ランダム化検証的試験(JCOG1211)	JCOG			有	
66	近藤 丘		分担	国立がんセンター東病院 科長・坪井正博	高悪性度神経内分泌癌完全切除例に対するイリノテカン+シスプラチン療法とエトポシド+シスプラチン療法のランダム化比較試験(JCOG1205/1206)	JCOG			有	
67	近藤 丘		分担	国立がんセンター東病院 科長・坪井正博	胸部薄切CT所見に基づく肺野型早期肺癌に対する縮小切除の第Ⅱ相試験(JCOG0804)	JCOG			有	
68	近藤 丘		分担	慶応大学 教授・浅村尚生	肺野末梢小型非小細胞肺癌に対する肺葉切除と縮小切除(区域切除)の第Ⅲ相試験(JCOG0802)	JCOG			有	
69	近藤 丘		分担	国立がんセンター東病院 科長・坪井正博	病理病期(T1>2cm)非小細胞肺癌完全切除例に対する術後化学療法の臨床第Ⅲ相試験	JCOG			有	
70	近藤 丘		分担	国立がんセンター中央病院 科長・飛内賢正	JCOG-バイオバンク・ジャパン連携バイオバンク	JCOG			有	
71	近藤 丘		分担	兵庫医科大学 教授・中野孝司	切除可能悪性胸膜中皮腫に対し、胸膜切除/肺剥皮術を企図して完全切除を行う集学的治療に関する遂行可能性確認試験				有	
72	近藤 丘		分担	金沢医科大学 教授・佐川元保	すりガラス状陰影主体の肺腺癌に対するPET所見とHR-CT所見をもとにした楔状切除(部分的に適さない場合の区域切除を含む)による根治手術の第2相試験	JNETS			有	
73	近藤 丘		分担	仙台医療センター 医師・羽岡 透	非小細胞肺癌転移巣に対する外科治療の有効性評価PhaseⅡ trial	JNETS			有	
74	近藤 丘		代表		非小細胞肺癌完全切除例の術後補助化学療法におけるカルボプラチン+ゲムシタピン併用療法とTS-1+ドセタキセル併用療法のランダム化第Ⅱ相試験	JNETS			有	
75	新倉 仁	自主研究	代表		子宮頸癌手術におけるセンチネルリンパ節の同定と改権の臨床的意義			2014/8～ 2019/7	有	
76	新倉 仁	自主研究	代表		子宮体癌手術におけるセンチネルリンパ節の同定と改権の臨床的意義			2014/8～ 2019/7	有	
77	新倉 仁	自主研究	代表		子宮頸癌手術におけるセンチネルリンパ節生検を用いた転移例生例に対する縮小手術の検討			2014/8～ 2019/7	有	
78	新倉 仁	自主研究	代表		子宮体癌手術におけるセンチネルリンパ節生検を用いた転移例生例に対する縮小手術の検討			2014/8～ 2019/7	有	
79	新倉 仁	自主研究	代表		ダ・ヴィンチS手術を用いた子宮頸癌に対する広汎子宮全摘術の有用性と安全性の検討			2014/10～ 2016/9	有	
80	新倉 仁	自主研究	代表		ダ・ヴィンチS手術を用いた子宮体癌に対する初回標準手術の有用性と安全性の検討			2014/10～ 2016/9	有	
81	大槻 健郎	自主研究	分担	埼玉医科大学 国際医療センター 藤原 恵一	上皮性卵巣癌・卵管癌・腹膜原発癌に対するPaclitaxel毎週点滴静注+Carboplatin毎週点滴静注対Paclitaxel毎週点滴静注+Carboplatin毎腹腔内投与のランダム化試験(JGOG3019)	JGOG	Ⅱ/Ⅲ	2010.9～ 2016.4	有	<a href="http://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT01506856?term=intra+peritoneal+carboplatin+fujiiwara&amp;rank=1">http://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT01506856?term=intra+peritoneal+carboplatin+fujiiwara&amp;rank=1</a>

(表2) 平成27年度 がんの臨床試験に関する活動状況

82	大槻 健郎	自主研究	分担	埼玉県医科大学 国際医療センター 藤原 恵一	局所進行子宮頸癌根治放射線療法施行例に対するUFTIによる補助化学療法のランダム化比較試験	TGCU, SGSG, GOTIC	Ⅲ	2010.3.12~ 2016.4	無	
83	大槻 健郎	自主研究	分担	三重大学医学部附属病院 産婦人科学教室 田畑 務	プラチナ抵抗性再発・再燃Mullerian carcinomaにおけるリボゾーム化ドキシソルビシン50/m2に対するPLD40 mg/m2のランダム化比較試験 (JGOG3018)	JGOG	Ⅲ	2010.4~ 2016.12	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/open-bin/ctr/ctr.cgi">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/open-bin/ctr/ctr.cgi</a>
84	大槻 健郎	自主研究	分担	岩手医科大学 産婦人科 教授 杉山 徹	再発卵巣癌に対するイリノテカン塩酸塩/リボゾーム化ドキシソルビシン併用療法臨床試験	TGCU	I / II	2010.6~ 2016.12	無	
85	大槻 健郎	自主研究	分担	自治医科大学 産婦人科学 講座 藤原 寛行	再発卵巣がんに対するリボゾーム化ドキシソルビシン+カルボプラチン療法とゲムシタビン+カルボプラチン療法に関するランダム化臨床試験	TGCU, SGSG, GOTIC	Ⅱ	2011.4~ 2017.3	無	
86	徳永 英樹	自主研究	分担	東京慈恵医科大学付属柏病院 産婦人科 田部 宏	ステージング手術が行われた上皮性卵巣癌 I 期における補助化学療法の必要性に関するランダム化第3相試験 (JGOG3020)	JGOG	Ⅲ	2012.9~ 2022.6	有	<a href="http://www.umin.ac.jp/ctr/index.htm">http://www.umin.ac.jp/ctr/index.htm</a>
87	徳永 英樹	自主研究	分担	京都大学付属病院 産婦人科 小西 郁生	卵巣漿液性境界悪性腫瘍の病態と臨床的取扱いに関する調査研究		観察	2013.11~ 2014.8	有	<a href="http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/obgyv/intro02.html">http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/obgyv/intro02.html</a>
88	徳永 英樹	自主研究	分担	筑波大学 医学医療系産科婦人科学 教授・吉川裕之	上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験 JCOG1203	JCOG	観察	2014/5~ 2029/3	無	
89	徳永 英樹	自主研究	分担	弘前大学 産婦人科 教授・水沼英樹	外陰扁平上皮癌に対する化学療法同時放射線療法の有効性と安全性	TGCU	Ⅱ	2014/9~ 2016/10	無	
90	徳永 英樹	自主研究	分担	琉球大学大学院 医学系研究科環境長寿医科学 女性・生殖医学講座 長井裕	局所進行子宮頸部腺癌に対するシスプラチンを用いた同時化学放射線療法とシスプラチン+パクリタキセルを用いたCCRTIに関する多施設共同ランダム化第Ⅲ相比較試験 (JGOG1074)	JGOG	Ⅲ	2014/11~ 2022/6	無	H27.11 終了した
91	永瀬 智	自主研究	分担	筑波大学医学医療系産婦人科 吉川 裕之	思春期女性へのHPVワクチン公費助成開始後における子宮頸癌のHPV16/18感染割合の推移に関する長期疫学的研究	全国		2014.1~ 2019.12	無	
92	永瀬 智	自主研究	分担	久留米大学 産婦人科 牛嶋公生	予後不良組織型子宮体がん(漿液性腺癌)についての調査研究		観察	2013.6~ 2015.6	有	<a href="http://plaza.umin.ac.jp/~taigan4b/">http://plaza.umin.ac.jp/~taigan4b/</a>
93	八重樫 伸生	科研費・高度医療	分担	GOG	プラチナ感受性の再発卵巣癌、原発性腹膜癌および卵管癌に対する二次的腫瘍減量手術の有効性、およびカルボプラチン+パクリタキセルの併用療法にペリスシスマブを併用維持療法として使用した場合の有効性を検討する比較臨床試験 (GOG-0213)	GOG-Japan (16施設)	Ⅲ	2010.1~ 2016.1	有	<a href="http://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT00565851?term=GOG0213&amp;rank=1">http://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT00565851?term=GOG0213&amp;rank=1</a>
94	八重樫 伸生	自主研究	分担	東京慈恵医科大学附属柏病院 教授・佐々木寛	子宮体癌根治術における外側大腿鼠径リンパ節温存による術後下肢リンパ浮腫改善に関する検討		観察	2013/12~ 2018/1	有	
95	八重樫 伸生	自主研究	分担	GOG	異型腺細胞 (AGC) 頭い細胞診断患者の子宮頸部病変診断におけるCA- I X p16増殖性マーカーとヒトパピローマウイルスによる比較解析 (GOG-0237)	GOG-Japan (16施設)	観察	2010.12~ 2019.12	有	<a href="http://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT00892866?term=GOG0237&amp;rank=1">http://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT00892866?term=GOG0237&amp;rank=1</a>
96	八重樫 伸生	自主研究	分担	GOG	初回治療後の広汎子宮全摘出術と骨盤リンパ節切除術を受けた中等度リスクのステージ I / II A期の子宮頸がん患者に対する術後放射線療法と同時化学放射線療法のランダム化試験 (GOG0263)	GOG-Japan (16施設)	Ⅲ	2011.7~ 2016.10	有	<a href="http://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT01101451?term=GOG0263&amp;rank=1">http://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT01101451?term=GOG0263&amp;rank=1</a>
97	八重樫 伸生	自主研究	分担	GOG	低リスク妊娠性絨毛腫瘍におけるアクチノマイシンD単回投与対メトトレキサート複数回投与のランダム化比較試験 (GOG0275)	GOG-Japan (16施設)	Ⅲ	2013.10~ 2017.5	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/open-bin/ctr/ctr.cgi">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/open-bin/ctr/ctr.cgi</a>
98	高野 忠夫	自主研究	分担	ANZGOG	症状緩和のための化学療法が、再発卵巣がんの患者の症状をいかに改善するか	GOG-Japan (16施設) GOTIC	観察	2013.6~ 2014.12	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/open-bin/ctr/ctr.cgi">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/open-bin/ctr/ctr.cgi</a>
99	高野 忠夫	医師会治験促進センター	分担	GOG	ステージⅢ-Ⅳ期の卵巣明細胞腺癌を対象としたファーストライン治療としてのテムシロリムス+カルボプラチン+パクリタキセルの併用療法に続くテムシロリムスの維持療法による第Ⅱ相臨床試験 (GOG0268)	GOG-Japan (16施設)	Ⅱ	2012.2~ 2015.1	有	<a href="http://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT01196429?term=GOG0268&amp;rank=1">http://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT01196429?term=GOG0268&amp;rank=1</a>
100	高野 忠夫	自主研究	分担	大阪大学大学院医学研究科産科婦人科学 上田 豊	子宮体がん術後再発中・高リスク群に対する術後化学療法としてのTEC療法、TAC療法、ddTC療法のランダム化第2相試験 (GOGO-EM3)	JGOG	Ⅱ	2012.12~ 2016.9	無	
101	高野 忠夫	自主研究	分担	国立がん研究センター 中央病院・食道外科 笠松 高弘	腫瘍径2cm以下の子宮頸癌 I b 1 期に対する準広汎子宮全摘出術の非ランダム化検証的試験 (JCOG1101)	JCOG	Ⅱ	2013.2~ 2021.1	無	
102	高野 忠夫	自主研究	分担	愛知県がんセンター中央病院 婦人科部長・中西透	臨床的FIGOⅣb期子宮体がんに対する寛解導入化学療法後の腫瘍摘出術に関するFeasibility Study (JGO2046)		Ⅱ	2015/4~ 2017/12	無	
103	高野 忠夫	自主研究	分担	東邦大学医療センター大橋病院 小宮山慎一	FIGO進行Ⅲ-Ⅳ期の上皮性卵巣癌・卵管癌・原発性腹膜癌に対する初回治療としての標準的なプラチナ併用化学療法+ペリスシスマブ併用同時併用に続くペリスシスマブ単独継続投与との前向き観察研究 (JCOG3022)	JGOG	観察	2014/6~ 2017/3	無	
104	高野 忠夫	自主研究	分担	静岡県立静岡がんセンター 婦人科 武隈宗孝	再発子宮頸がんにおけるプラチナ製剤free期間が化学療法の効果に及ぼす影響の後方視的検討 (JCOG1076S)	JGOG	観察	2011/10~ 2014/12	無	

(表2)平成27年度 がんの臨床試験に関する活動状況

105	高野 忠夫	自主研究	分担	久米大学医学部 産婦人科 西尾真	本邦における外陰癌の実態及び治療に関する調査研究(JGOG1075S)	JGOG	観察	2014/11~ 2015/3	無	
106	徳永 英樹	自主研究	分担	弘前大学 産婦人科 二神真行	卵巣未熟奇形腫の予後解析		観察	2014/12~ 2015/6	無	
107	徳永 英樹	自主研究	分担	四国がんセンター 産婦人科 野河孝充	子宮頸部非扁平上皮癌 I B2-II B期における治療法と予後に関する後方視的検討	SGSG	観察	2014/10~ 2015/2	無	
108	富永 悌二	自主研究	代表		塩酸ニムステンを用いたconvection enhanced delivery法とテモゾロミド内服による再発悪性神経膠腫の治療		I	2008.7~	有	<a href="http://www.jaccro.com/experiment/protocolindex.html?artc=GC05&amp;abno=0">http://www.jaccro.com/experiment/protocolindex.html?artc=GC05&amp;abno=0</a>
109	富永 悌二	自主研究	代表		塩酸ニムステンを用いたconvection enhanced delivery法とテモゾロミド内服による脳幹部再発神経膠腫の治療 ~Phase I臨床試験~		I	2010.12~ 2015.11	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000006092&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000006092&amp;language=J</a>
110	仁尾 正記	多施設共同研究	分担	京都府立医科大学 小児外科・教授・田尻達郎	小児固形腫瘍に対する年次登録および予後追跡調査による疫学研究	全国規模		2006.2.18~ 2014.1.31		
111	仁尾 正記	多施設共同研究	分担	日本小児血液・がん学会疾患登録	日本小児血液・がん学会疾患登録	全国規模		2010.9.1~ 6年間		<a href="http://www.inbsg.jp/">http://www.inbsg.jp/</a>
112	仁尾 正記	多施設共同研究	分担	広島大学自然科学 研究支援開発センター 生命科学実験部門 教授・榎山 英三	高リスク肝芽腫に対する Dose-dense cisplatin 療法と外科療法の安全性を評価する多施設共同臨床試験(JPLT3)	全国規模	第II相 試験	2010.11.11 ~ 8年間	有	<a href="http://home.hiroshima-u.ac.jp/eiso/">http://home.hiroshima-u.ac.jp/eiso/</a>
113	仁尾 正記	多施設共同研究	分担	日本大学医学部 附属板橋病院 小児科・教授・麦島秀雄	高リスク神経芽腫に対する遅延局所療法第II相臨床試験	全国規模	第II相 試験	2011.5.26~ 6年間	有	<a href="http://www.inbsg.jp/">http://www.inbsg.jp/</a>
114	仁尾 正記	多施設共同研究	分担	広島大学自然科学 研究支援開発センター 生命科学実験部門 教授・榎山 英三	初診時に遠隔転移のない肝芽腫患者への有効な治療法を検討する多施設共同臨床試験 (JPLT-3)	全国規模	二重盲検 第III相 試験	2012.4~ 5年間	有	<a href="http://home.hiroshima-u.ac.jp/eiso/">http://home.hiroshima-u.ac.jp/eiso/</a>
115	丸山 和一	自主研究	代表		網脈絡膜疾患の硝子体液の基礎的解析	東北大学	探索研究	2013/9/25 ~ 2017/12/31	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000005920&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000005920&amp;language=J</a>
116	小川 武則	自主研究(多施設)	分担	国立がん研究センター 東病院・頭頸部内科長 田原 信 東京医療センター 臨床研究センター 聴覚平衡覚研究部部長 藤井正人	JCOG1008 局所進行頭頸部扁平上皮癌術後の再発リスク患者に対する3-WeeklyCDDPを同時併用する術後補助化学放射線療法とWeekly-CDDPを同時併用する術後補助化学放射線療法に関するランダム化第II/III相試験		II/III	2013年1月 ~2022年1 2月	無	<a href="http://www.inbsg.jp/">http://www.inbsg.jp/</a>
117	神宮 啓一	自主研究	代表		低・中リスク群の局所型前立腺癌に対する画像誘導導分分割強度変調放射線治療の第I/II相臨床試験	東北大学病院	I/II	7年	無	
118	神宮 啓一	自主研究	代表		術後再発食道癌に対する放射線化学療法の長期的治療成績および毒性に関する研究	東北大学病院		2012/8~ 2013/7	無	倫理委員会公開情報
119	神宮 啓一	科研費	分担	山梨大学 放射線科 教授 大西 洋	腎細胞癌に対する定位放射線治療の第I/II相研究	全国	I/II	2010/9~ 2013/9	有	
120	神宮 啓一	科研費	分担	近畿大学 放射線科 教授 西村恭昌	頭部食道癌に対する強度変調放射線治療(IMRT: Intensity Modulated Radiation Therapy)を用いた化学放射線療法の多施設共同第II相臨床試験	全国	II	2013/10- 2019/2	有	
121	神宮 啓一	自主研究	代表		磁気共鳴拡散強調画像法における食道扁平上皮癌の Apparent Diffusion Coefficient valuesによる放射線化学療法後の予後予測に関する研究	東北大学病院		2014/8- 2019/7	無	
122	神宮 啓一	自主研究	代表	大坂大学 放射線腫瘍学 教授 小川和彦	結腸がんおよび直腸がん由来の肺oligometastasesに対する体幹部定位放射線治療に関する多施設調査研究(JROSG)	全国		2015/2- 2016/12	無	倫理委員会公開情報
123	神宮 啓一	自主研究	代表		術後再発食道癌に対するシスプラチン+フルオロウラシル+ドセタキセル併用放射線化学療法 -第二相臨床試験-	東北大学病院	II	2015/5- 2020/4	有(予定)	
124	神宮 啓一	自主研究	代表		進行食道癌(T4 and/or M1 lym)に対する放射線化学療法-長期的治療成績および毒性に関する後ろ向き研究	東北大学病院		2014/12- 2015/3	無	倫理委員会公開情報
125	松下 晴雄	外部研究助成	代表		宮城県における前立腺癌低リスク群に対する放射線治療に関する後方視的多施設調査研究	宮城県内		2014/2- 2015/3	無	倫理委員会公開情報
126	山本 貴也	自主研究	分担	東邦大学 放射線科 准教授 新部謙	Oligometastases状態の転移性肺腫瘍に対する体幹部定位照射療法の4施設共同遊動的な研究	全国		2014/9- 2017/10	無	倫理委員会公開情報
127	武田 賢	自主研究	代表		局所型前立腺癌に対する画像誘導導分強度変調放射線治療1回転型強度変調放射線治療	東北大学病院	I/II	2012/12/1 ~ 2017/11/30	有	

(表2)平成27年度 がんの臨床試験に関する活動状況

128	武田 賢	自主研究	代表		前立腺癌に対する画像誘導強度変調放射線治療の有効性	東北大学病院	I / II	2011/11/1 ～ 2016/10/31	有	
129	山本 貴也	外部研究助成	分担	東邦大学 放射線科 准教授 新部謙	oligometastases状態の転移性肺腫瘍に対する体幹部 定位放射線治療の全国適応的調査研究	全国		2014/9- 2017/10	無	倫理委員会公開情報
130	神宮啓一	自主研究	分担	東北大学 肝胆膵外科 教授海野倫明	Borderline resectable膵癌に対する術前治療としての Gemcitabine+S-1(GS)化学放射線療法第 I / II 相臨床 試験 (Prep-03, NS014-1)	東北大学病院	I / II	2014/7/1- 2019/6/30	有	UMIN000019179
131	神宮啓一	外部研究助成	代表		ピロカルピン塩酸塩+ポラブレジン混合配合薬の頭頸部癌 放射線治療による唾液腺障害予防効果とQOLに関する研究	東北大学病院		2015/9/1- 2020/8/31	無	倫理委員会公開情報
132	神宮啓一	自主研究	代表	秋田大学 放射線科 講師安倍明	肛門癌に対する放射線療法に関する後方視的多施設 調査研究	北日本		2015/10/1- 2016/3/31	無	倫理委員会公開情報
133	神宮啓一	自主研究	分担	東邦大学 放射線科 准教授 新部謙	食道癌のリンパ節oligo-recurrenceに対する放射線療法 の治療成績の適応的検討: 多施設共同研究	全国		2015/10/1- 2018/4/30	有	
134	松下晴雄	科研費	分担	近畿大学 放射線科 教授 西村泰昌	JCOG1208: T1-2N0-1M0中咽頭癌に対する強度変調 放射線治療 (IMRT) の多施設共同非ランダム化検証的 試験	全国	III	2015/10/1- 2021/6/30	無	倫理委員会公開情報
135	梅澤玲	自主研究	代表		胸部食道癌II/III期に対する化学放射線療法の長期治 療成績と予後因子に関する研究	東北大学病院		2014/12/1- 2015/3/31		
136	里見 進	自主研究	分担	岩手医科大学 医学部外科学講座 若林 剛	EGFR陽性・KRAS遺伝子野生型の結腸・直腸癌肺転移 例における治療切除不能例に対するCetuximab併用療 法の検討	東北6大学及び 関連大学	II	2010.12～ 2015.11	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000005556&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000005556&amp;language=J</a>
137	山口 拓洋	自主研究	分担	岩手医科大学医学部 外科学講座 若林 剛	EGFR陽性・KRAS遺伝子野生型の結腸・直腸癌肝転移 例における治療切除不能例に対するCetuximab併用療 法の検討 (FOCAL trial)	東北6大学外科およ び関連病院	Phase II	2010/12～ 2015/11	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000005556&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000005556&amp;language=J</a>
138	山口 拓洋	受託研究	分担	仙台医療センター 乳癌外科 渡辺 隆紀	乳房腫瘍の超音波診断におけるカラーDブラ法判定基 準作成および その有用性に関する多施設研究 (JABTS BC-04)	全国 (約17施設)	観察研究	2011/12～ 2015/12	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000008715&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000008715&amp;language=J</a>
139	山口 拓洋	受託研究	分担	山形大学医学部 臨床腫瘍学講座 吉岡 孝志	T-CORE1102 S-1術後補助化学療法後再発HER2陰性 胃癌に対する XP (カベンタピン+シスプラチン) 療法の第 II 相臨床試験	東北臨床腫瘍研究 会(T-CORE)関連施 設	Phase II	2012/2～ 2018/11	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000008053&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000008053&amp;language=J</a>
140	山口 拓洋	受託研究	分担	東北大学加齢医学研究所 臨床 腫瘍学分野 石岡 千加史	T-CORE1201 KRAS遺伝子野生型の治療切除不能な 進行・再発の結腸・直腸癌に対する2次治療としての Cetuximab (q2w)+FOLFFOX6 またはCetuximab (q2w)+FOLFIRI 療法の臨床第 II 相試験及び治療効果 を予測するバイオマーカーの検討	東北臨床腫瘍研究 会(T-CORE)関連施 設	Phase II	2012/4～ 2017/3	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000009444&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000009444&amp;language=J</a>
141	山口 拓洋	自主研究	分担	弘前大学大学院医学研究科 消化器外科学講座 袴田 健一	KRAS遺伝子野生型切除不能・進行再発大腸癌に対 する一次治療としてのIRIS+Panitumumab併用療法 臨床 第 II 相試験 (TOHOKU POWER trial)	東北6大学外科およ び関連病院	Phase II	2012/7～ 2018/7	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000009916&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000009916&amp;language=J</a>
142	山口 拓洋	受託研究	分担	川崎医科大学 乳腺甲状腺外科 中島 一毅	超音波検査による乳がん術前化学療法早期判定基準 の有効性に関する研究 (JABTS-BC03)	全国 (8～10施設)	観察研究	2010/5～ 2015/4	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000004209&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000004209&amp;language=J</a>
143	山口 拓洋	自主研究	分担	東北大学病院 胃腸外科 内藤 剛	腹腔鏡手術後における静脈血栓症予防に対する 低分子量ヘパリン (Enoxaparin Sodium) の有効性につ いての無作為化比較試験	全国 (約10施設)	Phase II	2013/2～ 2017/1	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000010691&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000010691&amp;language=J</a>
144	山口 拓洋	受託研究	分担	山形大学医学部 臨床腫瘍学講座 吉岡 孝志	T-CORE1203 トラスツスマブを含む初回化学療法に不 応のHER2過剰発現を有する治療切除不能進行・再発 胃癌に対するトラスツスマブ+セタキセル併用療法の 第 II 相臨床試験	東北臨床腫瘍研究 会(T-CORE)関連施 設	Phase II	2013/4～ 2017/3	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000012560&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000012560&amp;language=J</a>
145	山口 拓洋	受託研究	分担	膵癌術前治療研究会 (東北大学大学院 消化器外科) 海野 倫明	Borderline resectable膵癌に対する術前治療としての Gemcitabine+S-1(GS)化学放射線療法第 I/II相臨床試 験 (Prep-03, NS014-1)	東北大学、京都府立 医科大学などの9施 設	Phase I、II	2014/7～ 2019/6	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000016075&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000016075&amp;language=J</a>
146	山口 拓洋	受託研究	分担	東北大学加齢医学研究所 臨床 腫瘍学分野 石岡 千加史	T-CORE1401 フッ化ピリミジンを含む化学療法に不 応の高齢者治療切除不能進行・再発大腸癌患者に対 するトリフルリジン・チピシリン塩酸塩療法の治療効果予測 バイオマーカーの探索と、有害事象と薬物代謝遺伝子 多型の関連に関する研究	東北臨床腫瘍研究 会(T-CORE)関連施 設	Phase II	2015/5～ 2018/5	有	<a href="https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000020373&amp;language=J">https://upload.umin.ac.jp/cgi-bin/ctr/ctr.cgi?function=brows&amp;action=brows&amp;type=summary&amp;recptno=R000020373&amp;language=J</a>
147	山口 拓洋	受託研究	分担	東北大学加齢医学研究所 臨床 腫瘍学分野 石岡 千加史	T-CORE1401 フッ化ピリミジンを含む化学療法に不 応の高齢者治療切除不能進行・再発大腸癌患者に対 するトリフルリジン・チピシリン塩酸塩療法の治療効果予測 バイオマーカーの探索と、有害事象と薬物代謝遺伝子 多型の関連に関する研究	東北臨床腫瘍研究 会(T-CORE)関連施 設	Phase II	2015/3～ 2020/3	無	
148	山口 拓洋	受託研究	分担	東北大学加齢医学研究所 臨床 腫瘍学分野 石岡 千加史	T-CORE 1501 高齢者切除不能進行・再発胃癌を対象とした Ramucicrumab+paclitaxel併用療法の第 II 相臨床試験	東北臨床腫瘍研究 会(T-CORE)関連施 設	Phase II	2016/4～ 2019/3	無	

(表2)平成27年度 がんの臨床試験に関する活動状況

149	山口 拓洋	受託研究	分担	東北大学加齢医学研究所 臨床腫瘍学分野 石岡 千加史	T-CORE 1501-付随研究 高齢者切除不能進行・再発胃癌を対象とした Ramucirumab+ paclitaxel併用療法の治療効果予測バイオマーカーの 探索と、有 害事象と薬物代謝遺伝子多型の関連に関する研究	東北臨床腫瘍研究 会(T-CORE)関連施設	Phase II	2016/4~ 2021/3	無	
150	眞野 成康	自主研究			ソラフェニブの個別化療法に向けての研究 (ゲノム解析)	東北大学病院		2011.12~ 2021.2	無	
151	眞野 成康	自主研究			アキシチニブの個別化療法に向けた研究	東北大学病院		2013.1~ 2017.12	無	
152	眞野 成康	自主研究			医療従事者の抗がん薬曝露調査	東北大学病院		2014.4~ 2019.3	無	
153	眞野 成康	自主研究			スニチニブの個別化療法に向けての研究(ゲノム解析)	東北大学病院		2015.4~ 2019.12	無	
154	眞野 成康	自主研究			エルロチニブの個別化療法に向けた研究	東北大学病院		2014.2~ 2018.3	無	
155	眞野 成康	自主研究			エベロリムスの個別化療法に向けた研究	東北大学病院		2012.4~ 2020.12	無	
156	眞野 成康	自主研究			口内炎予防における口腔内保湿に及ぼすグリセリン濃 度の影響	東北大学病院		2013.9~ 2018.3	無	
157	細川 亮一		代表		8020研究事業 緩和ケアにおける歯科の役割に関する 調査					
158	南 優子	自主研究	分担	がん疫学・予防研究部 部長 西野 善一	質問紙調査と院内情報を活用した症例対照研究	宮城県立がんセン ター		2012.1~ 2016.3	無	
159	南 優子	自主研究	分担	がん疫学・予防研究部 部長 西野 善一	生活習慣・肥満度・成育歴・生殖歴とがんの予後との関 連	宮城県立がんセン ター		2011.5~ 2016.3	無	

(表3)平成27年度がんに関する受託研究・共同研究・治験の契約状況

研究種別	契約件数
受託・共同研究	28
治験	95

## 教育部会

神宮啓一（部会長）

教育部会は、東北がんプロフェッショナル養成推進プラン（文科省；本学と山形大学、福島県立医科大学、新潟大学の4大学連携）と都道府県がん診療連携拠点病院（厚労省）の事業と連携して、院内を含め、東北地方のがん医療従事者や大学院生の専門性向上のためのセミナーや講演会、教育プログラムを推進中です。特に化学療法センターによる他施設医療スタッフへの研修が行われており、多数の方を受け入れております。さらに例年に引き続き、東北大学病院がんセミナーおよび東北大学病院化学療法カンファレンスをそれぞれ月1回ずつ開催しました。化学療法カンファレンスにはがん診療に関係する各科から毎回50名前後の医師が参加し、各科から提示される診療方針などに迷う症例を診療科の垣根を越えて闊達な議論を行い、診療方針を決定しています。がんセミナーでは毎回各科持ち回りで担当いただき、院内外の著名な先生にご講演いただき、各分野の最新の情報などを提供されています。毎回30名程度の参加者がおります。

また東北大学病院臨床病理カンファレンスも年4回開催され、初期研修医の発表訓練の場としても活かされており、毎回立ち見が出るほどの多数（80-90名）の参加をいただいております。

来年度も引き続きがんセンター教育部会の事業を展開してまいります。

参加人数集計表

平成27年度 東北大学病院 がんセミナー (会場:東北大学病院 東病棟4階第5会議室)										
第1回	第2回	第3回	第5回	第6回	第7回	第9回	第10回	第8回	第4回	第11回
5月21日	6月17日	7月16日	9月17日	10月15日	11月18日	1月21日	2月18日	2月25日	未定	3月17日
泌尿器科	看護部	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	消化器内科	呼吸器内科	薬剤部	乳腺・内分泌外科	婦人科	胃腸外科	未定	緩和医療科
5	1	12	2	10	1	6	2	3		2
医師										
1					26					
薬剤師										
放射線技師										
1	10	9	1	1	1	9	1	1		4
看護師										
2	5	2	2	1		4		1		
上記以外										
6	2	14	9	11	7	13	14	11		20
大学院生										
		5								
医師										
	1					2				
医師以外										
15	19	42	14	23	35	34	17	16	0	26
各回の合計人数										

参加人数集計表

		平成27年度 東北大学病院 化学療法カンファレンス (会場:東北大学病院 東病棟4階第5会議室)											
		第1回 4月2日	第2回 5月7日	第3回 6月4日	第4回 7月2日	第5回 8月6日	第6回 9月3日	第7回 10月1日	第8回 11月5日	第9回 12月3日	第10回 1月7日	第11回 2月3日	第12回 3月3日
学 内	参加者種別内訳												
	医 師	22	21	22	33	19	23	21	19	21	19	20	0
	薬剤師	1	2		1	1	1	1	1	1	1	1	
	放射線技師												
	看護師		1	1	1				1	1	2	1	
	上記以外		1	1	1								
	学 生	12	24	26	26	15	16	20	25	23	20	14	0
学 外	医 師						1						
	医師以外		1										
各回の合計人数		35	50	50	62	35	40	43	46	46	42	36	0



小笠原 喜美代、古山 美智子、原 沙絵、森 隆弘（東北大学病院がん診療相談室）

## 平成27年度がん診療相談室活動報告

はじめに

がん診療相談室に限った相談件数は毎月 60 から 100 件になる。相談室以外でも、緩和医療科外来や後方支援部門、セカンドオピニオン担当の連携室など、各部門への相談もあり、それらを全て合計すると、毎月 200 件以上の「がん医療」についての相談が当院へ寄せられていることになる。相談内容はがんの診断・治療法、セカンドオピニオンから介護・看護、在宅医療や精神的な問題に至るまでの極めて多岐にわたっている。対象臓器も乳腺、肺、子宮・卵巣、前立腺を始めとして、全てのがんにわたる。（詳細は以下参照）相談内容には、「主治医や担当看護師に直接相談できない」等の患者の悩みや告知に伴う精神的な悩みも多く見られる。これは欧米諸国に比べて、本邦ではがん医療者への負担が大きい（患者数に比してがん専門医療者が不足している）ことも大きな原因である。こういった我が国特有な医療状況と、そして、今後増加するがん患者数を考えると、当院においても「がん診療相談室」の存在はいつそう重要になってくるものと思われる。

更に今年度からは「がん患者の就労支援」も相談室の業務として明記された。がん医療、特に薬物療法の進歩に伴って、がん患者の生命予後が改善しており、そのためにがん患者の就労を支援することは、患者自身にとっても重要なこと（経済的な意味だけでなく生きがいという側面も大きい）であるだけでなく、我が国の現状（高齢化が進む現状、膨らむ社会保障費）を考へても大きな意味があると考えられる。このように、相談室が現在果たしている役割は極めて大きい。

ほぼ二人に一人ががんに罹患する時代である。我々は、がんに罹患した後の人生についても、よく考えるべきではないだろうか。がん医療に携わる者ひとりひとりが、厚労省の掲げる目標「がんになっても安心して暮らせる社会」の意味について考える必要がある。その視点から、以下の相談室の活動についてご講評いただければ幸いである。

### 1. 相談体制

がん診療相談室は、地域医療連携センター内に設置されている。看護師資格を持つ相談員 2 名ががん相談の担当をしている。

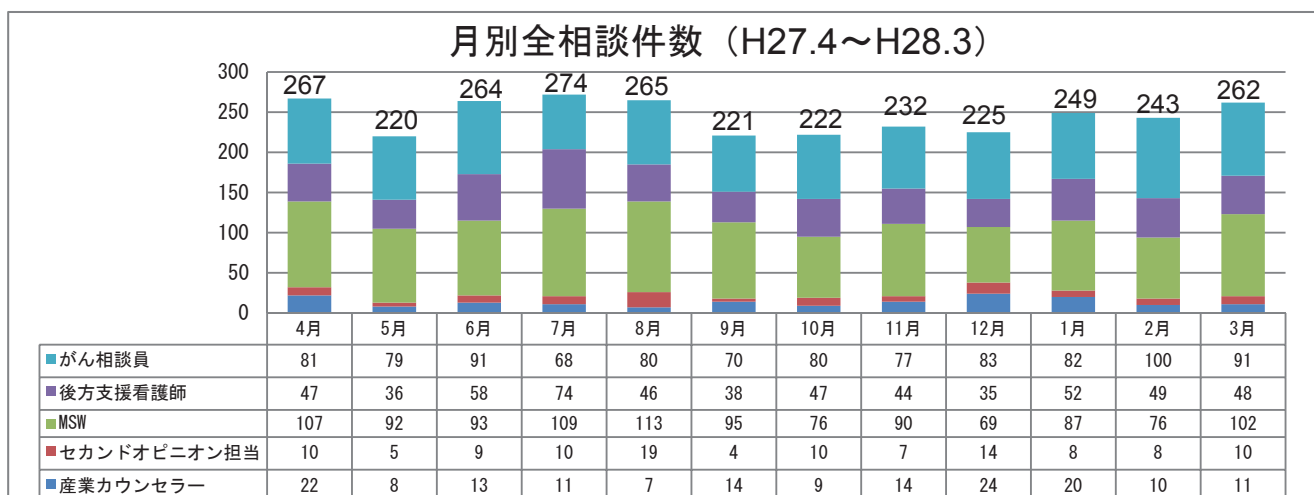
また就労に関する相談は、産業カウンセラーが担当し、ハローワーク、社会保険労務士など外部機関の協力を得ながら取り組んでいる。

### 2. 広報活動

- ① がん診療相談室たよりを毎月 1 回発行
- ② がん診療相談室のホームページを作成（イベント情報等は毎月更新）
- ③ 院内インフォメーションテレビによるイベント情報の周知
- ④ 診療のご案内、広報紙に相談室の情報を掲載し、近隣病院・診療所等に定期的に発送

### 3. 相談実績

#### 1) 平成 27 年度がん診療相談室相談件数



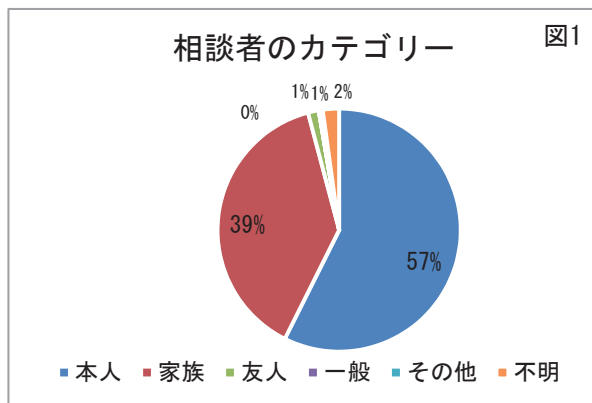
#### 2) がん相談員による相談内訳

① 相談件数は982件（前年837件）であった。相談者の性別は、男性277名（28%）女性707名（72%）であった。男女比は前年度とほぼ同数であった。

② 対応方法は、面談660件（67%）電話322件（33%）であった。

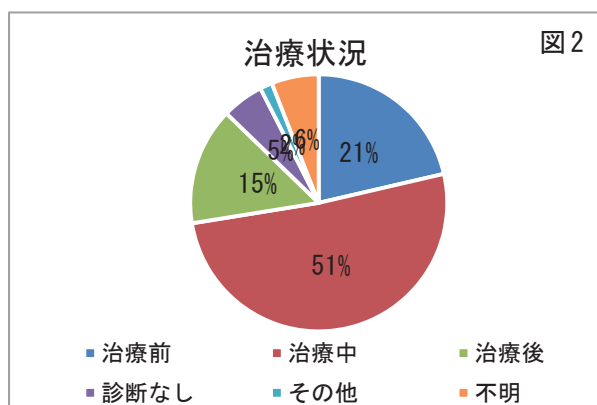
③ 相談回数は、初回706名（73%）、2回目以上が229名（23%）、不明37名（4%）であった

④ 相談者のカテゴリーは、本人556件（57%）  
 {前年度486件（52%）}、家族・親族373件（39%）  
 {前年度372件（40%）} であった。  
 前年度より本人からの相談が伸びている。（図1）



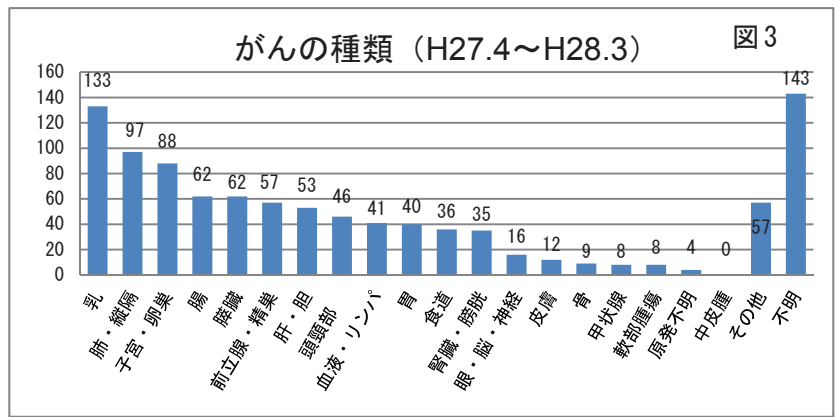
⑥ 相談者の地域別は、市内231件(24%)、市外133件(14%)、県外113件(11%)、不明500件(51%)であった。

⑦ 相談者の受診状況は、当院入院中170件（17%）、当院通院中420件（43%）と、約60%が当院患者による相談であった。他院治療は298件（31%）であった。

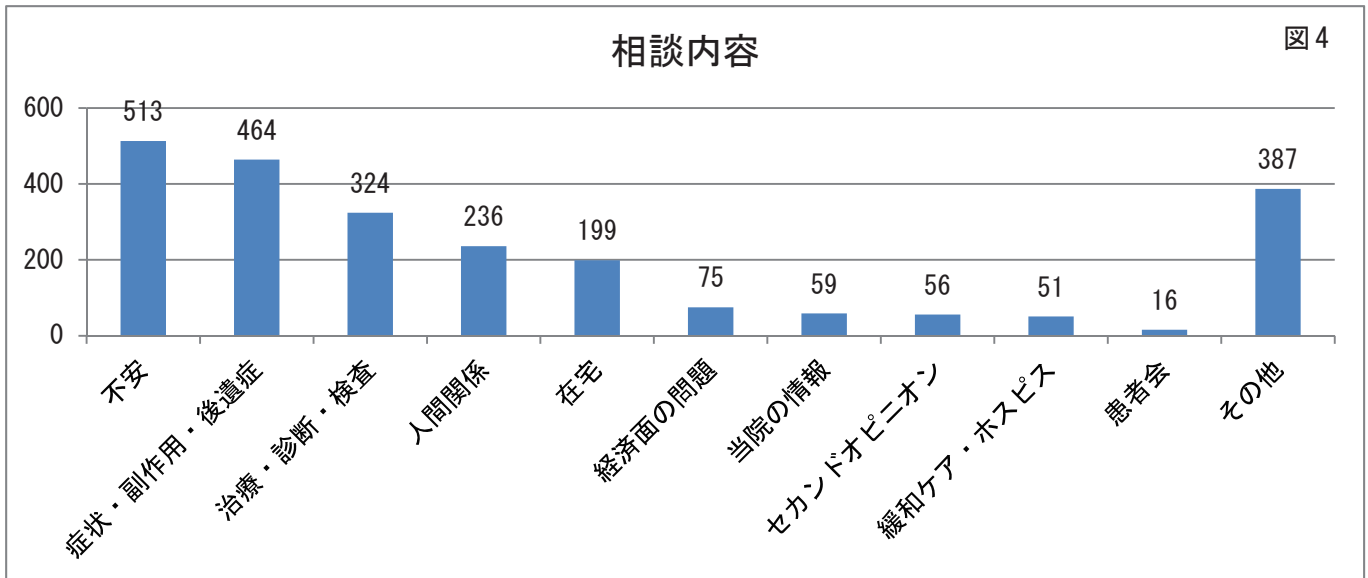


⑧ 治療状況は、治療中487件(51%)、治療前は208件(21%)だった。診断なしは51件(5%)であるが、これは検査が始まらない、検査途中での焦りや不安を感じている患者、知識として情報を得たいという一般市民からの相談である。（図2）

- ⑨ がんの種類は、乳がんが最も多く、次に肺、子宮・卵巣となっている。  
(図3)

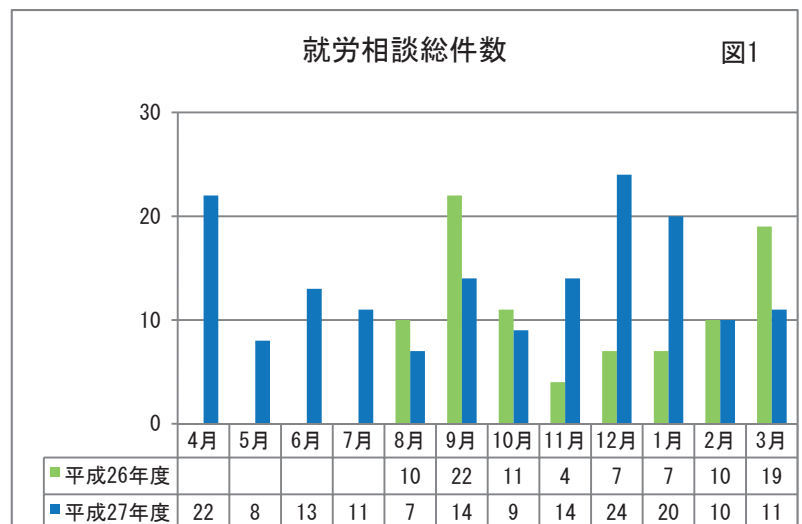


- ⑩ 相談内容は、不安 513 件 (22%)、症状・副作用・後遺症 464 件 (20%)、治療・診断・検査 324 件 (14%) であった。(図4)

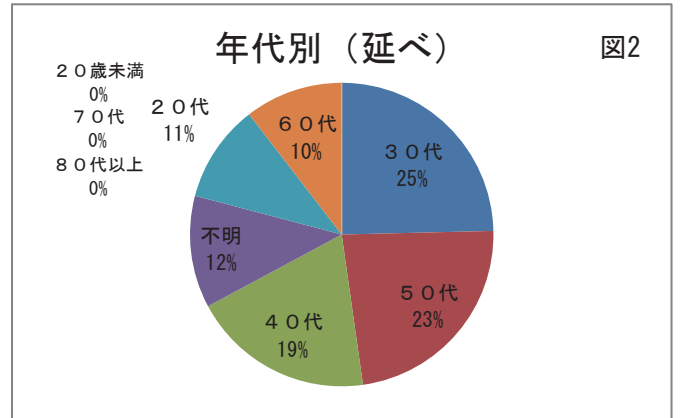


#### 4. 就労支援

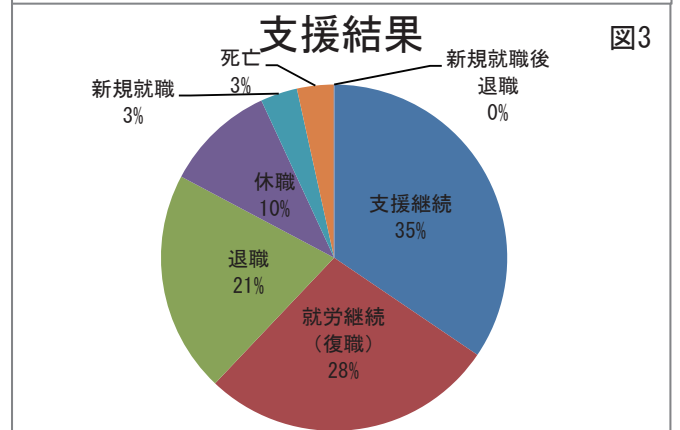
- ① 相談件数は延べ 163 件 (がんのみ: 134 件) であった。内、新規相談者は 60 名である。年度末に向けて退職や契約更新の問題等、悩む患者が増えるため、年末ごろから年明けにかけて相談が増えている。  
(図1)



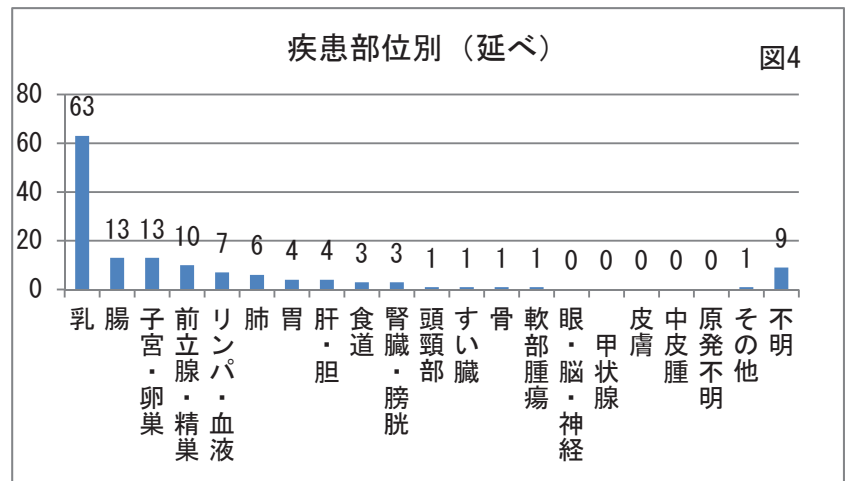
② 年齢別利用者は、働き世代と言われる30代～50代で全体の67%を占めており、定年退職後の60代の相談も10%という結果であった。年代に関わらず働きたいという希望者が多い。(図2)



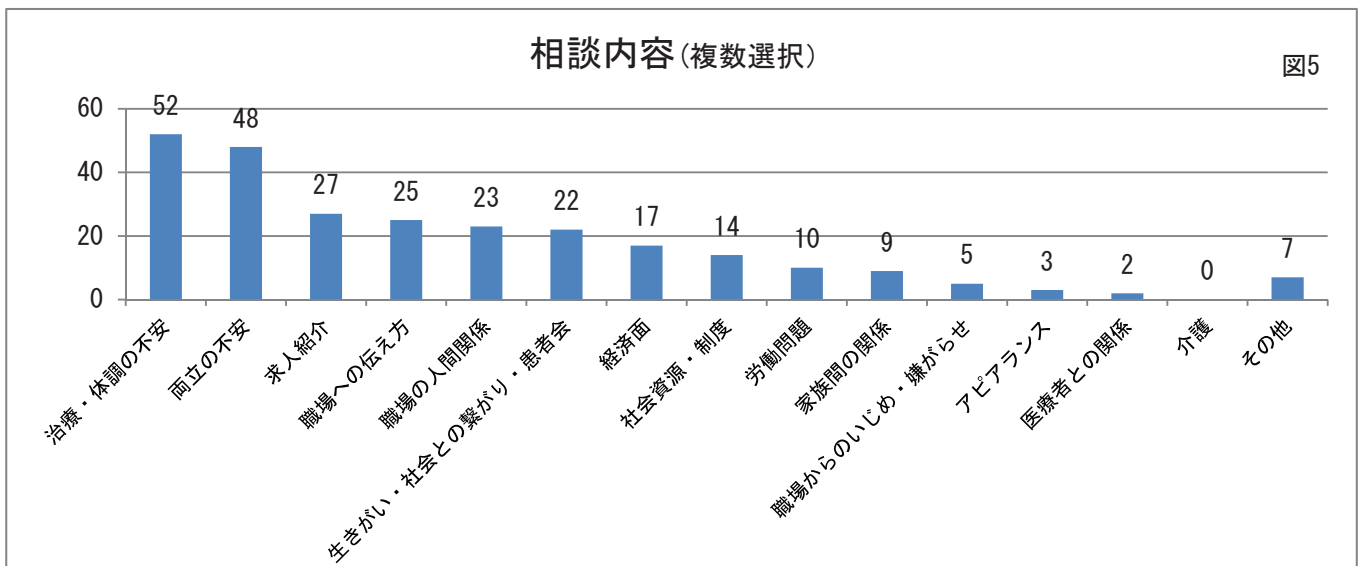
③ 平成28年3月末時点での支援結果であるが、不明51% (31名)を除いた49% (29名)について分析したグラフである。支援介入により就労を継続できた患者が28%にのぼる。一方で、退職が21% (6名)であった。支援開始時、すでにがんによる離職者は、新規相談者60名の内14名であり、支援中に退職した患者 (6名)も含めると、がんによる離職者は相談者の33% (20名)にのぼる。(図3)



④ 部位別は、乳がんが最も多く全体の45%を占めている。続いて腸、子宮・卵巣と続いている。(図4)

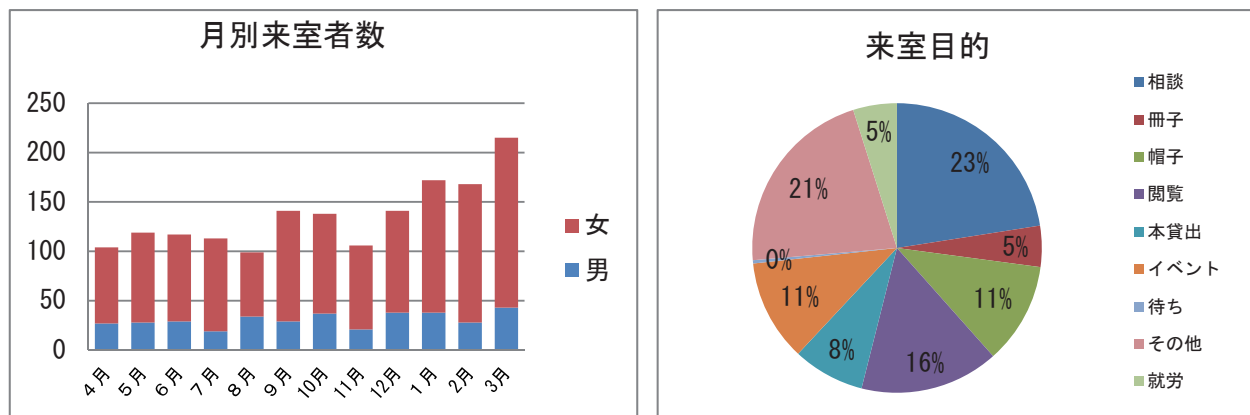


⑤ 相談内容は、単に求人紹介に留まらず、治療・体調の不安、両立の不安から周囲との人間関係まで多岐にわたっている。(図5)



## 1) がんサロン「ゆい」利用状況

がんサロン「ゆい」の来室者は年々増加し2484名（前年度1633名）であった。来室者の内訳は、本人64%、家族25%であった。相談目的は、相談23%、各種イベント参加11%、本・冊子の閲覧18%、タオル帽子の希望11%、就労相談5%であった。



## 2) イベント開催

### 学びのサロン ミニ講話

開催日	テーマ	講師	参加人数
4月22日(水)	自宅で療養！在宅医療と介護保険～	地域連携センター 副看護師長 五十嵐 ひとみさん	6名
5月27日(水)	笑いの効用	東北福祉大学保健看護学科 柏倉 栄子教授	12名
6月24日(水)	外来化学療法の実際	がん化学療法認定看護師 上原厚子さん	16名
7月22日(水)	がんの痛みは我慢しないでください	がん性疼痛看護認定看護師 武田 真恵さん	8名
9月2日(水)	がんと漢方	総合地域医療教育支援部 漢方内科 沼田健裕先生	19名
9月30日(水)	がんと食事	栄養管理室 管理栄養士 菅原 恵さん	17名
10月14日(水)	がんと年金	社会保険労務士 佐瀬 久枝さん	10名
10月28日(水)	放射線治療の実際	がん放射線療法看護認定看護師 門脇 美佳さん	9名
11月18日(水)	がん患者さんのリハビリテーション	肢体不自由リハビリテーション科教授 出江 紳一先生	5名
12月16日(水)	抗がん剤の副作用と対処方法	薬剤部 化学療法支援室主任 小林 美奈子先生	10名
1月26日(水)	がんと漢方	総合地域医療教育支援部 漢方内科 高山 真先生	13名
2月24日(水)	緩和ケアってなに？	緩和ケア看護認定看護師 中條 庸子さん	8名
3月23日(水)	がん治療と仕事を両立するためにハローワークがお手伝いできること	ハローワーク仙台上席職業指導官 遠藤 穂さん	5名
			計 138名

### いやしサロン 粘土細工の会(ねこ作り) 毛糸で作るマスコット

開催日	講師	参加人数
4月15日(水)	毛糸で作るマスコット 西17階病棟 看護師長 畠山 里恵さん	8名
5月20日(水)	粘土細工 西17階病棟 看護師長 畠山 里恵さん	13名
6月17日(水)	毛糸で作るマスコット	17名
7月15日(水)	粘土細工	6名
9月16日(水)	粘土細工	7名
10月21日(水)	毛糸で作るマスコット	18名
11月11日(水)	粘土細工	2名
1月20日(水)	粘土細工	9名
2月17日(水)	毛糸で作るマスコット	9名
		計 87名

タオル帽子を作る会

開催日	講師	参加人数
1回/月(8月を除く)	広瀬川タオル帽子を作る会 大友 てい子さん	5~13名
		計103名

脱毛ケアとウィッグの相談会

開催日	講師	参加人数
2回/月	毛髪技能士 小笠原 ゆかりさん	1~4名
		計34名

3) がん診療相談室たよりの発行

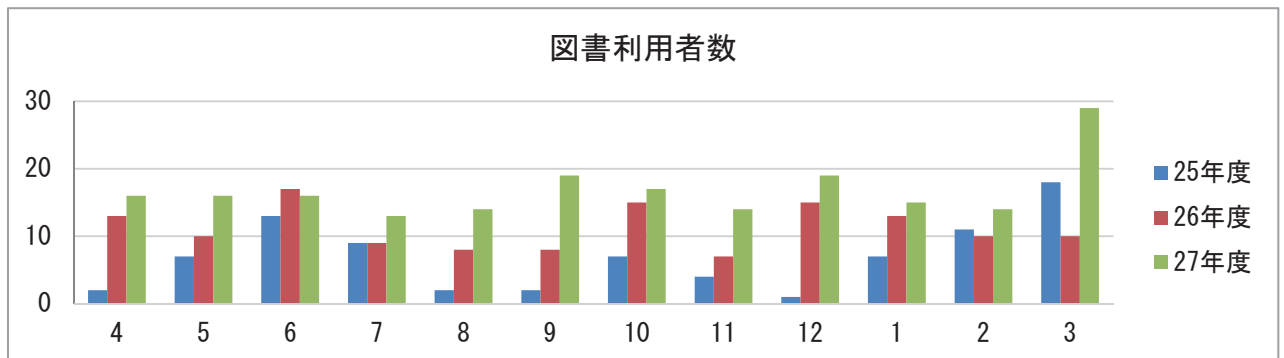
がん相談室たよりを発行し、各病棟・外来に掲示依頼をしている。たよりにては、イベントの予告と合わせて参加者の声として、「病気に負けずがんばります」、「明るい気分になりました」といった声を掲載している。

4) 図書の利用状況

患者支援の一環として、希望者に病気や生活に関するパンフレット等を提供している。書籍、特にガイドラインは新しいものに随時入れ替えている。現在書籍705冊、2種の月刊誌を閲覧できる。

今年度は、述べ202名に301冊の貸し出しを行った。(前年度96名、160冊)

「自身や家族の疾患について調べたい」、「気分転換のため」、「診察までに時間があるから」といって好評を得ている。



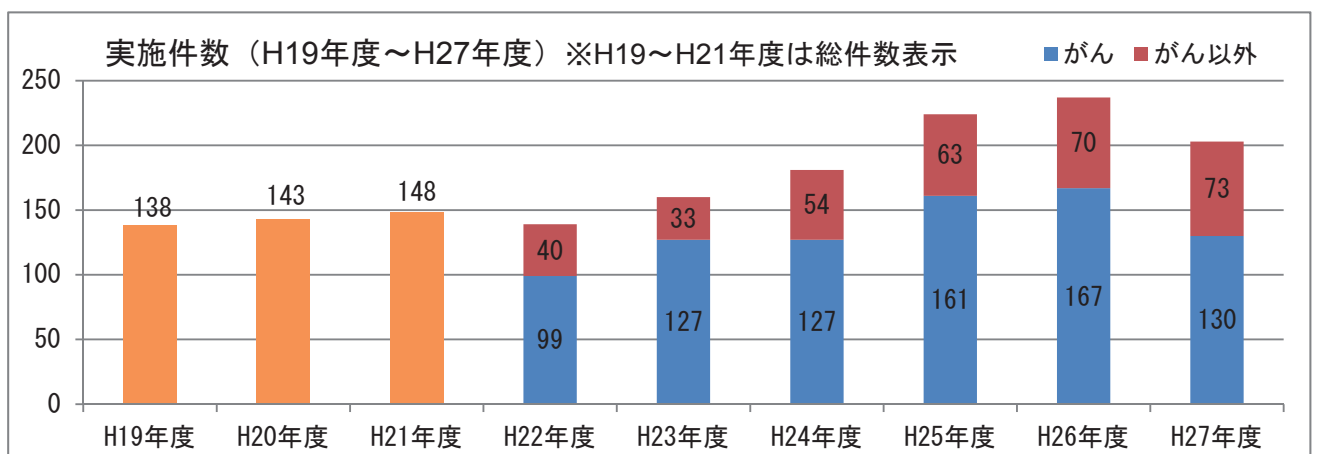
5) 院内外の患者会支援

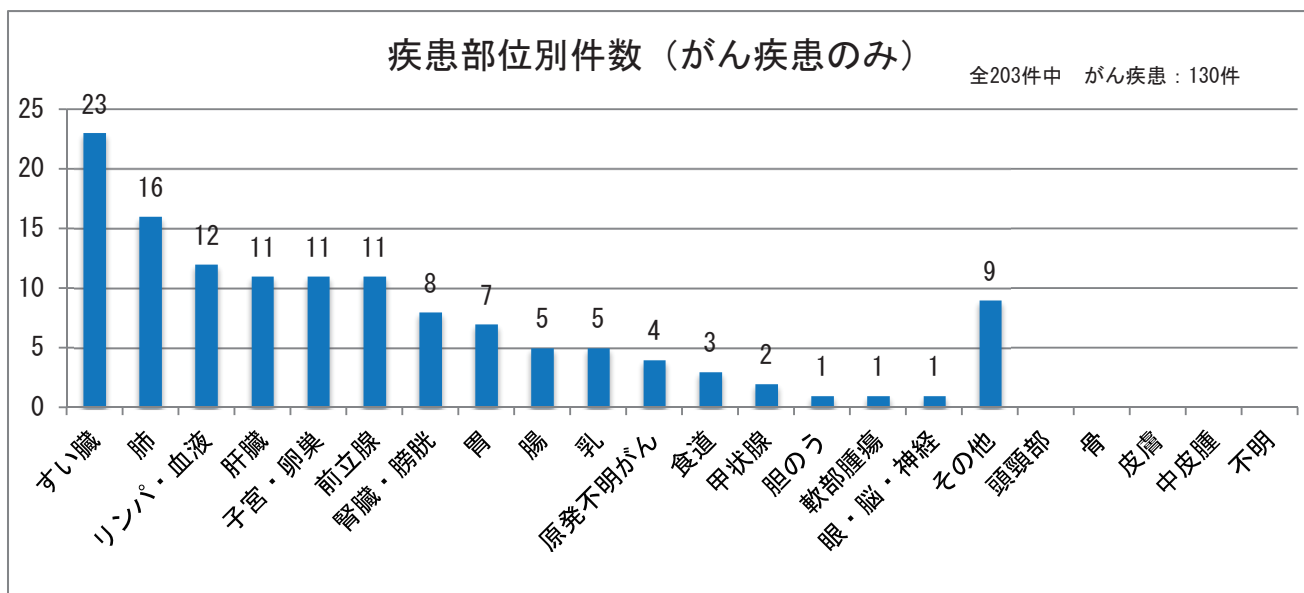
院内外の患者会と交流を持ち、患者会活動に協力した。また、「がん患者会・サロンネットワークみやぎ」に加入し、事業に参加した。

5. セカンドオピニオン

がん患者のセカンドオピニオンは203件中130件と全体の約64%を占めている。主治医とのコミュニケーション不足により診断や治療方針を理解しないままセカンドオピニオンを希望してくる患者・家族が多い。そのため、セカンドオピニオンの意義を説明し、再度主治医との話し合いを勧めている現状がある。

専門性の高い対応が必要な場合は、がん相談員や前方支援担当者、後方支援担当者とも連携を取れるようにしている。





## 6. 都道府県がん診療連携拠点病院としての役割と実績

### 1) 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会出席

情報提供及び相談支援体制の機能強化と質的な向上を図ることを目的とし、また、各都道府県や地域単位での取り組みを支援するために設置。

第5回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会 出席

6月10日 国立がん研究センター

第6回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会 出席

12月8日 国立がん研究センター

### 2) 平成27年度宮城県がん診療連携協議会患者相談部会開催

都道府県がん診療連携拠点病院の指定要件

2 都道府県における相談支援機能強化に向けた要件

(3) 地域拠点病院、特定領域拠点病院、地域がん診療病院の相談支援に携わる者に対する継続的かつ系統的な研修を行うこと に基づき相談部会内に実務者研修WGを立ち上げた

#### 活動目標

1. 国立がん研究センター『認定がん専門相談員』認定事業の中のⅢ群研修として認定されるがん専門相談員研修を4回実施する
2. 患者必携「みやぎがんサポートハンドブック」改訂版を発行する
3. 地域相談支援フォーラム相談員研修を 東北で県境を越えたネットワーク構築を行い 平成28年度の実施に向けて企画する

#### 実績

- |                                     |                             |
|-------------------------------------|-----------------------------|
| 第1回宮城県がん診療連携協議会患者相談部会開催             | 平成27年5月15日                  |
| 第2回宮城県がん診療連携協議会患者相談部会開催             | 平成27年7月13日                  |
| 第3回宮城県がん診療連携協議会患者相談部会開催             | 平成27年11月6日                  |
|                                     | 宮城県庁                        |
| 第1回～第16回宮城県がん診療連携協議会がん相談実務者研修WG会議開催 |                             |
|                                     | 平成27年3月5日～平成28年3月28日        |
|                                     | 宮城県立がんセンター、東北大学病院、仙台医療センター他 |

みやぎがんサポートハンドブック 改訂版発行 9月

「平成28年度地域相談支援フォーラム」企画

- ① 「東北がんネットワーク 患者相談室専門委員会」にて提案。  
他5県の賛同を得る。宮城県相談部会 WG が中心となり企画運営。 6月23日
- ② 国立がん研究センター地域相談支援フォーラム共催団体募集に応募 8月
- ③ 選考ヒアリング参加 (宮城県立がんセンター同行) 9月11日
- ④ 共済団体採択決定 10月13日
- ⑤ 第4回九州・沖縄ブロック 地域相談支援フォーラム in 鹿児島  
事前ミーティング、フォーラム参加 (宮城県立がんセンター同行)  
11月27日～28日
- ⑥ 各県訪問による実行委員顔合わせ (宮城県立がんセンター同行)  
12月10日 福島 14日 山形 17日 秋田 18日 青森、岩手
- ⑦ 第1回「平成28年度地域相談支援フォーラム」実行委員会開催  
1月19日 TKR カンファレンスセンター

### 3) 平成27年度がん診療連携協議会がん相談実務者会議・がん専門相談員研修開催 活動計画

- 目的：宮城県内に所属するがん相談員の相談支援に係る知識、技術の向上及び、相談員間の交流・連携を図る。  
さらに、地域への情報提供及び教育活動に参画する
- 目標：・宮城県内のがん相談員間の交流・連携を図ることができる  
・相談支援に関わる情報や知識を共有することができる

#### 実績

##### 会議

- 第1回宮城県がん診療連携協議会がん相談実務者会議開催 5月22日 宮城県庁  
第2回宮城県がん診療連携協議会がん相談実務者会議開催 11月6日 宮城県庁  
第3回宮城県がん診療連携協議会がん相談実務者会議開催 2月5日 宮城県庁

##### 研修

- 第1回宮城県がん診療連携協議会患者相談部会がん専門相談員研修会開催  
5月22日 宮城県庁  
第2回宮城県がん診療連携協議会患者相談部会がん専門相談員研修会開催  
6月6日 仙台医療センター

- 第3回宮城県がん診療連携協議会患者相談部会がん専門相談員研修会開催  
11月6日 宮城県庁  
以上の研修3回についてはⅢ群登録申請書兼研修計画書を提出、登録済み

## 7. 考察と課題

### 1) がん診療相談室 がんサロン『ゆい』

- ① 相談者はさまざまな困難を抱えている。病気、治療、これまでそしてこれからの生活、死への恐怖に向き合う時、混乱し、今すべきことが何かわからないと悩む。自らの命と向き合い、揺れ動く気持ちを表出する中で、気持ちの整理が付き、「楽になった」と話す相談者が多い。また、患者のみならず一般市民もテレビ、マスコミ等の情報に反応し不安を大きくしていることもある。  
多岐にわたる相談に応えるために、さらに相談員、院内の他職種、がん看護外来等とネットワークを構築する必要がある。
- ② がんサロン「ゆい」では、毎月各種イベントを開催し好評を得ているが、今後は、より患者・家族の交流を図る場としていきたい。
- ③ 常時開放しているサロンは必要である一方でプライバシーに配慮のできる相談室も求められ、場の確保は急務である。相談員に求められる業務範囲は広く、相談員の質の向上を図るとともに、人材の整備が急がれる。



## 2) 就労支援

がんが原因で離職した患者の再就職は非常にハードルが高い。そのため就労中の患者が、早まって退職をしないよう防ぐことが重要である。診断時から就労支援を開始し、治療が安定した時期にスムーズに職場復帰できるようにする必要がある。

医療機関側から医療情報の提供や、職場の担当者交えた面談など、可能な限り医療機関側から積極的に職場や産業医と連携を図ることが必要であると考ええる。

再就職できたにもかかわらず、さまざまな理由で両立が困難となり、再度退職してしまう患者もおり、復職後の患者への継続的心理サポートも展開していく必要である。

## 3) 都道府県がん診療連携拠点病院

- ① 相談室の業務として相談内容の多様化、臨床試験・希少がんの情報提供、患者活動の支援など求められる役割が増えている。研修参加により資格の取得や知見を広める、コミュニケーション技術の向上を図るなど、さらなる自己研鑽が必要である。
- ② 国内のがん診療・相談支援に関する動向を知り、県内さらには東北ブロックの相談支援の質の向上、均てん化、ネットワーク構築を図るため、要として宮城県立がんセンターと協働しその役割を果たしていく必要がある。
- ③ 役割を遂行するために、活動しやすい環境の整備とマンパワーの確保が急務と考える。

部会長 辻 一郎

## がん登録とは

がん登録とは、がんにかんがえられた方々の情報を登録することにより、がんの発生動向を明らかにするとともに、治療内容や予後を調査する取り組みです。これにより、がんの実態を把握するとともに、がんの予防や治療の向上に役立てるものです。

東北大学病院は、宮城県がん診療連携拠点病院の一つとして、標準登録様式に基づく院内がん登録を実施して、その情報を国立がん研究センターに提供しています。

## 東北大学病院の院内がん登録システム

平成 19 年 1 月 1 日以降に東北大学病院でがんと新たに診断、または初めて受診された患者様全員を対象に登録が行われています。これは、(1) 大学病院で運用されている診療支援システムの病名登録データを活用して、複数の診療情報から「がんの疑いのある患者様」を拾い上げたうえで、(2) CanR という院内がん登録情報システムを活用して、主治医と診療情報管理士とが情報を交換し合うことにより、腫瘍に関する情報（診断年月日・診断名・進行度・組織診断名・受けた治療の種類など）を登録しています。

## 院内がん登録に係る体制

東北大学病院は、院内がん登録室を設置して登録業務を実施しています。室長は、病院長の指名により登録部会長の辻が務めております。

院内がん登録室の業務は、(1) がん患者データの集積・分析・管理に関すること、(2) がん患者登録データの研究利用に関すること、(3) 地域がん登録へのデータ提供に関すること、(4) 宮城県内におけるがん診療連携拠点病院等に対する精度管理指導に関すること、です。

また、院内がん登録室の運営に関する審議を行うために、院内がん登録小委員会が設置されて、院内がん登録室長が委員長を務めることになっています。

さらに本部会が、院内がん登録室と院内がん登録小委員会を統括しており、院内がん登録に関する全般的な事項を審議するとともに、院内がん登録情報の外部提供に関する協議と決定を行っています。

このような三層構造により、院内がん登録業務の円滑な実施、登録業務を通じて得られた個人情報の厳重な保護、がん登録情報の診療・研究面における有効な利活用が図られています。

## 資質の向上に向けた研修の開催

東北がんプロフェッショナル養成推進プランとも連携し、「院内がん登録実務者養成コース」を年に 10 回開催して、がん登録に関わる基本的事項、臨床講義、統計解析、がん疫学、がん予防学、法的問題に関する講義を行っており、大学病院の教職員や医学系研究科の大学院生などが多数参加しています。平成 27 年度の開催プログラムを表 1 に示します。

## 院内がん登録の現状

本年度は、平成 26 年 1 月 1 日から同年 12 月 31 日までに東北大学病院でがんと新たに診断または初めて受診された患者様について登録を行いました。その結果、登録件数は 3,344 件でした。進行度や治療の内容などについて集計を行いました。なお、本年度に登録された患者様の部位別、性別の内訳を表 2 に示します。

また、平成 28 年 1 月からがん登録等の推進に関する法律に定める「全国がん登録」制度が開始されました。これにより、がん患者様の情報を各都道府県のがん登録室へ届出ることがすべての病院に義務付けられました。

表1 院内がん登録実務者養成コースの内容

開催日	講義項目	講師
第1回 (H27年5月12日)	がん登録概論	
第2回 (H27年6月9日)	院内がん登録の標準登録様式とシステム	
第3回 (H27年7月28日)	院内がん登録と地域がん登録	
第4回 (H27年9月8日)	食道癌～予防と内視鏡治療を中心に～	小池 智幸 先生 東北大学病院 消化器内科 講師
第5回 (H27年10月13日)	がん患者の就労支援について 療養を支える制度について	原 沙絵 先生 金子 直美 先生 東北大学病院 地域医療連携室
第6回 (H27年11月10日)	がん患者の食生活について	菅原 恵 先生 東北大学病院 栄養管理室
第7回 (H27年12月8日)	眼科領域のがんについて	竹下 孝之 先生 東北大学大学院 医学系研究科 神経・感覚器病態学講座_眼科学分野 助手
第8回 (H28年1月20日)	泌尿器系（精巣、膀胱）がんについて	伊藤 明宏 先生 東北大学大学院 医学系研究科 泌尿器科学分野 准教授
第9回 (H28年2月9日)	薬物療法の現状	菊地 正史 先生 東北大学病院 薬剤部 試験研究室 室長
第10回 (H28年3月8日)	全国がん登録に関する今後の動向	金村 政輝 先生 宮城県立がんセンター研究所 がん疫学・予防研究部 部長

表2 平成26(2014)年登録数 部位別(ICD-O-3)性別

注) 上皮内がん及び再発症例含む

部位	ICD-O-3	合計		男		女	
		数	%	数	%	数	%
全部位		3344	100.0%	1839	100.0%	1505	100.0%
頭頸部	C00-C14 C30-C32	275	8.2%	192	10.4%	83	5.5%
食道	C15	226	6.8%	200	10.9%	26	1.7%
胃	C16	262	7.8%	200	10.9%	62	4.1%
小腸	C17	11	0.3%	7	0.4%	4	0.3%
大腸	C18-C20	228	6.8%	138	7.5%	90	6.0%
(結腸)	C18	136	4.1%	78	4.2%	58	3.9%
(直腸S状結腸移行部、直腸)	C19-C20	92	2.8%	60	3.3%	32	2.1%
肝及び肝内胆管	C22	95	2.8%	69	3.8%	26	1.7%
胆のう	C23	16	0.5%	6	0.3%	10	0.7%
その他及び部位不明の胆道	C24	61	1.8%	38	2.1%	23	1.5%
膵	C25	163	4.9%	93	5.1%	70	4.7%
気管、気管支及び肺	C33-C34	250	7.5%	180	9.8%	70	4.7%
胸腺	C37	3	0.1%	3	0.2%	0	0.0%
胸膜	C384	9	0.3%	8	0.4%	1	0.1%
骨、関節及び関節軟骨	C40-C41	21	0.6%	11	0.6%	10	0.7%
血液、骨髄	C420 C421	94	2.8%	44	2.4%	50	3.3%
皮膚(黒色腫以外)	C44	100	3.0%	53	2.9%	47	3.1%
結合組織、皮下組織及びその他の軟部組織	C49	48	1.4%	27	1.5%	21	1.4%
乳房	C50	311	9.3%	2	0.1%	309	20.5%
外陰、陰	C51-C52	12	0.4%	-	-	12	0.8%
子宮	C53-C55	206	6.2%	-	-	206	13.7%
(子宮頸)	C53	99	3.0%	-	-	99	6.6%
(子宮体部)	C54	107	3.2%	-	-	107	7.1%
(子宮NOS)	C55	0	0.0%	-	-	0	0.0%
卵巣、卵管	C56 C570	74	2.2%	-	-	74	4.9%
陰茎	C60	6	0.2%	6	0.3%	-	-
前立腺	C61	195	5.8%	195	10.6%	-	-
精巣	C62	28	0.8%	28	1.5%	-	-
腎	C64	51	1.5%	39	2.1%	12	0.8%
腎盂、尿管	C65-C66	19	0.6%	12	0.7%	7	0.5%
膀胱	C67	48	1.4%	42	2.3%	6	0.4%
眼及び付属器	C69	8	0.2%	1	0.1%	7	0.5%
髄膜、脳、脊髄、脳神経及びその他の中枢神経系	C70-C72	164	4.9%	77	4.2%	87	5.8%
甲状腺	C73	89	2.7%	26	1.4%	63	4.2%
副腎、その他の内分泌腺及び関連組織	C74-C75	24	0.7%	16	0.9%	8	0.5%
リンパ節	C77	1	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
悪性リンパ腫	M959-M972	143	4.3%	77	4.2%	66	4.4%
悪性黒色腫	M872-M878	44	1.3%	19	1.0%	25	1.7%
原発部位不明	C80	32	1.0%	16	0.9%	16	1.1%
その他		27	0.8%	14	0.8%	13	0.9%

## (2) 診療科・部署からの報告

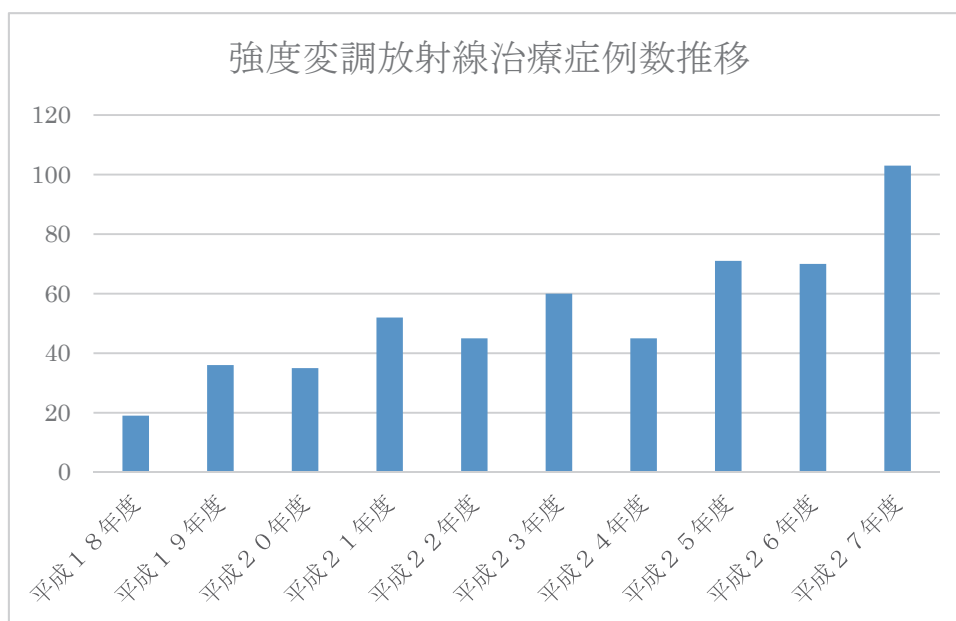
### 放射線治療部門

神宮啓一（科長）

2015年度も外来・入院において根治的放射線治療から緩和的放射線治療まで、延べ治療人数が体外照射のみで約1000件となり、さらに密封や非密封線源を使用した内照射も順調に行っており、こちらは昨年度よりも件数が大幅に増加しました。貴重な症例をご紹介いただきました関係各位にはこの場を借りまして御礼申し上げます。総治療件数は昨年度とほぼ同件数となりました。当施設では1症例あたりに使用するbeam数が年々増加しており、また強度変調放射線治療(IMRT)を実施する割合も増加してきており(H26年度70症例→H27年度111症例)、より高精度の治療を行われるようになってきています(下図)。従来、上咽頭癌と高リスク群の前立腺癌に適応を絞ってきましたが、その他の頭頸部癌や低中リスク群前立腺癌にも適応を拡大して実施するようしております。その他にも必要な症例には行っておりますのでお気軽に放射線治療医までご相談ください。

これらの放射線治療技術の質を担保してくれている医学物理士は、昨年度からがんセンター内に医学物理室を設け、放射線部から独立した機構として放射線診療のQA/QCを担ってくれています。月1日ずつ放射線治療装置を止め、QA/QC日を設け、放射線治療装置品質管理に勤めています。その他、やはり月1回で医師、看護師、診療放射線技師、物理士と外部委員を加えた体制で放射線治療品質管理委員会を開き、インシデント報告やその改善策などを相談しています。

2016年度も症例に応じたきめ細かな放射線治療、かつ最先端の放射線治療を実施して参ります。どうぞ宜しくお願いします。



## 化学療法センター

石岡千加史（化学療法センター長）

当センターは平成16年に稼働を開始した東北地方では初めての包括的な化学療法センターです。外来と入院を合わせた病院全体の化学療法の管理を一括して行い、日常診療における外来での抗がん剤などの治療のほか、企業治験や研究者による自主的臨床試験の実施場所としての機能を有します。専用の調剤室と30床の治療室（この他に床に治療スペースを1床確保）を備えるセンターには、専任医師（がん薬物療法専門医）が1名、看護師9名（看護師長、がん化学療法認定看護師を含む）、薬剤師が4名（がん専門薬剤師1名、がん薬物療法認定薬剤師1名を含む）の勤務態勢で運営されています。また、センターに隣接する腫瘍内科外来には、腫瘍内科医（がん薬物療法専門医9名を含む）が常時複数名診療しています。当センターを利用する診療科は20科に上り、昨年度の化療センター利用延べ患者数は、年間総数で12,711名、月平均で約1,060名（980～1,160名）、その内訳はがん患者790～940名、その他の疾患190～220名でした。当センターの特徴の1つに、医師、薬剤師および看護師を中心とするチーム医療の実践にあります。チーム医療の推進は平成24年6月に策定されたわが国の第2期がん対策推進基本計画の重点的に取り組むべき項目の1つであり、副作用モニタリング、副作用対策などを多職種チームで取り組んでいます。今後も待ち時間短縮など患者さんの利便性の向上をより一層計る予定です。

最近の取り組み事例としては、看護師によるCVポート穿刺、抗がん剤の皮下注射や末梢血管確保、薬剤師による服薬指導の強化と医師への情報還元、専任医師の救命救急センター連絡会議への参加などがあります。院内の化学療法の標準化のために、月1回化学療法プロトコル審査委員会を開催し、院内の化学療法レジメンを全て薬剤部内にある化学療法センター事務局で一元管理され、代表的な治療レジメンを他の医療機関のためにHP上に公開しています。また、レジメン登録、化学療法のオーダーリング、調剤から看護まで化学療法センター専用のシステムがITセンターにより開発され、質が高い治療を安全かつ効率的に実施できる体制が構築されています。

当センターのもう一つの特徴は、がん医療水準の均てん化のための教育および研修機能を有する点にあります。具体的には、東北地方のがん診療連携拠点病院やその他の中核的病院に対し化学療法マネジメントに関するがん薬物療法チーム研修会を開催しています。また、院外で化学療法プロトコル審査委員会の開催指導を行いました。さらに、アナフィラキシー対策、在宅IVH管理、レジメン審査、上腕CVポート造設、口腔ケアと栄養管理、がん薬物療法におけるバイオマーカー（講義）、抗がん剤の血管外漏出対策や骨転移のマネジメント等の教育的DVDを作成し、その一部は全国のがん診療連携拠点病院に配信するなど、教育拠点としての役割も果たしています。



# 東北大学病院がんセンターの組織・役割



## 東北大学病院がんセンター 腫瘍評議会 (Tumor Board)

\*がんセンターの管理・運営 \*地方自治体等との連絡調整 \*がん会議の活動評価

●診療部会 (荒井陽一教授:地域医療連携室・医事課)  
カンファレンス 検診 セカンドオピニオン 外来機能

●研究部会 (海野倫明教授:総務課)  
臨床研究「がんTR」

●教育部会 (神宮啓一教授:総務課)  
がん拠点病院医療従事者研修 がんプロ養成

●相談支援・情報部会 (森隆弘教授:地域医療連携室・総務課)  
がん診療相談 治療成績公表 HP・広報誌等 各種情報提供

●がん登録部会 (辻一郎教授:医療情報室)  
院内がん登録 統計・疫学

先進包括的がん  
医療推進室

化学療法  
センター

緩和ケア  
センター

化学療法  
標準化研修

テレパノジー  
センター

院内がん  
登録室

がん診療  
相談室

## がん会議 (Cancer Conference)

専門医による診療計画等の策定(専門的医療)

領域別カンファレンス

小児腫瘍センター

医学物理室

【院内連携】

放射線部 病理部 緩和医療部 薬剤部 看護部 他



県立がんセンター



宮城県



他の医療機関

# 化学療法センター組織図

東北大学がんセンター 腫瘍評議会

がん会議

薬剤部

調剤室

化学療法支援室

診療科

化学療法  
処方医

化学療法センター

センター長①

副センター長①

化療センター事務局

事務局長①

薬剤師 ④

プロトコル  
申請責任医師

運用WG

医師: ⑪  
看護師: ⑦  
薬剤師: ⑥  
検査技師: ①  
MIT副部長: ①  
事務官: ①

プロトコル審査委員会

医師: ⑦、薬剤師: ②  
看護師: ①、外部査読者

化学療法室

医師: ①  
薬剤師: ④  
看護師: ⑥

運営小委員会

センター長①  
副センター長①  
副薬剤部長①  
看護師長①  
副臨床検査技師長①



**プロトコール審査委員会における審査件数とその結果**  
(第1回から第3回までは審査方法などについての検討を行った。)

審査委員会 開催日	審査件数 (再審査)	承認	条件付承認	再審査
第1回 平成17年6月3日	—	—	—	—
第2回 平成17年6月27日	—	—	—	—
第3回 平成17年7月21日	—	—	—	—
第4回 平成17年9月7日	13	1	12	
第5回 平成17年10月6日	10	4	6	
第6回 平成17年11月7日	14	5	8	1
第7回 平成17年12月5日	9	4	2	3
第8回 平成18年1月10日	9	2	5	2
第9回 平成18年2月8日	11(2)	4(1)	3	4(1)
第10回 平成18年3月6日	15(4)	6(2)	8(2)	1
第11回 平成18年4月10日	13(1)	8	2	3(1)
第12回 平成18年5月8日	10(1)	5(1)	5	
第13回 平成18年6月12日	6	3	3	
第14回 平成18年7月10日	9	4	5	
第15回 平成18年8月31日	15	3	4	8
第16回 平成18年10月2日	6	1	5	
第17回 平成18年11月6日	9(4)	2(1)	5(1)	2(2)
第18回 平成18年12月4日	11	6	3	2
第19回 平成19年1月22日	8(2)	3(2)		5
第20回 平成19年2月26日	10		5	5
第21回 平成19年4月2日	12	4	7	1
第22回 平成19年5月7日	5	2	2	1
第23回 平成19年6月11日	7(1)	4	2	1
第24回 平成19年7月9日	17	1	16	
第25回 平成19年9月3日	10	6	3	1
第26回 平成19年10月15日	8	5	3	
第27回 平成19年11月19日	5	2	2	1
第28回 平成19年12月17日	8		8	
第29回 平成20年1月30日	10		9	1

第30回 平成20年3月5日	3	1	1	1
第31回 平成20年4月7日	4(3)	3	1	
第32回 平成20年5月14日	7	1	6	
第33回 平成20年6月16日	3	2	1	
第34回 平成20年7月16日	4		3	1
第35回 平成20年9月1日	12	6	6	
第36回 平成20年10月6日	7	4		3
第37回 平成20年11月17日	8(3)		5	3
第38回 平成20年12月15日	7(2)	1	6	
第39回 平成21年1月16日	5		5	
第40回 平成21年2月17日	7	1	6	
第41回 平成21年3月18日	9	2	6	1
第42回 平成21年4月19日	6		5	1
第43回 平成21年5月20日	4		4	
第44回 平成21年6月21日	11	7	4	
第45回 平成21年7月22日	3	1	2	
第46回 平成21年8月23日	3	2	1	
第47回 平成21年9月24日	5(3)	3	1	1
第48回 平成21年10月25日	9	3	4	2
第49回 平成21年11月26日	12	2	5	5
第50回 平成21年12月21日	4	1	3	
第51回 平成22年1月25日	3	1	2	
第52回 平成22年2月22日	7	4	1	2
第53回 平成22年3月29日	6	3	3	
第54回 平成22年4月26日	2		2	
第55回 平成22年5月31日	5	1	4	
第56回 平成22年6月28日	6	5	1	
第57回 平成22年7月26日	6	3	3	
第58回 平成22年8月30日	10		10	
第59回 平成22年9月27日	4	1	1	2
第60回 平成22年10月25日	5(2)	4	1	

第61回 平成22年11月29日	5	1	4	
第62回 平成22年12月27日	8		4	4
第63回 平成23年1月31日	8(3)	4	2	2
第64回 平成23年2月28日	7	1	5	1
第65回 平成23年4月25日	12(1)	2	9	1
第66回 平成23年5月30日	11	1	10	
第67回 平成23年6月27日	7		7	
第68回 平成23年8月1日	3		3	
第69回 平成23年9月26日	7	1	5	1
第70回 平成23年10月31日	5(1)	1	3	1
第71回 平成23年11月21日	3		3	
第72回 平成23年12月26日	11		11	
第73回 平成24年1月30日	4		4	
第74回 平成24年2月27日	9(1)		8	1
第75回 平成24年3月26日	6	1	5	
第76回 平成24年5月28日	4		3	1
第77回 平成24年6月25日	4	1	2	1
第78回 平成24年7月30日	4	4		
第79回 平成24年8月27日	4(1)		3	1
第80回 平成24年9月26日	12		12	
第81回 平成24年10月29日	10		10	
第82回 平成24年11月26日	3	3		
第83回 平成24年12月26日	8	2	6	
第84回 平成25年1月30日	6	1	4	1
第85回 平成25年2月27日	8	7	1	
第86回 平成25年3月25日	7		7	
第87回 平成25年4月22日	5	3	2	
第88回 平成25年5月23日	4	2	2	
第89回 平成25年6月24日	9		7	2
第90回 平成25年7月22日	7(2)	2	5	
第91回 平成25年8月26日	14	12	2	

第92回 平成25年9月25日	5	1	4	
第93回 平成25年10月28日	36		36	
第94回 平成25年11月27日	15	1	14	
第95回 平成25年12月16日	7	1	6	
第96回 平成26年1月27日	74	3	71	
第97回 平成26年2月24日	9	4	5	
第98回 平成26年3月31日	3	1	2	
第99回 平成26年4月21日	14		5	9
第100回 平成26年5月26日	19(9)	5	14(9)	
第101回 平成26年6月30日	5		5	
第102回 平成26年7月28日	11	1	9	
第103回 平成26年8月25日	13	5	6	1
第104回 平成26年9月22日	11(2)		11	1
第105回 平成26年10月27日	11(1)	2	9(1)	
第106回 平成26年11月27日	9		9	
第107回 平成26年12月22日	8	5	4	
第108回 平成27年1月26日	9	4	5	
第109回 平成27年2月23日	7		5	
第110回 平成27年3月30日	6	1	5	
第111回 平成27年4月27日	12	1	10	
第112回 平成27年5月25日	8		8	
第113回 平成27年6月22日	9		7	
第114回 平成27年7月27日	23		22	
第115回 平成27年8月24日	4	1	3	
第116回 平成27年9月28日	13		13	
第117回 平成27年10月26日	18	1	17	
第118回 平成27年11月30日	12	3	7	
第119回 平成27年12月21日	12	6	5	
第120回 平成28年1月25日	14	12	1	
第121回 平成28年2月29日	7	7		
第122回 平成28年3月28日	4	2	2	

エビデンスレベル別  
 審査プロトコール件数とその割合  
 (平成17年9月～平成28年3月審査分)

エビデンスレベル	プロトコール数	審査済プロトコールに おける割合(%)
1	35	3.4
2	140	13.5
3	103	9.9
4	93	10.5
5	54	5.2
6	13	1.3
研究のみ	542	52.3
保留(未承認)	57	5.5
審査済プロトコール合計	1037	100.0

エビデンスレベル別  
 審査プロトコール件数とその割合  
 (平成27年度審査分)

エビデンスレベル	プロトコール数	審査済プロトコールに おける割合(%)
1	0	0.0
2	12	9.0
3	2	1.5
4	1	0.8
5	10	7.5
6	0	0.0
研究のみ	104	78.2
保留(未承認)	4	3.0
審査済プロトコール合計	133	100.0

# 公開プロトコール一覧

白地は公開予定

受付番号	プロトコール名	申請科	エビデンスレベル	審査日
05-001	大腸癌アイソボリン・5FU(RPMI)療法	腫瘍内科	1	20050907
05-004	大腸癌de Gramont療法	腫瘍内科	1	20050907
05-005	大腸癌AIO療法	腫瘍内科	2	20050907
05-006	大腸癌sLVFU療法	腫瘍内科	2	20050907
05-007	大腸癌トポテシン隔週療法	腫瘍内科	2	20050907
05-008	大腸癌modFOLFIRI療法	腫瘍内科	1	20050907
05-009	大腸癌FOLFOX4療法	腫瘍内科	1	20050907
05-010	大腸癌modFOLFOX6療法	腫瘍内科	2	20050907
05-011	肺癌(非小細胞)カルボプラチン・ジェムザール療法	遺呼科	2	20051006
05-012	肺癌(非小細胞)毎週ジェムザール療法	遺呼科	2	20051006
05-013	肺癌(非小細胞)カルボプラチン・毎週タキソール療法	遺呼科	2	20051006
05-018	胃癌5FU持続点滴療法	腫瘍内科	1	20051006
05-019	非ホジキンリンパ腫CHOP療法	血免科	1	20051006
05-020	非ホジキンリンパ腫R-CHOP療法	血免科	1	20051006
05-021	肺癌(非小細胞)カルボプラチン・タキソール療法(3週間隔)	遺呼科	1	20051107
05-022	肺癌(小細胞)シスプラチン・イリノテカン療法	遺呼科	2	20051107
05-025	乳癌CEF療法(エンドキサン経口法)	乳内科	1	20051107
05-026	乳癌CAF療法	腫瘍内科	1	20051107
05-027	乳癌CMF療法(量体表面積)	腫瘍内科	1	20051107
05-028	乳癌CMF療法(量固定)	腫瘍内科	1	20051107
05-029	乳癌CMF療法(エンドキサン注射)(量固定)	腫瘍内科	1	20051107
05-030	ホジキンリンパ腫ABVD療法	血免科	1	20051107
05-031	リツキシマブ療法	血免科	1	20051107
05-032	乳癌タキソテール(triweekly)+ハーセプチン療法	乳内科	2	20051205
05-033	乳癌タキソテール療法(triweekly)	乳内科	2	20051205
05-036	卵巣癌タキソール・カルボプラチン療法	婦人科	1	20051205
05-037	卵巣癌ドセタキセル・カルボプラチン療法	婦人科	2	20051205
05-501	hyper CVAD	血免科	2	20050907
06-001	卵巣癌(胚細胞腫瘍)プレオマイシン・エトポシド・シスプラチン療法	婦人科	1	20060208
06-002	乳癌タキソール(Paclitaxel) weekly 療法	乳内科	2	20060110
06-003	乳癌タキソール(Paclitaxel) weekly +ハーセプチン療法	乳内科	2	20060110
06-010	胃癌トポテシン・S-1併用療法	胃外科	2	20060110
06-016	肺癌(小細胞)カルボプラチン・エトポシド療法	遺呼科	2	20060208
06-017	肺癌(小細胞)シスプラチン・エトポシド療法	遺呼科	1	20060208
06-019	乳癌ナベルピン 療法	乳内科	2	20060208
06-020	乳癌ナベルピン +ハーセプチン療法	乳内科	2	20060208
06-024	肺癌(非小細胞)タキソテール療法	遺呼科	2	20060306
06-025	肺癌(小細胞)ノギテカン療法	遺呼科	2	20060306
06-026	乳癌ハーセプチン単独療法	乳内科	2	20060306
06-027	乳癌トポテシン 療法	乳内科	2	20060306
06-042	乳癌FEC100療法	乳内科	2	20060410
06-043	肺癌(非小細胞)シスプラチン・ドセタキセル療法	遺呼科	2	20060410
06-057	肺癌(非小細胞)シスプラチン・ヒルルビン療法	遺呼科	1	20060612
06-058	子宮頸癌化学放射線療法CDDP	婦人科	1	20060612
06-069	子宮体癌アドリアマイシン・シスプラチン療法	婦人科	2	20060710
06-070	肺癌(非小細胞)シスプラチン・ゲムシタピン療法	遺呼科	2	20060710
06-086	胃癌CDDP/TS-1療法	腫瘍内科	2	20060831
06-092	同種骨髄移植CY-TBI	血免科	1	20061002
06-093	多発性骨髄腫自家移植 MEL-100	血免科	2	20061002
06-103	腎癌IL2療法	泌尿科	1	20061204
06-105	初発悪性神経膠腫テモゾロミド療法(放射線療法併用)	脳外科	2	20061204
06-107	悪性神経膠腫テモゾロミド療法(維持)	脳外科	2	20061204
07-031	急性骨髄性白血病IDR+AraC療法	血免科	1	20070611
07-032	多発性骨髄腫VAD療法(low dose)	血免科	2	20070611
07-035	ベバシズマブ+FOLFOX4療法(5)	腫瘍内科	2	20070709
07-036	ベバシズマブ+FOLFOX4療法(10)	腫瘍内科	2	20070709
07-037	ベバシズマブ+FOLFOX6療法(5)	腫瘍内科	2	20070709
07-039	ベバシズマブ+de Gramont療法	腫瘍内科	2	20070709
07-040	ベバシズマブ+sLV5FU療法	腫瘍内科	2	20070709
07-041	ベバシズマブ+RPMI療法	腫瘍内科	2	20070709
07-042	ベバシズマブ+FOLFIRI療法	腫瘍内科	2	20070709
07-050	悪性胸膜中皮腫シスプラチン・ペメトレキセド療法	遺呼科	2	20070709
07-052	骨肉腫MFH・CDDP+ADR療法	腫瘍内科	2	20070903
07-053	COG Osteosarcoma Regimen A (ADM-CDDP)	小児科	2	20070903
07-054	COG Osteosarcoma Regimen A (HDMTX)	小児科	2	20070903
07-072	急性骨髄性白血病DNR・AraC療法	血免科	2	20071119
07-074	尿路上皮癌M-VAC療法	泌尿器科	1	20071217
07-075	精巣腫瘍BEP療法	泌尿器科	1	20071217
07-076	急性骨髄性白血病地固めACR-AraC療法	血免科	2	20071217
07-077	急性骨髄性白血病地固めA triple V療法	血免科	2	20071217
07-078	急性骨髄性白血病地固めDNR-AraC療法	血免科	2	20071217
07-079	急性骨髄性白血病地固めMIT-AraC療法	血免科	2	20071217
08-014	乳癌ハーセプチン単独3週毎療法	乳内科	2	20080407
08-015	乳癌タキソテール+エンドキサン療法(triweekly)	乳内科	2	20080514

受付番号	プロトコール名	申請科	エビデンス レベル	審査日
08-044	腎細胞癌Sorafenib 単剤内服療法	腫瘍内科	2	20081006
08-045	腎細胞癌Sunitinib 単剤内服療法	腫瘍内科	2	20081006
08-046	肺癌(非小細胞)ゲフィチニブ療法	呼吸器内科	2	20081006
08-047	肺癌(非小細胞)エルロチニブ療法	呼吸器内科	2	20081006
08-048	大腸癌Cetuximab単剤療法	腫瘍内科	2	20081117
08-049	Cetuximab+CPT-11併用療法	腫瘍内科	2	20081117
08-050	ゾレドロン単剤療法	腫瘍内科	2	20081117
08-052	慢性リンパ性白血病FC療法	血液内科	2	20081117
08-055	低悪性度リンパ腫ゼヴァリン療法(リツキシマブ)	血液内科	2	20081215
09-078	大腸癌ベバシズマブ・CapeOX療法	腫瘍内科	1	20091026
09-079	大腸癌CapeOX療法	腫瘍内科	1	20091026
09-016	尿路上皮癌MEC療法	泌尿器科	2	20090323
09-017	マイトマイシン膀胱療法	泌尿器科	2	20090323
09-018	ビノルビン膀胱療法	泌尿器科	2	20090323
09-019	JALSGAPL97 induction A	血液内科	2	20090323
09-020	JALSGAPL97 induction B	血液内科	2	20090323
09-021	JALSGAPL97 induction D	血液内科	2	20090323
09-022	JALSGAPL97 induction C	血液内科	2	20090323
09-023	JALSGAPL97 consolidation 1	血液内科	2	20090323
09-024	JALSGAPL97 consolidation 2	血液内科	2	20090323
09-025	JALSGAPL97 consolidation 3	血液内科	2	20090323
09-034	尿路上皮癌GEM-CDDP療法	泌尿器科	2	20090427
09-049	卵巣癌Doxil療法	婦人科	2	20090525
09-053	肺癌(非小細胞)ペメトレキセド療法	呼吸器内科	2	20090629
09-068	肺癌(非小細胞)カルボプラチン・アリムタ併用療法	呼吸器内科	2	20090727
09-072	急性骨髄性白血病寛解導入DNR-AraC療法(DNR5日間)	血液内科	2	20090824
09-081	悪性胚細胞性腫瘍 PEB療法	小児科	2	20091026
09-082	小児急性骨髄性白血病(再発)IDA-FLAG療法	小児科	2	20091026
09-083	小児急性骨髄性白血病(再発)FLAG療法	小児科	2	20091026
09-084	肺癌(非小細胞)シスプラチン・ペメトレキセド療法	呼吸器内科	2	20091026
09-095	肺癌(非小細胞)ベバシズマブ+タキソール・カルボプラチン療法	呼吸器内科	2	20091221
10-007	胆道癌GEM/CDDP療法	肝胆膵外科	2	20100222
10-011	乳癌パクリタキセル・ゲムシタピン療法	乳癌科	2	20100329
10-012	乳癌ドセタキセル(triweekly)・ゲムシタピン療法	乳癌科	2	20100329
10-020	初発悪性神経膠腫テモゾロミド注射療法(放射線療法併用)	脳神経外科	2	20100531
10-021	悪性神経膠腫テモゾロミド注射療法(放射線療法併用後維持/再発症例)	脳神経外科	2	20100531
10-032	卵巣癌PLDC療法	婦人科	2	20100726
10-041	大腸癌Panitumumab療法療法	腫瘍内科	2	20100830
10-051	Ewing肉腫/PNET VDC・IE交代療法	腫瘍内科	2	20101129
10-059	乳癌nab-パクリタキセル療法	腫瘍内科	2	20101227
10-062	腎癌テムシロリムス療法	泌尿器科	2	20101227
11-005	カルボプラチン・内服S1療法	呼吸器外科	2	20110228
11-008	卵巣癌ゲムシタピン療法	婦人科	2	20110228
11-012	卵巣癌ノギテカン療法	婦人科	2	20110425
11-014	未分化大細胞型リンパ腫ALCL99(コースP、AM、BM)	小児科	2	20110425
11-015	胃癌Trastuzumab+XP療法	腫瘍内科	2	20110425
11-049	乳癌エリブリン療法	乳癌科	2	20111031
11-055	膀胱癌Gemcitabine+erlotinib療法	腫瘍内科	2	20111226
11-056	乳癌Paclitaxel+Bevacizumab療法	乳癌科	2	20111226
12-014	乳癌フルベストラント療法	乳癌科	2	20120326
12-028	転移性骨腫瘍denosumab療法	腫瘍内科	1	20120730
12-031	悪性黒色腫DTIC単剤療法	腫瘍内科	2	20120827
12-032	軟部肉腫ADR単剤療法	腫瘍内科	2	20120827
12-067	多発性骨髄腫ボルテゾミブ皮下注	血液免疫科	2	20130130
13-001	切除不能進行再発頭頸部がんCmab+CBDCa+5-FU療法	腫瘍内科	2	20130130
13-002	切除不能進行再発頭頸部がんCmab+FP療法	腫瘍内科	2	20130130
13-003	局所進行頭頸部がん放射線併用Cmab療法	腫瘍内科	2	20130130
13-004	肺癌(非小細胞)ベバシズマブ維持療法(3週間隔)	呼吸器内科	1	20130227
13-018	肺癌(非小細胞)カルボプラチン・nabパクリタキセル療法	呼吸器内科	2	20130325
13-024	Her2陽性胃癌Trastuzumab+FP療法	腫瘍内科	2	20130523
13-032	横紋筋肉腫成人COG-VAC CPA 1200mg/m <sup>2</sup> 療法	腫瘍内科	2	20130624
13-040	肺癌(非小細胞)シスプラチン・ペメトレキセド・ベバシズマブ療法	呼吸器内科	2	20130722
13-043	肺癌(非小細胞)ペメトレキセド・ベバシズマブ維持療法	呼吸器内科	2	20130826
13-059	乳癌ペルツズマブ+トラスツズマブ+ドセタキセル療法	乳腺内分泌科	2	20130925
13-062	子宮体癌・子宮肉腫 ドキソルピシン単剤療法	婦人科	2	20131028
13-112	子宮癌肉腫TI療法	婦人科	2	20131216
13-116	血管炎リツキシマブ療法	血液免疫科	2	20131216
14-002	LGG CV療法 Induction	小児科	2	20140224
14-003	LGG CV療法 Maintenance	小児科	2	20140224
14-009	膀胱癌 FOLFIRINOX療法	腫瘍内科	2	20140224
14-010	大腸癌 ベバシズマブ+SOX療法	腫瘍内科	2	20140224
14-011	卵巣癌パクリタキセル・カルボプラチン+Bevacizumab療法	婦人科	2	20140331
14-012	卵巣癌Bevacizumab維持療法	婦人科	2	20140331
14-045	子宮頸癌 パクリタキセル・カルボプラチン療法	婦人科	1	2014/6/30
14-051	子宮頸癌 シスプラチン化学放射線療法	婦人科	1	2014/7/28
14-056	乳癌トラスツズマブ・エムタンシン(T-DM1)療法	乳腺・内分泌科	2	2014/7/28
14-076	大腸癌トリフルリジン・チピラシル塩酸塩配合錠(ロンサーフ)	腫瘍内科	2	2014/8/25
14-103	肛門管癌 5-FU+MMC療法	腫瘍内科	2	2014/11/27
14-104	卵巣癌 ゲムシタピン・カルボプラチン+ベバシズマブ療法	婦人科	2	2014/11/27

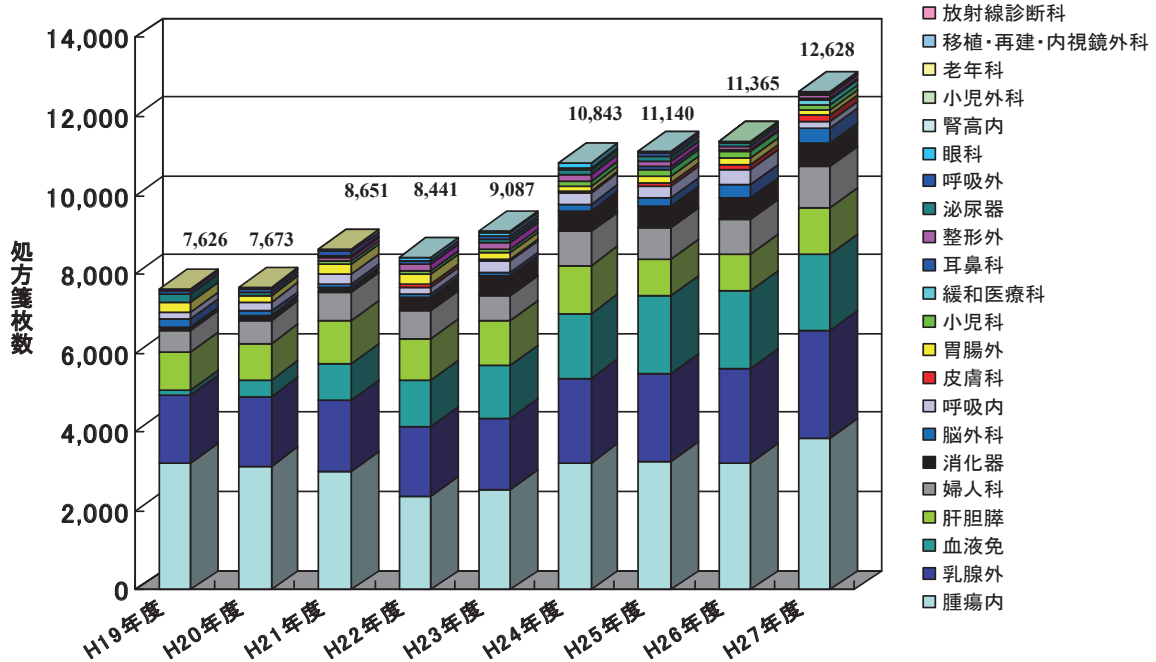
受付番号	プロトコール名	申請科	エビデンス レベル	審査日
14-105	卵巣癌 リポソーム化ドキソルビシン+ペバツシマブ療法	婦人科	2	2014/11/27
14-121	前立腺癌 カバジタキセル療法	泌尿器科	2	2015/1/26
14-126	胃癌 SOX療法	腫瘍内科	2	2015/1/26
14-127	膀胱癌 nab-PTX+GEM療法	腫瘍内科	2	2015/1/26
15-013	卵巣癌 毎週パクリタキセル+ペバシズマブ療法	婦人科	2	2015/3/30
15-032	子宮頸癌(進行・再発)TP療法	婦人科	2	2015/5/25
15-065	胃癌ラムシルマブ・パクリタキセル併用療法	腫瘍内科	2	2015/7/27
15-066	胃癌ラムシルマブ療法	腫瘍内科	2	2015/7/27
15-070	絨毛性疾患アクチノマイシンD単剤療法	婦人科	2	2015/8/24
15-099	悪性黒色腫イピリムマブ療法	腫瘍内科	2	2015/10/26
15-140	軟部肉腫トラベクテジン単剤療法	腫瘍内科	2	2016/1/25
16-001	肺癌(非小細胞)ニボルマブ単剤療法	呼吸器内科	2	2016/1/25
16-018	肺癌(扁平上皮癌)ネダブラチン+ドセタキセル併用療法	呼吸器内科	2	2016/2/29
16-025	マンデル細胞リンパ腫 VR-CAP療法(ボルテゾミブ皮下注)	血液免疫科	2	2016/3/28
16-026	悪性黒色腫2週毎ニボルマブ単剤療法	腫瘍内科	2	2016/3/28
16-029	マンデル細胞リンパ腫 VR-CAP療法(ボルテゾミブ静注)	血液免疫科	2	2016/3/28
16-030	頭頸部癌DTX+CDDP+5-FU療法	腫瘍内科	2	2016/3/28



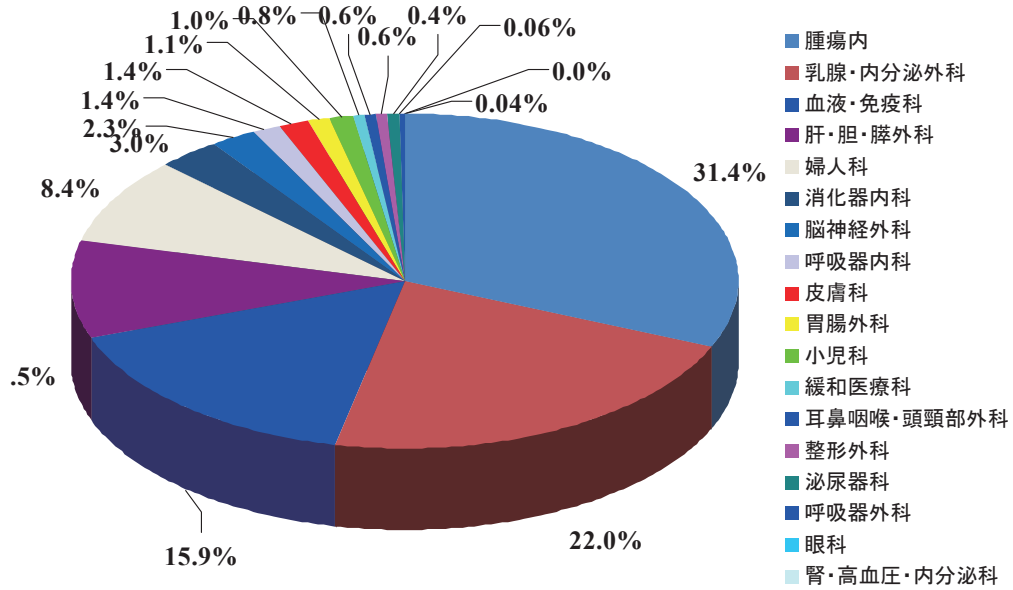
化学療法センター診療科別利用状況（H27年4月～H28年3月）〔処方枚数〕

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
腫瘍内科	326	305	331	319	306	316	324	313	317	303	348	356	3864
乳腺・内分泌外科	253	194	235	250	234	239	241	211	198	216	201	241	2713
血液・免疫科	166	153	144	172	146	166	199	148	171	148	165	175	1953
肝・胆・膵外科	96	100	82	101	102	83	100	94	95	107	109	95	1164
婦人科	80	79	91	83	93	85	101	82	80	86	88	90	1038
消化器内科	42	45	45	42	51	48	70	40	65	52	50	58	608
脳神経外科	29	21	36	28	33	31	37	20	34	30	33	35	367
呼吸器内科	23	23	21	11	8	8	7	6	8	16	18	23	172
皮膚科	14	8	16	15	15	14	18	14	14	18	10	14	170
胃腸外科	13	4	8	8	10	14	10	17	12	9	16	17	138
小児科	9	10	8	14	10	8	8	7	11	14	10	13	122
緩和医療科	0	0	4	17	10	11	13	9	9	8	7	7	95
耳鼻咽喉・頭頸部外科	4	4	6	5	5	4	4	6	8	3	8	12	69
整形外科	5	5	5	7	6	5	8	5	6	6	4	7	69
泌尿器科	3	3	5	4	4	5	6	2	2	3	2	6	45
呼吸器外科	2	4	4	4	2	2	4	2	2	2	2	2	32
眼科	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	6
腎臓・高血圧・内分泌科	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	3
計	1065	959	1041	1081	1036	1041	1150	978	1032	1022	1071	1152	12628

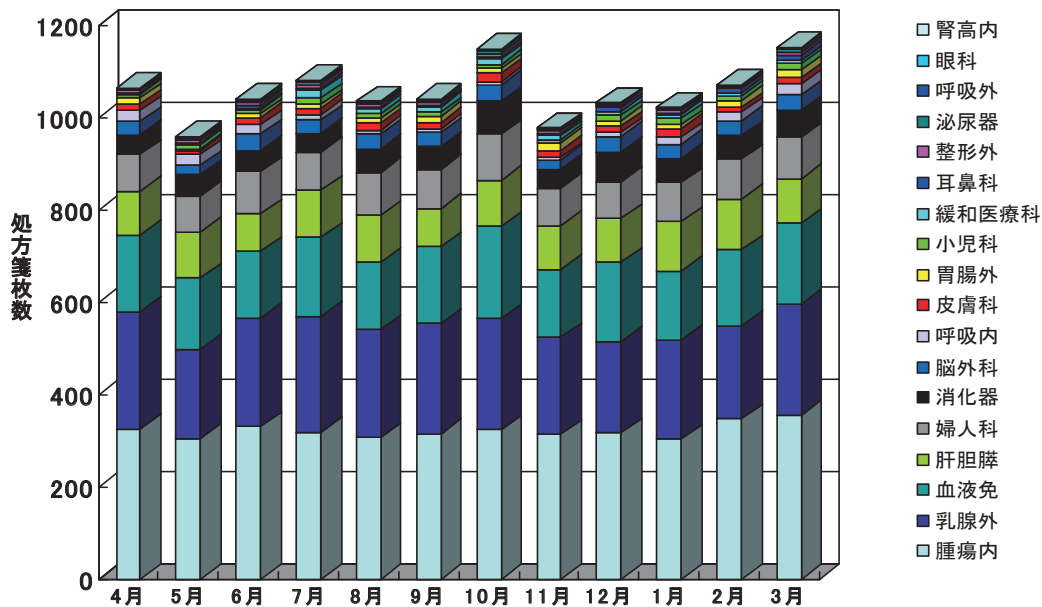
化学療法センター年度別利用状況（実施処方箋枚数）



### 平成 27 年度診療科別、化学療法センター利用割合



### 平成 27 年度化学療法センター診療科別利用状況（月別）



化学療法センタープロトコール別利用状況 (H27年4月～H28年3月)

利用別	プロトコール名	処方枚数	プロトコール名	処方枚数
膵癌	nab-PTX+GEM療法	578	治験 低悪性度B細胞性リンパ腫 Copanlisib 45mg療法	19
クローン病	インフリキシマブ療法	487	胃癌3週ドセタキセル療法	18
関節リウマチ	トシリズマブ療法	426	子宮体癌ドセタキセル療法	18
乳癌	ペバシズマブ・毎週パクリタキセル療法	417	肺癌(非小細胞)PEM/BV療法(CBDCA/PEM/BVの維持療法)	17
大腸癌	ペバシズマブ(5)・FOLFIRI療法	394	肺癌(非小細胞)ドセタキセル療法(2時間)	17
膵癌	ゲムシタピン療法	382	臨床試験 ALL-B12 Maintenance+VD SR群	17
乳癌	トラスツズマブ単独3週毎療法(2回目以降)	335	臨床試験 胃癌HER+DTX療法(T-CORE1203)2回目以降	16
関節リウマチ	アバセプト療法	300	臨床試験 大腸癌T-CORE 0702 IRIS・Bev(7.5)	16
臨床試験	胃癌毎週パクリタキセル療法	276	大腸癌Pmab単独療法	16
膵癌	FOLFIRINOX療法(外来)	268	臨床試験 HER2陽性胃癌SPT3週毎療法(2回目以降)	15
卵巣癌	パクリタキセル・カルボプラチン療法	244	大腸癌Pmab+modFOLFOX6療法(外来)	15
大腸癌	ペバシズマブ(5)・FOLFOX6療法	241	治験 肺癌(非小細胞)ラムシルマブ・ドセタキセル療法	15
乳癌	FEC100療法(アプレピタントカプセル版)	201	子宮内膜癌・子宮肉腫トキソリン単剤療法	15
関節リウマチ	インフリキシマブ療法	200	卵巣癌リポ化ドキソリン療法	15
胃癌	ラムシルマブ・パクリタキセル併用療法	199	卵巣癌ノゲテカン療法	15
胆道癌	ゲムシタピン療法	197	B細胞性リンパ腫R-GCVP療法	15
大腸癌	modFOLFOX6療法(外来)	192	食道癌ドセタキセル療法	14
進行・再発悪性神経腫瘍	ペバシズマブ単独療法(3週)	192	乳癌毎週パクリタキセル療法(量体表面積)(ゾレドロン酸版)	14
乳癌	フルベストラント療法	182	卵巣癌(胚細胞腫瘍)BEP療法	14
肺癌(非小細胞)	ベメトレキセド療法	151	卵巣癌 リボゾム化トキソリン+ペバシズマブ療法	14
乳癌	エリブリン療法	147	治験 non-GCB DLBCL Ibrutinib R-CHOP療法	14
シクロホスファミドパルス療法		139	肺癌(非小細胞)ペバシズマブ維持療法	13
全身性エリテマトーデス	シクロホスファミドパルス療法	139	多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎トシリズマブ	13
ベーチェット病	インフリキシマブ療法	139	臨床試験 大腸癌mFOLFOX6+Cmab療法(ATOM試験2回目以降)	12
大腸癌	modFOLFIRI療法(外来)	134	肺癌(小細胞)アムルピシン療法(1時間)	12
食道癌	wPTX療法	128	乳癌ゲムシタピン療法	12
潰瘍性大腸炎	インフリキシマブ療法	126	治験 再発低悪性度リンパ腫 AUGMENT-RR療法 C2-5	12
胃癌	イリノテカン単独隔週療法	125	肺癌(非小細胞)カルボプラチン・ベメトレキセド療法	11
胆道癌	ゲムシタピン・シスプラチン療法	125	肺癌(非小細胞)カルボプラチン+nabパクリタキセル療法	11
乳癌	毎週パクリタキセル療法(量体表面積)	125	乳癌3週ドセタキセル療法(量体表面積)(ゾレドロン酸版)	11
卵巣癌	ゲムシタピン療法	119	乳癌ゲムシタピン・トラスツズマブ療法	11
キャッスルマン病	トシリズマブ療法	115	卵巣癌 毎週パクリタキセル+ペバシズマブ療法	11
乳癌	ペバシズマブ・毎週パクリタキセル療法(ゾレドロン酸版)	113	卵巣癌パクリタキセル単剤毎週投与	11
胆道癌	ゲムシタピン・シスプラチン療法	106	切除不能再発頭頸部癌Cmab+CBDCA+5-FU(初回)	11
絨毛性疾患	メトトレキサート筋注療法(5日間連日)	98	非ホジキンリンパ腫CHOP療法	11
膵癌	ゲムシタピン・S-1(3週)療法	95	悪性リンパ腫リツキシマブ・ベンダムスチン療法	11
乾癬	インフリキシマブ療法	95	全身性若年性特発性関節炎 トシリズマブ療法	11
乳癌	ヘルツマブ+トラスツズマブ+ドセタキセル療法(2回目以降)	91	胃癌ラムシルマブ療法	10
非ホジキンリンパ腫	R-CHOP療法	90	臨床試験 大腸癌パニツマブ+mFOLFOX6療法(SAPPHIRE試験)	10
乳癌	ドセタキセル・シクロホスファミド療法(triweekly)	87	治験 未治療低悪性度リンパ腫GA101 GA101維持療法	10
非ホジキンリンパ腫	リツキシマブ	86	臨床試験 大腸癌パニツマブ+sLV5FU療法(SAPPHIRE試験)	9
臨床試験	胆道癌 KHBO1401試験 GCS群	84	乳癌トラスツズマブ・毎週イリノテカン療法	9
乳癌	トラスツズマブ・エムタンシン(T-DM1)療法	83	乳癌ビノレルピン・トラスツズマブ療法(Her時ゾレドロン酸版)	9
切除不能再発頭頸部癌	Cmab+CBDCA+5-FU(2回目以降)	82	治験 未治療低悪性度リンパ腫GA101 Rituximab維持療法	9
臨床試験	大腸癌T-CORE1201 Cmab+modFOLFIRI療法	80	治験 再発低悪性度リンパ腫 AUGMENT-RR療法 C1	9
乳癌	ビノレルピン療法	79	治験 再発低悪性度リンパ腫 R-idelalisib療法(導入)	9
臨床試験	胆道癌 KHBO1401試験 GC群	75	胃癌nab-パクリタキセル療法	8
肉腫	ゲムシタピン・ドセタキセル療法	75	治験 胃癌ABI-007 毎週パクリタキセル療法	8
乳癌	ビノレルピン・トラスツズマブ療法	74	肺癌(小細胞)シスプラチン・イリノテカン療法	8
大腸癌	ペバシズマブ(5)・sLV5FU療法	73	再発・難治性骨肉腫ゲムシタピン・ドセタキセル療法	8
臨床試験	TRICOLORE 大腸癌SIRB療法(B群)	73	悪性黒色腫イリリマブ療法(イリリマブは処方医登録制)	8
進行・再発悪性神経腫瘍	ペバシズマブ単独療法(2週)	71	毛様細胞性星状細胞腫カルボプラチン療法	8
悪性黒色腫	3週毎ニホルマブ療法(ニホルマブは処方医登録制)	70	ランゲルハンス細胞組織球症(成人)JLSG-02	8
乳癌	nab-パクリタキセル療法	69	肺癌(小細胞)イリノテカン療法	7
乳癌	ドセタキセル・triweeklyトラスツズマブ療法	68	肺癌(非小細胞)ゲムシタピン・ビノレルピン療法	7
市販後臨床試験	乳癌ヘルツマブ、HER、DTX療法2回目以降	68	乳癌トラスツズマブ単独3週毎療法(初回)	7
神経腫瘍	ニムスチン療法	68	膀胱癌マイトマイシンC療法	7
子宮体癌	パクリタキセル・カルボプラチン療法	64	臨床試験 LCH12 早期維持A-a/b	7
大腸癌	ペバシズマブ+SOX療法	63	血管ベーチェット病 インフリキシマブ療法	7
卵巣癌	ケムシタピン・カルボプラチン+ペバシズマブ療法	62	大腸癌Cetuximab+CPT-11併用療法(2コース以降)	6
乳癌	3週ドセタキセル療法(量体表面積)	61	悪性黒色腫DTIC単剤療法	6
臨床試験	TRICOLORE 大腸癌mFOLFOX+BV療法(A群)	59	乳癌nab-パクリタキセル療法(ゾレドロン酸版)	6
大腸癌	CapeOX療法	55	子宮頸癌ドセタキセル・カルボプラチン療法	6
切除不能進行再発頭頸部癌	Cmab+FP療法(2回目以降)	55	子宮体癌パクリタキセル療法	6
乳癌	トラスツズマブ単独療法(2回目以降)	52	慢性リンパ性白血病オファツムマブ維持療法	6
乳癌	トラスツズマブ単独3週毎療法(2回目以降)(ゾレドロン酸版)	51	臨床試験 LCH12 後期維持C-a/b	6
卵巣癌	Bevacizumab維持療法	51	血管炎 リツキシマブ療法	6
LGG	CBDCA/VCR療法 Maintenance	50	大腸癌Cetuximab単独療法(2コース以降)	5
大腸癌	パニツマブ+イリノテカン療法	48	大腸癌Pmab+modFOLFIRI療法(外来)	5
肺癌(非小細胞)	PEM/BV療法(CDDP/PEM/BVの維持療法)	48	乳癌FEC100療法(アプレピタントカプセル)(ゾレドロン酸版)	5
乳癌	ビノレルピン療法(ゾレドロン酸版)	47	卵巣癌ドセタキセル単剤3週間投与	5
切除不能進行再発頭頸部癌	Cmab+FP療法(初回)	47	尿路上皮癌ゲムシタピン・シスプラチン療法	5
治験	全身性エリテマトーデスBelimumab療法(継続)	46	治験CD30陽性T細胞リンパ腫SGN35 A-CHP療法	5
大腸癌	ペバシズマブ・CapeOX療法	45	治験 皮膚T細胞性リンパ腫 KW-0761療法 サイクル2以降	5

プロトコール名	処方枚数	プロトコール名	処方枚数
子宮頸癌 パクリタキセル・カルボプラチン療法	45	治験 低悪性度B細胞リンパ腫 Ibrutinib R-CHOP療法	5
胃癌 SOX療法	44	急性リンパ性白血病(ALL202 O 維持療法)	5
乳癌フルベストラント療法(ゾレドロン酸版)	42	臨床試験 神経内分泌癌 JCOG1213 B群 IP療法	5
治験 乳癌NK105療法	42	臨床試験 HER2陽性胃癌SPT3週毎療法(初回)	4
乳癌エリブリン療法(ゾレドロン酸版)	41	臨床試験 胃癌HER+DTX療法(T-CORE1203)(初回)	4
乳癌エリブリン+3週毎トラスツマブ療法(2回目以降)	41	臨床試験 膵癌術前GEM-S1/Rad療法(Prep-03)	4
卵巣癌イリノテカン単剤療法	41	悪性胸膜中皮腫シスプラチン・ベメトレキド療法	4
卵巣癌ドセタキセル・カルボプラチン療法	41	臨床試験 NSCLC CBDCA・PEM・Bev療法	4
原発不明癌TJ療法	41	横紋筋肉腫成人COG-VAC(CPA 1200mg/m <sup>2</sup> )療法	4
子宮肉腫ゲムシタピン・ドセタキセル療法	39	治験 濾胞性リンパ腫 Ibrutinib BR療法	4
治験 ホジキンリンパ腫 nivolumab (ONO-4538)療法	39	治験 rituximab抵抗性悪性リンパ腫OB療法(A群)	4
血管肉腫毎週パクリタキセル療法	38	大腸癌イリノテカン隔週療法	3
軟部肉腫ADR単剤療法	36	肺癌(非小細胞)カルボプラチン・毎週ハクシタキセル療法	3
大腸癌ベバシズマブ(5)・FOLFOX6療法Ca/Mg	35	肺癌(非小細胞)カルボプラチン・S-1療法	3
前立腺癌3週ドセタキセル療法	35	臨床試験 肺癌(非扁平上皮癌)PEM・BEV療法	3
多発性骨髄腫ボルテゾミブ療法(皮下注射)	35	乳癌CEF(シクロホスファミド内服)療法(血管痛時)	3
治験 再発難治性T細胞性リンパ腫Romidepsin療法	34	乳癌ヘルツマブ+トラスツマブ+ドセタキセル療法(初回)	3
膵癌術前GEM-S1療法(Prep-02)	33	乳癌ヘルツマブ+トラスツマブ+DTX療法(初回)ゾマ版	3
乳癌CEF(シクロホスファミド点滴)療法(血管痛時)	33	乳癌ハクシタキセル、ヘルツマブ、トラスツマブ療法(初回)	3
子宮頸癌イリノテカン療法	33	尿路上皮癌 パクリタキセル・カルボプラチン療法	3
ホジキンリンパ腫・未分化大細胞リンパ腫ブレリキシマブ+ベトチン療法	33	治験 皮膚T細胞性リンパ腫 KW-0761療法 サイクル1	3
乾癬性関節炎インフリキシマブ療法	33	神経内分泌腫瘍 ストレプトゾシン毎週療法	3
乳癌ヘルツマブ+トラスツマブ+DTX療法(2回目以降)ゾマ版	32	本態性血小板増加症ラニムスチン療法	3
臨床試験 胃癌Trastuzumab+ドセタキセル療法(2コース目以降)	30	臨床試験 胃癌Trastuzumab+ドセタキセル療法(初回)	2
乳癌ハクシタキセル、ヘルツマブ、トラスツマブ療法(2回目以降)	30	肺癌(非小細胞)カルボプラチン・ゲムシタピン療法	2
LGG Vinblastine療法	30	乳癌FEC100療法(ホスアプレビタント注版)	2
ホジキンリンパ腫ABVD療法	29	子宮頸癌 シスプラチン化学放射線療法	2
臨床試験 切除不能進行・再発胆道癌Pmab療法(校費)	28	子宮体癌アドリマイシン・シスプラチン療法	2
乳癌ゲムシタピン・トラスツマブ療法(GEM時ゾレドロン酸版)	28	治験 尿路上皮癌ドセタキセル・ラムシルマブ併用療法	2
臨床試験 大腸癌T-CORE1201 Cmap+modFOLFOX療法	27	治験 頭頸部癌MK-3475 C群Cmap+FP療法(初回)	2
治験 多発性骨髄腫 ELd療法 C1-2	26	悪性リンパ腫ベンダムスチン療法	2
臨床試験 膵癌術前GEM-S1療法(NAC-GS2+2)	25	絨毛性疾患 パクリタキセル・カルボプラチン療法	2
乳癌ビルルビン・トラスツマブ療法(VNB時ゾレドロン酸版)	25	食道癌NACシスプラチン・5-FU療法	1
卵巣癌 TC+Bevacizumab療法(2回目以降)	25	臨床試験 胃癌Doc/S-1療法(JACCRO GC-03 A群)	1
治験 胃癌ABI-007 3週療法	24	臨床試験 胃癌TS-1/Docetaxel併用療法(JACCROGC07)	1
膵癌ゲムシタピン・S-1(4週)療法	24	大腸癌IRIS+Bev療法	1
治験 頭頸部癌MK-3475 C群Cmap+FP療法(2回目以降)	24	肺癌(非小細胞)シスプラチン・ビノレルビン療法	1
初発悪性神経膠腫 Bev+TMZ併用療法化学療法単独	23	肺癌(非小細胞)カルボプラチン・ハクシタキセル療法(3週間隔)	1
臨床試験 頭頸部癌 PCE療法(2回目以降)	23	子宮頸癌 4週毎ネタラチン療法	1
治験 胃癌ABI-007毎週療法	22	卵巣癌 TC+Bevacizumab療法(初回Bevなし)	1
子宮体癌ドセタキセル・カルボプラチン療法	21	前立腺癌 カバジタキセル療法	1
治験ホジキンリンパ腫 SGN35 ABVD療法	21	治験 OMB113676 Ofatumumab	1
治験ホジキンリンパ腫 SGN35 A+AVD療法	21	非ホジキンリンパ腫イリノテカン単独療法	1
治験 胃癌 A群 L-OHP+TAS-118療法	20	再発難治低悪性度リンパ腫経口フルタラチン・リツキシマブ療法	1
大腸癌sLVFU療法(外来)	20	臨床試験 ALL-B12 IM+VD(SR)中間維持療法 SR群	1
乳癌トラスツマブ・毎週ハクシタキセル療法(量体表面積)	20	臨床試験 JALSG Ph(-) B-ALL213 維持療法	1
肺癌(小細胞)カルボプラチン・エトポシド療法	19		

## 安全・安心ながん化学療法の実現に向けた薬剤部の取り組み

薬剤部長・教授 眞野 成康

薬剤師は、プロトコールの登録と管理を通してがん化学療法の標準化を推進すると共に、患者さんに有効かつ安全ながん治療を提供するために、一つひとつのステップを慎重に確認しながら薬剤を準備しています。また、がん化学療法について患者さんに分かりやすく説明し、安心してがん治療を受けていただけるよう積極的に治療に参画しています。

### 〈化学療法センター事務局〉

薬剤部は、化学療法センター事務局業務を行っており、がん化学療法に関するプロトコール審査委員会を運営するとともに、治療プロトコールの審査、登録および管理を行っています。多くのプロトコールでは、多種類の薬剤を組み合わせる化学療法を実施しますが、薬剤師は、治療効果のみならず、同時に使用する薬剤の相互作用による副作用の増強の可能性や、それらへの適切な対処などを含め、安全性の観点からも各プロトコールの有用性を審査しています。今日のがん化学療法の進歩は目覚しく、日々新たなエビデンスに基づくプロトコールが作成されています。平成 28年 3月末現在、当院では治験や臨床研究で用いるものも含めて 721種のプロトコールが登録されています。また、そのうち 124種のプロトコールを当院がんセンターのホームページ上で公開しており、地域の連携病院におけるがん治療の標準化に貢献しています。一方、治療法の進歩に伴って使用されなくなったプロトコールを客観的に再評価しており、常に最新の医療を患者さんに提供することを心がけております。

### 〈化学療法センターにおける注射用抗がん薬の混合調製〉

注射用抗がん薬の混合調製は、患者さんの安全確保と調製者の化学曝露防止の観点から、高度な知識と技術に基づいて無菌環境下で正確に行う必要があります。当院薬剤部では、調製手順表示機能と計量監査機能を有する抗がん剤調製支援システムを独自に開発し、これを活用して精度の高い調製を実現しています。近年のがん治療の急速な進歩に伴って化学療法センターで扱う処方箋枚数も増大しており、平成27年度は 12,628枚にも上っております。当院では、入院、外来に関わらず、登録されたプロトコールに基づいて実施されるすべてのがん化学療法における調剤および混合調製は薬剤師が担当しています。薬剤師が患者さんの体重や体表面積、血清クレアチニン値などの検査値、アレルギー歴、薬歴などを基に処方箋監査を行ったうえで、上記のシステムを駆使して高精度の混合調製を行っており、安全ながん化学療法の実現に貢献しております。

### 〈オリエンテーションと薬剤管理指導の実施〉

外来がん化学療法は、患者さんの QOL が向上する反面、帰宅後の副作用に基づく体調変化には、患者さんご自身に対処していただく必要があります。したがって、抗がん薬の副

作用とその対処法について、事前に患者さんに十分にご理解いただくことが重要であり、がん治療で化学療法センターを利用される全患者さんを対象に、治療前にオリエンテーションを行っております。ここでは、がん化学療法の基本を記載した「がん化学療法のしおり」を活用しており、薬剤師は①がん化学療法の概要、②予想される主な副作用とその発現時期や対処法について説明し、看護師は①点滴中の注意事項、②日常における体調管理のポイントを説明することで、安心してがん化学療法と向き合えるよう患者さんを支援しています。また、初回治療時には、プロトコールごとに薬剤部で独自に作成した患者用説明書を用いながら、治療スケジュールと抗がん薬の作用機序、予想される副作用の発現時期や頻度、その対処法を具体的に説明しています。こうした取り組みにより、在宅時においても、患者さんおよびご家族が適切に対処できるよう、安全・安心な治療の実現に向けて患者さんのサポートに努めております。

#### ＜安全ながん化学療法に向けた臨床研究＞

抗がん薬は添付文書に記載された用法・用量で治療しているにもかかわらず、患者さんによっては重篤な副作用を発現し、減量や中止に至ることもあります。こうした背景から、薬剤部では各診療科と臨床研究を行い、抗がん薬の血中濃度と治療効果や副作用との関連を調べ、個別化療法の構築に向けて取り組んでおります。薬物血中濃度測定は薬物相互作用の回避のみならず、重大な副作用を回避しつつ臨床効果を最大限に引き出すうえで極めて有用であり、安全で質の高いがん化学療法の実現に大きく貢献します。今後、さらに多くの臨床研究を実施し、患者さんの QOL 向上や予後の改善に繋がるエビデンスを当院から発信することにより、最適ながん化学療法の実現に貢献していきたいと考えております。

#### ＜薬・薬・医連携の強化＞

「薬・薬・医連携」とは保険薬局の薬剤師、病院の薬剤師および医師が情報を共有し、相互に連携することによって、患者さんに安全でより質の高い医療を提供するシステムのことです。保険薬局の薬剤師ががん患者さんに適切に医療を提供するには、医療者間の有機的な連携がきわめて重要となります。当院化学療法センターでは、「薬・薬・医連携」を推進しており、がん種や治療スケジュールの内容、及び患者さんの体表面積を記載したシールを「お薬手帳」に貼付し、保険薬局の薬剤師に情報提供する仕組みを構築しました。また、患者さんが内用抗がん薬と麻薬性鎮痛薬の服薬状況や、副作用の発現状況を毎日記入できる「治療手帳」を作成し、治療時に利用しております。これにより、医師、薬剤師、看護師が患者情報を共有できるうえ、病院及び保険薬局の薬剤師が必要な情報をその都度自由に記載でき、医療施設を超えてより密な連携が図れるようになりました。

このように薬剤部では、患者さんに対し、安全・安心ながん化学療法を提供するため、医療スタッフ間で連携しながら様々な業務に取り組んでおります。今後とも皆様のご協力をお願い致します。

井上 彰（緩和ケアセンター長）

昨年まで東北大学病院がんセンターにおける緩和ケア関連部署としては、2007年から運用が開始された「緩和ケアチーム」が属していましたが、都道府県がん診療連携拠点病院の指定要件として2016年度から「緩和ケアセンター」の設置が義務づけられたことにより、2015年7月に当院でも緩和ケアセンターが、がんセンターの下部組織として設立されました。緩和ケアセンターは、「緩和ケア病棟」「緩和ケアチーム」「緩和ケア外来」の機能を融合した組織です。以下に2015年の実績を報告します。

先ず2000年に開設され長年「緩和ケアセンター」の名称で親しまれてきた17階西病棟ですが、先述の改編により7月から「緩和ケア病棟」となりました。2015年度も183名の末期がん患者さんが入棟され、前年度から入院中の方をふくめ184名がお亡くなりになっています。148名が東北大学病院内からの紹介で、35名は院外からの紹介でした。臓器別には、呼吸器系が41名、消化器系が40名、婦人科系が21名、などとなっております。歯科、リハビリテーション科、精神科と連携して、患者さんのQOLとADLの維持に努めるとともに、ご希望に沿って音楽療法士や臨床宗教師の協力も得て、物心両面から患者さん、ご家族に良い時間を過ごしていただけるよう努めています。

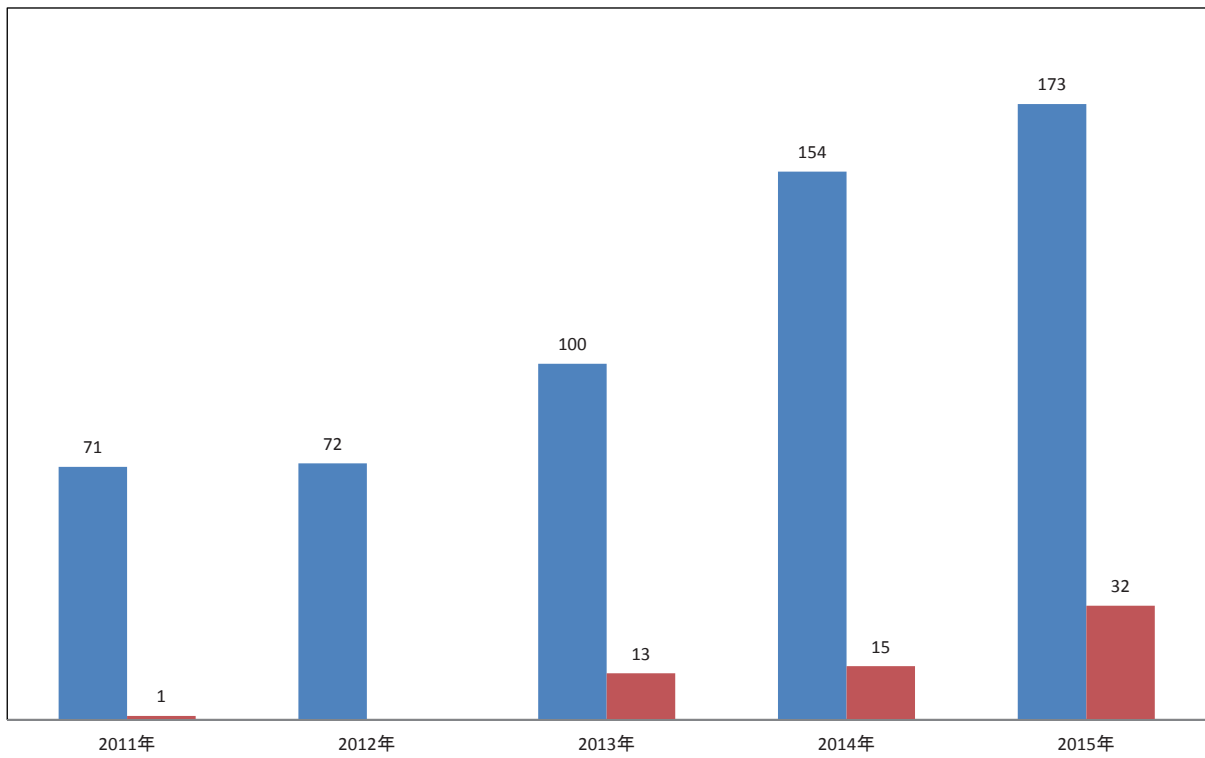
当院の各診療科に入院中の患者さんを対象とした「緩和ケアチーム」については、2015年の新規依頼は173件（うち、がん患者が170件）で前年から19件の増加でした（図1）。病室への定期的な往診により、緩和ケア診療加算を述べ1143件いただいております。主な紹介元は乳腺外科、呼吸器内科、泌尿器科、婦人科、腫瘍内科などですが、その他多くの診療科からご依頼を受けています（図2）。依頼内容の多くは疼痛（142件）ですが、精神症状（94件）や疼痛以外の身体症状（65件）も多く、今後の療養先や家族ケアについての相談もありました（各24件、13件）。同チームは緩和ケア医、精神科医、認定看護師、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーなどで構成され、毎週木曜14時にはカンファレンスを開き、患者さんが抱える様々な悩みについて各々の専門家が知恵を出し合って「チーム医療」を実践しています。

また、これまで外来B棟1階にある緩和医療科外来では、緩和ケア病棟への入棟に向けて、患者さん・ご家族との面談のみを行っていましたが、2015年からは（当院・他院を問わず）他の診療科に外来通院中の患者さんに対する「緩和ケア外来」も積極的に行っており、実際に他科からの依頼数は増えています（図1）。近年緩和ケアは、いわゆる「終末期（ターミナル）ケア」だけでなく、「がんと診断された時から」実施すべきとされており、それを言葉どおり実践しています。さらに、がんに関する情報提供や様々な不安に対するカウンセリングを目的とした「認定看護師によるがん看護外来」もパイロット的に乳腺外科および腫瘍内科で運用を開始し、毎月数十件のがん患者指導管理料をいただいております（図3、4）。

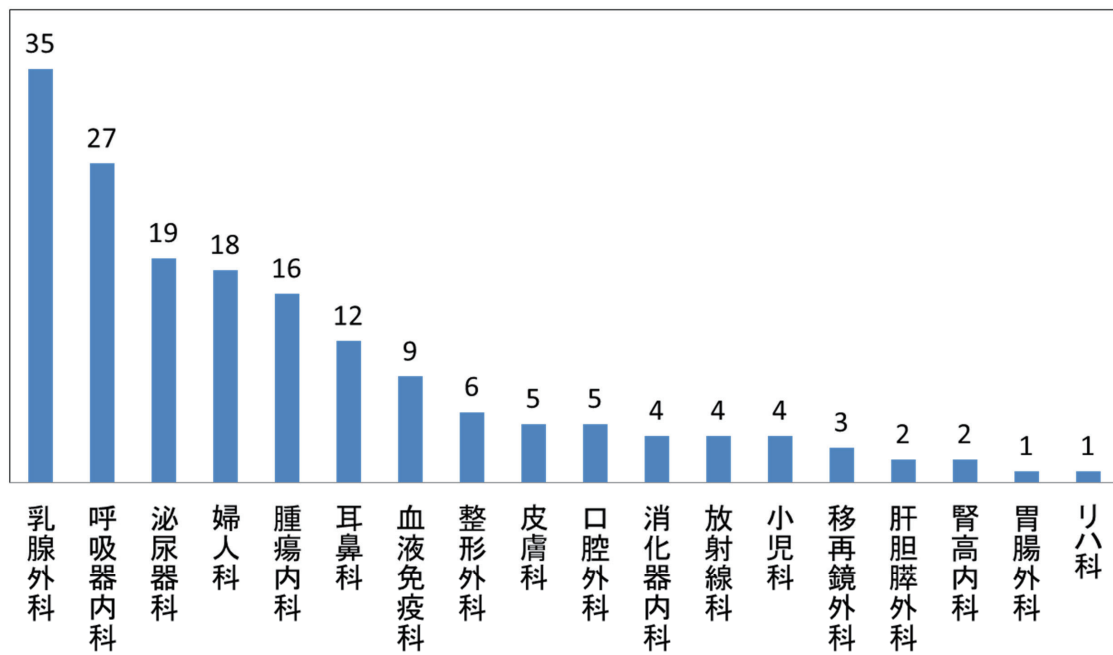
上記3部門の診療以外にも、緩和ケアセンターには「院内全体における苦痛のスクリーニング」の主導、各種セミナーや研修会を通じた院内医療スタッフの緩和ケアスキルの向上、地域の病院や在宅ケア施設との連携強化、など多くの役割が課せられており、関係各所との協力を得ながら体制を整備している状況です。

## 緩和ケアチーム依頼数

■入院 ■外来

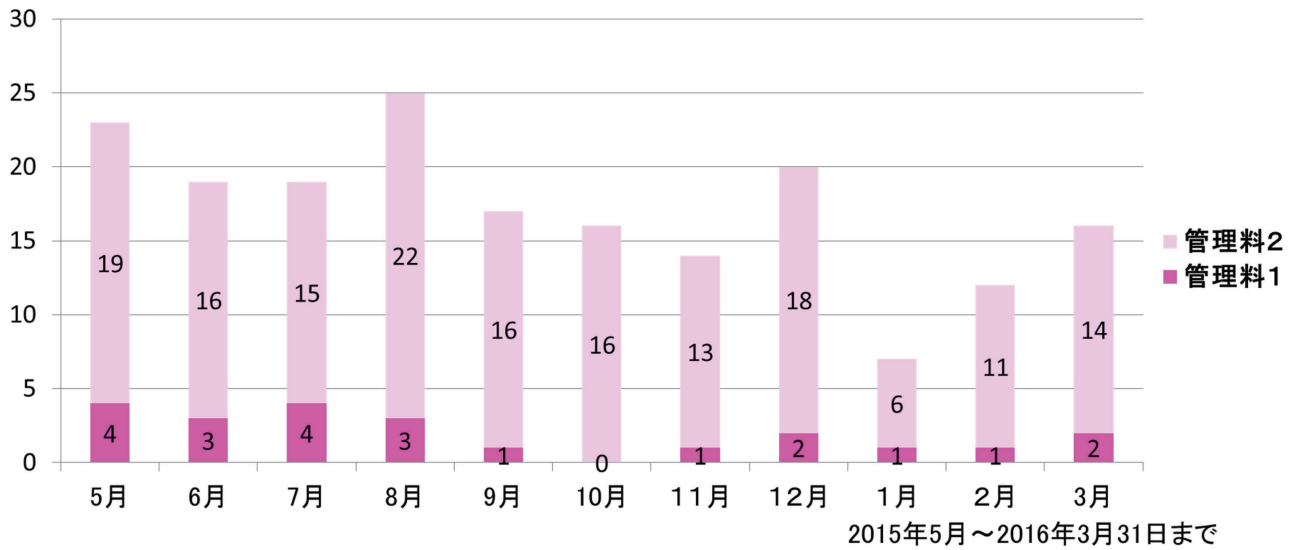


## 依頼診療科 (2015年度) n=173件

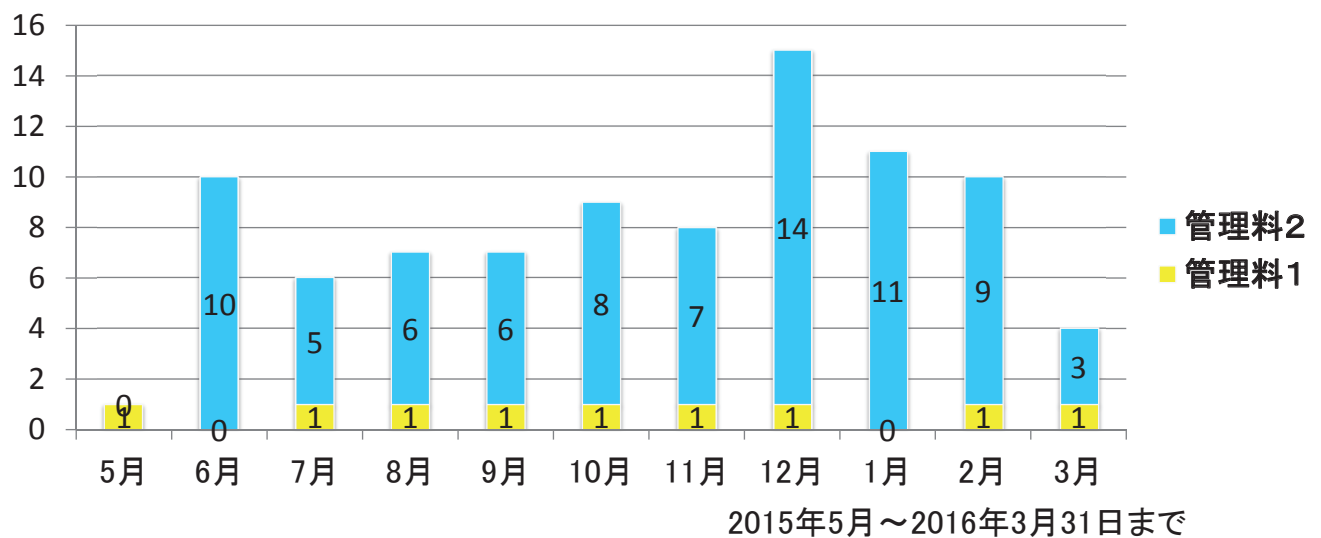




乳腺外科からの「がん看護外来」紹介数



腫瘍内科からの「がん看護外来」紹介数



## 平成 27 年度 先進包括的がん医療推進室 活動報告

先進包括的がん医療推進室室長、地域がん医療推進センター教授

森 隆弘

### はじめに

厚生労働省補助金による宮城県地域医療再生事業の地域がん医療再生を推進する目的で、東北大学病院がんセンターに「先進包括的がん医療推進室（以下、推進室）」が開設されてから 4 年が経過したが、宮城県の方針により今年度で同事業が終了することとなった。

4 年前の推進室開設当時の問題として、医療資源の仙台集中、特に在宅療養支援機能を有する医療施設も仙台に集中し、在宅・緩和医療に関しての連携ネットワークは仙台近郊や特定の一部施設に限られていた。また東日本大震災直後と言うことで沿岸部（気仙沼地区、石巻地区、仙台市や県南の沿岸部）は壊滅的な被害を受け、これらの地区のがん医療、とくに開業医による在宅医療システムが多くこの地区で破綻した。その後、この面での復興も、関連した医療者のご努力もあって、目覚ましいものであった。このような医療事情から推進室としてはこれまでは、特に仙台市以外での活動を重視してきたつもりである。地域医療機関との間で人的・知的ネットワークを開発・形成することでこれらの問題を解決する方策を探ることを目的として活動を行ってきたが、上記のように今年度をもって活動は終了である。これまでの 4 年間で見てきたものがあり、また、アンケート調査では宮城県のがん医療にとっては必要な活動であるとの声も寄せられている。今後、どなたかに、この活動を引き継いでいただければ幸いである。

### I. がん患者・患者会支援 関係

長期目標：がんの患者同士が互いに支え合い、病に向き合うことができる

短期目標：ピアサポーターの育成と患者会間のネットワーク形成の後押しを継続する

#### 1. ピアサポーター育成研修

事業・活動名	実施月日	場所	内容	対象・人数	共催
ピアサポーター育成研修（ステップアップ研修）開催	H27 年 7 月 2 日、9 日	東北大学医学部臨床講義棟 2 階臨床中講堂	1 日目： 講義 1「がん患者のための緩和ケア」 東北大学病院 緩和ケア看護認定看護師 中條 庸子 氏  講義 2「がん患者のための口腔ケア」 東北労災病院 歯科衛生士 佐藤 美由紀 氏  グループワーク  2 日目： 講義 3「現在のがん医療」 東北大学病院 がんセンター 先進包括的がん医療推進室長 森 隆弘 教授  講義 4「がん患者のための就労支援」 東北大学病院 地域医療連携センター 産業カウンセラー 原 沙絵 氏  ロールプレイ	がんの患者、家族、支援者 21 名	宮城県がん総合支援センター、東北大学病院がん診療相談、東北がんプロフェッショナル養成推進プラン

## 2. 宮城県内がん患者会・サロンのネットワーク形成事業

事業・活動名	実施月日	場所	内容	対象・人数	共催
がん患者会・サロン訪問	H27年5月11日	登米市	患者会・サロン活動に関する情報収集とネットワーク発足のための協力依頼	タオル帽子工房「えがお」代表1名	
	H27年5月14日	東北大学病院婦人科 カトレアの森事務局		カトレアの森代表、メンバー2名	
宮城県がん患者会・サロンネットワーク結成に向けた呼びかけ	H27年6月1日		ネットワークへの賛同呼びかけ文書の送付と取りまとめ	県内がん患者会・サロン29団体、施設	
宮城県がん患者会・サロンネットワーク結成に向けての準備会	H27年7月16日	宮城県対がん協会1階多目的ホール	ネットワークの趣旨、活動内容、約束事、発足式等の詳細について共有と意見交換	がん患者会、サロン代表、メンバー、世話人25名(17団体)	宮城県がん総合支援センター(宮城県対がん協会内)
がん患者会・サロンネットワークみやぎ連絡会議	H27年8月4日、9月1日、10月13日、H28年1月29日、		ネットワークコアメンバーによる運営会議	がん患者会メンバー、宮城県がん総合支援センター、宮城県対がん協会10名	
がん患者会・サロンネットワークみやぎ 発足式&記念講演会)	H27年10月27日	仙台市情報・産業プラザ セミナールーム 2(アエル6階)	第1部 ネットワーク発足式 ネットワーク発足までの経緯説明、参加団体紹介  第2部 記念講演会 「がん患者会が繋がりあうことの意味～一人ひとりにできること～」 グループネクサスジャパン理事長、全国がん患者団体連合会理事長 天野 慎介 氏	がん患者会・サロン代表、メンバー、がん患者・家族、関係者 90名	主催：がん患者会・サロンネットワークみやぎ
がん患者会・サロンネットワークみやぎ 全体ミーティング	H28年2月23日	TKP ガーデンシティ仙台勾当台ホール6	講話「がん患者の就労支援」 東北大学病院地域医療連携センター産業カウンセラー 原 沙絵 氏  グループワーク(次年度の活動について)	がん患者会、サロン代表、メンバー、世話人29名(14団体・施設)	
宮城県がん総合支援センターとの話し合い	H27年4月14日、4月21日、6月12日、7月13日 平成28年1月28日	当院がんセンター ボード室、宮城県対がん協会	患者会支援、ピアサポーター育成研修会等に関する話し合い	宮城県がん総合支援センター相談員2名、宮城県対がん協会ご担当者2名	
宮城県がん総合支援センター・宮城県との話し合い	H27年4月27日、	宮城県対がん協会	患者会ネットワーク支援に関する話し合い	宮城県がん総合支援センター相談員2名、宮城県対がん協会ご担当者4名 宮城県がん対策班長様1名	
	H28年3月17日	宮城県庁7階会議室		宮城県がん総合支援センター相談員2名、宮城県対がん協会ご担当者3名 宮城県がん対策班長様2名	

### 3. がん患者・家族向け研修会

事業・活動名	実施月日	場所	内容	対象・人数	共催
がん患者と家族のための研修会 開催	H27年11月14日	仙台国際センター 展示棟 会議室 1.2	講義「がんに振り回されないための患者力 Part2 - 前向きにがん治療を受ける秘訣：化学療法を正しく学ぶ-」 宮崎善仁会病院 NPO 宮崎がん共同勉強会理 事長 押川 勝太郎 先生	がんの患者、家族、 支援者 70名	東北がんプロフェッショナル養成推進プラン

## II. がん相談 関係

長期目標：宮城県内のがん患者と家族が必要な情報収集や相談により、自らが望む医療と療養生活を  
選択することができる

短期目標：宮城県内のがん相談支援センターと協働し、センターの周知活動を行う

### 1. がん相談支援センター広報用資材の作成と配布

事業・活動名	実施月日	内容	対象・人数
がん相談支援センター広報用資材(カード)追加印刷	H28年2月	がん相談支援センター 広報用携帯カード 10,000枚印刷	
がん相談支援センター広報用資材郵送と配布協力依頼	当室主催の研修会・ 市民公開講座の開催日	チラシ(約2,000枚)・ カード(約5,000枚)の 配布	研修会・市民講座の参加者
	H28年2月5日		県内がん相談支援センター20施設

外面

内面

**がん相談支援センター**  
「あなたの悩み」を話してみませんか?  
相談無料・秘密厳守  
相談窓口へ直接おいでください。  
電話でも相談をお受けいたします。

**がん情報みやぎ**  
<http://cancer-miyagi.jp>  
がん相談支援センターの一覧をご覧いただけます。

**宮城県内20カ所のがん相談支援センター** ※平成28年2月現在  
入院・通院をしていない病院でも相談することができます。

- 気仙沼市立病院 (気仙沼市) 電話：0226-22-7100 (代)
- 東北大学病院 (青葉区) 電話：022-717-7115 (直)
- 栗原市立栗原中央病院 (栗原市) 電話：0228-21-5330 (代)
- 東北労災病院 (青葉区) 電話：022-275-1111 (代)
- 登米市立登米市民病院 (登米市) 電話：0220-22-5511 (代)
- 仙台厚生病院 (青葉区) 電話：022-222-6181 (代)
- 大崎市民病院 (大崎市) 電話：0229-23-3311 (代)
- 東北公済病院 (青葉区) 電話：022-227-2211 (代)
- 永仁会病院 (大崎市) 電話：0229-22-0063 (代)
- 宮城県がん総合支援センター (宮城県対がん協会内/青葉区) 電話：022-263-1560 (直)
- 石巻赤十字病院 (石巻市) 電話：0225-21-7220 (代)
- 仙台医療センター (宮城野区) 電話：022-293-1118 (直)
- 坂総合病院 (塩釜市) 電話：022-365-5175 (代)
- 東北薬科大学病院 (宮城野区) 電話：022-259-1221 (代)

● がん診療連携拠点病院 ● 地域がん診療病院 ● 病院以外の相談窓口 ▶裏面に続きます

がん相談支援センター 広報用携帯カード(H28年2月作成)  
宮城県内のがん相談支援センター20施設の情報が掲載

## 2. 宮城県がん相談実務者との情報共有

事業・活動名	実施月日	場所	内容	対象・人数
宮城県がん相談実務者会議への出席	H27年5月22日	宮城県庁 10階 1001会議室	研修テーマ「地域の特性を知る」 ～4医療圏の現状を知る～ 相談実績報告・意見交換会・グループ討議	県内がん相談支援センター相談員
	H27年11月6日		がん患者相談部会報告、連絡事項	
	H27年11月6日		研修テーマ「がん相談員のネットワークを活用していくために」 施設紹介、グループワーク「ネットワーク活用の方法について検討」	
	H28年2月5日		報告事項・連絡事項 講演「長期にわたる治療が必要な疾病をもつ求職者に対する就職支援について」 ハローワーク仙台 遠藤 穂氏	

## Ⅲ. 緩和ケア・在宅医療 関係

長期目標：地域住民と専門職が在宅緩和ケアについて理解し、自分たちの課題として緩和ケアの推進に取り組むことができる

短期目標①：関係機関と協働し、地域住民と専門職に対して緩和ケアの啓蒙・啓発、教育を行う

### 1. 在宅緩和ケアの普及・啓発を目的とした市民公開講座等の開催

事業・活動名	実施月日	場所	内容	対象・人数	共催
仙南地区	H26年11月20日	角田市総合保健福祉センター（ウエルパークかくだ）	平成27年度緩和ケア講演会（市民公開講座）のための打ち合わせ会議 出席	仙南地区在宅ホスピスケア連絡会員・宮城県仙南保健所職員・角田市役所職員・当室職員 16名	
			平成27年度緩和ケア講演会（市民公開講座）開催		
大崎地域	H27年9月16日	宮城県大崎地域合同庁舎	講演「がんは身近な病気です あなたにできることは？ ～がんの体験を踏まえて～Part2」 東北大学病院 がんセンター先進包括的がん医療推進室 看護師 吉田 久美子	大崎保健所管内一般市民 155名	大崎地域がんに関する研修会（主催：大崎保健所）講師派遣

宮城県全域	がん医療フォーラム仙台 2015 「がん患者と家族の療養を考える」開催	H27年11月4日	仙台国際センター 橋	がん患者さんのご家族、医療従事者、研究者、介護福祉関係者、行政担当者等 220名	<p>【共催】 東北大学病院、東北がんプロフェッショナル養成推進プラン、地域におけるがん患者の療養支援情報普及と活用プロジェクト</p> <p>【特別後援】 公益財団法人 正力厚生会、読売新聞社</p> <p>【後援】 宮城県、仙台市、放送大学、宮城県医師会、仙台市医師会、宮城県歯科医師会、仙台市歯科医師会、宮城県薬剤師会、仙台市薬剤師会、宮城県看護協会、宮城県社会福祉士会、宮城県介護福祉士会、宮城県ケアマネジャー協会、仙台ターミナルケアを考える会、河北新報社</p> <p>【協力】 株式会社オオノ ひかり薬局・ブラザ薬局、仙南芸術文化センター（えずこホール）、仙南地区在宅ホスピスケア連絡会</p>
	がん医療フォーラム 内容				
	<p>挨拶：宮城県立がんセンター総長 片倉 隆一 先生、 仙台市市長 奥山 恵美子 氏(代理)</p> <p>第1部： 基調講演「地域で療養するがん患者さんのご家族を支える情報とは」</p> <p>1「がん患者さんご家族のための在宅療養を支える情報づくり」 帝京大学医学部内科学講座腫瘍内科 准教授 渡邊 清高 先生</p> <p>2「腫瘍内科医の立場から 薬物療法について」 東北大学加齢医学研究所臨床腫瘍学分野 助教 高橋 信 先生</p> <p>3「在宅緩和ケアの立場から」 爽秋会岡部医院 河原 正典 先生</p>	<p>第2部：フォーラム「がん患者さんご家族の療養を地域で支える」</p> <p>1「それぞれの生き方～ホームホスピスにできること～」 ホームホスピスにじいろのいえ 今野 まゆみ 氏</p> <p>2「臨床宗教師の取り組み-理念と現状-」 東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄附講座准教授 高橋 原 先生</p> <p>3 寸劇（がん患者さんの在宅での療養をテーマとした寸劇） 60歳からの楽しいクラブ活動（えずこホール）参加者の皆さん 仙南地区在宅ホスピスケア連絡会の皆さん</p> <p>4 パネルディスカッション</p> <p>まとめ： 東北大学病院がんセンター先進包括的がん医療推進室長 森 隆弘 教授</p>			

## 2. 専門職を対象とした研修会の企画・開催

事業・活動名	実施月日	場所	内容	対象・人数	共催
気仙沼地域における研修会開催についての打ち合わせと講師依頼	H27年6月4日	宮城県気仙沼保健所、気仙沼市立病院	H27年8月20日「がんの標準治療とがん患者ケアに関する研修会」に関する打ち合わせと講師依頼	宮城県気仙沼保健所、気仙沼市立病院ご担当者様	
がんの標準治療とがん患者ケアに関する研修会開催	H27年8月20日	宮城県気仙沼保健所2階 大会議室	<p>講演1「がん医療の現状と地域医療における多職種連携の必要性」 東北大学病院がんセンター先進包括的がん医療推進室長 森 隆弘 教授</p> <p>講演2「がん化学療法を受けている患者へのケアと支援のポイント」 気仙沼市立病院 外来化学療法室 がん化学療法認定看護師 丹野 美紀 氏</p>	医師、看護師、MSW、介護福祉士等、宮城県気仙沼保健所保健師 94名	宮城県気仙沼保健所、東北がんプロフェッショナル養成推進プラン

	気仙沼市立病院緩和ケア研修会 開催	H28年2月26日	気仙沼市立病院 大会議室	講演「地域で取り組む緩和ケア～がんになっても安心して暮らせる町を目指して～」 岩手県立中部病院地域医療科長兼地域医療福祉連携室長兼緩和医療科長 星野 彰 先生	気仙沼市立病院職員(医師、看護師、MSW、理学療法士等) 108名	東北がんプロフェッショナル養成推進プラン  協賛：気仙沼市立病院  後援：宮城県気仙沼保健所
塩釜地域	平成27年度がん患者・家族地域支援推進事業研修会に関する打ち合わせ、情報交換	H27年10月23日	宮城県塩釜保健所	H28年2月10日がん患者・地域支援推進事業研修会に関する打ち合わせと塩釜保健所管内のがん対策に関する情報交換	宮城県塩釜保健所高齢者支援班長様、健康づくり班長様	
	平成27年度がん患者・家族地域支援推進事業研修会開催	H28年2月10日	ホテル原田 高砂の間	講演1「在宅緩和ケアにおける基礎的知識と関係者に期待すること」 岡部医院 院長 佐藤 隆裕 先生  話題提供「地域の中で学び合う緩和ケア～看取りのプロセスを支え合うためのポイント～」 あおぞら在宅診療所富谷仙台 緩和ケア認定看護師 石田 奈緒巳 氏  「東北大学病院がんセンター先進包括的がん医療推進室の活動紹介」 真溪 淳子・吉田 久美子	塩釜保健所岩沼支所管内 病院、在宅クリニック、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、市町村等 106名	宮城県塩釜保健所
宮城県全域	がん患者の緩和ケアと終末期ケアに関する研修会 開催	H27年7月8日	東北大学加齢医学研究所スマートエイジング国際共同研究センター棟 1階国際会議室	講演1「緩和ケアを問い直す」 東北労災病院緩和ケア内科 小笠原 鉄郎 先生  講演2「在宅でのがん患者の終末期ケアと看取りのケア」 社会医療法人総合南東北病院南東北訪問看護ステーション 緩和ケア認定看護師 石田 奈緒巳 氏	がん患者支援に携わる医療、福祉、介護、保健関係者 106名	東北がんプロフェッショナル養成推進プラン  後援：宮城県、仙台市
		H27年11月27日	東北大学医学部6号館	講演1「急性期病院における終末期患者と家族ケア」 仙台医療センター緩和ケア内科医長 高橋 通規 先生  講演2「在宅でのがん患者の終末期ケアと看取りのケア」 照井在宅緩和クリニック 看護師長 中山 康子 氏	がん患者支援に携わる医療、福祉、介護、保健関係者 65名	東北がんプロフェッショナル養成推進プラン

短期目標②：がん患者支援体制整備を推進するために行政機関と協働する

### 3. 行政機関との協働と協力依頼

事業・活動名	実施月日	場所	内容	対象・人数	共催
市町村生活習慣病予防対策(がん検診・特定健診)担当者会議(主催：宮城県)	H27年5月29日	宮城県庁 2階 第二入札室	宮城県がん対策の説明・市町村取組紹介 講話「がん患者として市町村にお願いしたいこと」 東北大学病院 がんセンター先進包括的がん医療推進室 看護師 吉田 久美子	宮城県内市町村(がん検診・特定健診)担当者、宮城県保健所がん患者支援担当者、宮城県疾病感染症対策室 がん対策班 72人	
仙台市への研修会等開催に向けての協力依頼	H26年7月10日	仙台市役所	「がん医療フォーラム仙台2015」の来賓挨拶と後援依頼、がん対策に関する情報提供	仙台市健康福祉局保健衛生部健康政策課 医療政策担当課長様	東北大学病院がんセンター先進包括的がん医療推進室長同行

### IV. がんに関する情報提供、情報発信

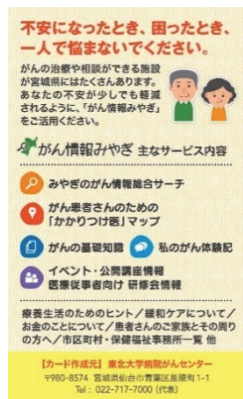
長期目標：宮城県内のがん患者と家族が必要な情報収集や相談により、自らが望む医療と療養生活を選択することができる

短期目標：宮城県内のがん患者と家族、専門職にがん医療と療養生活に関する適切な情報を発信する

#### 1. 宮城県版がん情報ポータルサイト「がん情報みやぎ(URL : <http://cancer-miyagi.jp/>)」の管理・運営

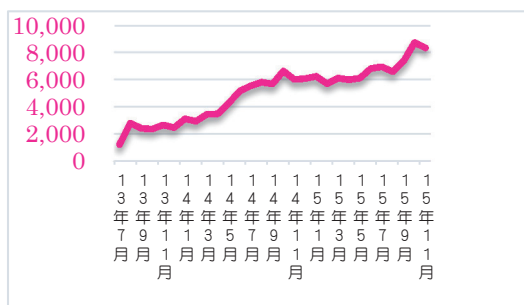
事業・活動名	実施月日	場所	内容	対象・人数
がん情報ポータルサイト「がん情報みやぎ」の維持・更新作業	H27年6月9日	東北大学病院キヤンサーボード室	第6回がん情報みやぎワーキンググループ会議 開催	「がん情報みやぎ」ワーキングメンバー 11名
	H28年2月9日		第7回がん情報みやぎワーキンググループ会議 開催	「がん情報みやぎ」ワーキングメンバー 10名
	H28年1～3月		サイト掲載情報の更新確認作業	情報掲載施設 358件分
がん情報みやぎ広報用資材(カード)追加作成	H28年2月		「がん情報みやぎ」広報用携帯カード 10,000枚	
「がん情報みやぎ」広報用資材郵送と協力依頼	H27年4月16日		広報用資材の送付と配布協力依頼(取りまとめ協力：宮城県保健福祉部疾病・感染症対策室がん対策班) チラシ(約4,000枚)、カード(約3,500枚)	<b>【行政】</b> 白石市民生部健康推進課 <b>【病院】</b> 宮城県率がんセンター、仙台医療センター、東北労災病院、東北薬科大学病院、みやぎ県南中核病院、東北公済病院、仙台厚生病院 <b>【企業】</b> 三井住友海上あいおい生命保険(株)、富国生命保険相互解呷、杜の都信用金庫 <b>【健保組合】</b> 全国健康保険協会宮城県支部
	H28年2月5日		カード(約5,000枚)の配布	県内がん相談支援センター20施設





がん情報みやぎ 広報用携帯カード(H28年2月作成)

サイト訪問者数の推移(2013年7月～2015年12月)



## 2. がん患者療養支援に関する情報提供

事業・活動名	実施月日	内容	対象・人数
県全体 県内介護関係施設へのがん患者療養支援に関するパンフレットの提供	H28年3月	がん情報センターパンフレット(7冊)の送付 (「がんと心」「がん治療と口内炎」「がんの療養と緩和ケア」「がん治療とリンパ浮腫」「もしも、がんと言われたら」「がんの療養とリハビリテーション」「がん相談支援センターにご相談ください」)	宮城県内 居宅介護支援事業所、訪問介護事業所、訪問入浴介護事業所、地域包括支援センター 計 1,300 施設

## 3. COP 通信(当推進室の活動報告レター)の作成・発送

事業・活動名	実施月日	内容	対象・人数
COP 通信の作成と発行(第11～13号)	H27年4月(第11号)、 7月(第12号)、 H28年1月(第13号・最終号)	当推進室の活動報告等	当院広報誌発送先 3300 か所に発送 (広報誌 hesso と共に発送)  発送先：全国大学病院 約 165 件 県内病院 約 150 件 県内診療所 約 735 件 仙台市内診療所 約 900 件 県内・仙台市内歯科診療所 約 1200 件 良陵同窓会 約 70 件 各連携施設 約 80 件か

平成 27 年度 イベント数 12 参加者数 1,043 人

### 終わりに

以上の活動は推進室に所属する各スタッフが、巻頭の目標に向かって各々主体的に行動した結果である。そういった活動の詳細は定期的な当室の広報紙「COP 通信」、または先ごろ発刊した「推進室活動報告書」をご覧いただきたい。ご覧頂ければ、我々の活動が、補助金事業のそもそもの目的である「地域がん医療再生」に沿ったものであったことをご理解いただけるのではないかと思います。

冒頭で述べたように今年度で本プロジェクトは終了するが、このような活動はこの推進室以前にはなかった類のものである。しかし、このように振り返ってみると、我々の活動は国そして宮城県が目標として掲げる「がんになっても安心して暮らせる(自分らしく暮らせる)社会の実現」に必要なものではなかつたらうか。さらに、現在闘病中のがん患者(その家族)にとっても意義のあることであったと思う。それは、例えば当室が開設し運営している「がん情報みやぎ」への宮城県あるいは全国からの月間アクセス件数が 8,000 件であることから証明される。(アクセスの検索キーワードを見ると、多く

が闘病中の患者または家族からの検索であることが示唆される) 幸いなことに「がん情報みやぎ」に関しては今後も東北大学病院がんセンターによって継続されることになったが。

このように、何らかの形でこれらの活動が宮城県や他の団体によって今後も継続されることを期待しております。この4年間、当推進室の活動にご理解いただき、また、ご支援いただきまして誠に有難うございました。

笹原洋二（東北大学大学院医学系研究科小児病態学分野・東北大学病院小児科 准教授  
小児腫瘍センター副センター長）

## 1. 小児がん拠点病院の指定

小児がん拠点病院は、平成25年2月に、国のがん対策推進基本計画の重点課題として、厚生労働省より全国15施設が指定されました。東北大学病院も小児科・小児腫瘍科を中心に、病院全体としての実績や今後の計画を公表し、東北地区唯一の小児がん拠点病院として指定を受け、3年となりました。小児がん拠点病院の骨子は、以下の通りになります。

- 1) 小児がん患児と御家族が、適切な小児がん医療と支援が受けられる環境の整備
- 2) 4年間での各地域ブロックの中核機関の整備

小児がん拠点病院—地域内小児がん診療病院との連携体制

- 3) 病院内での集学的治療の供給

チーム医療による集学的治療の実施

専門職の充実（医師、看護師、院内学級教師、臨床心理士、保育士、MSW、CLS、薬剤師、栄養士、理学療法士）

再発、難治がん症例への対応

AYA世代の診療体制

緩和ケアの実施体制

- 4) 東北地区全体としての地域連携

小児がん診療病院との連携強化

長期フォローアップ体制

## 2. 小児がん拠点病院として達成できたこと（図1）

- 1) 病院内の取組み

現在、大学病院の東西5階病棟は、小児医療センターとして83床を有し、広く小児入院患者の診療を行っています。東5階は小児外科的疾患と循環器、西5階は小児内科的疾患を診療していますが、西5階の平均約8割は常に小児血液腫瘍免疫疾患の子供たちが入院しています。当科では年間30-45例が小児がん初発例として入院します。今回の小児がん拠点病院指定を受け、＜小児腫瘍センター＞が東北大学病院がんセンターの一員として組織化され、化学療法センター、緩和ケアチームと同じ体制で診療をすることが可能となりました。現在も医師、看護師、臨床心理士、院内学級教師、保育士が定期的にカンファレンスを行って情報共有を行っています。今後はCLS（child life specialist）の雇用や、ソーシャルワーカーさんにもより積極的に参

加してもらい、チーム医療の充実を図っていく予定です。小児がん専門医の育成、教育も大切な点ですが、血液チームとしては、大学とこども病院が協力して臨床研修の機会をできる限り考慮しています。

## 2) 東北地区全体としての取組み

東北地区唯一の小児がん拠点病院であることから、東北地区全体の小児がん診療体制の中心として、連携体制を構築しています。小児がん診療病院として 9 施設が〈東北地区小児がん医療提供体制協議会〉を開設し、宮城県立こども病院とは月 1 回の合同カンファレンスを行っています。また、9 施設がインターネットカンファレンスシステムで遠隔診療連携がいつでもできるようになり、平成 27 年 8 月に第 1 回の合同カンファレンスを開催しました。

## 3. 東北初の〈小児腫瘍センター〉の開設

小児がん拠点病院体制の大切な一環として、東北大学がんセンター内の組織として、東北初の〈小児腫瘍センター〉を開設しました。これにより、小児がん患者への包括的な医療提供を病院全体として取り組む体制が整備されました。

### 1) 患者、および患者家族の生活環境の改善

- ・ 西 5 階の一部に病棟内セミクリーン域を作り、個室 6 床と廊下全体、専用プレイルームができ、27 年 1 月下旬から運用を開始しました。化学療法中、免疫不全症のために易感染状態の子でも、廊下に出て、専用プレイルームで遊ぶことができます。付き添いベッドもあります。(写真 1-3)
- ・ 臨床心理士、保育士、院内学級教師、ソーシャルワーカー、CLS による支援の充実。

### 2) チーム医療体制の充実

- ・ 他診療科との協力体制。
- ・ 各診療科病棟の小児がん患者の小児腫瘍センターへの集約の推進。
- ・ 緩和医療科との連携によるトータルケアの充実。
- ・ 多職種小児がん診療従事者の雇用。
- ・ 多職種カンファレンス、研修や勉強会の充実。

## 4. 今後の計画

小児腫瘍センターは、東北大学病院がんセンター内の組織として、上記取り組みを継続していきます。

また、東北地区の診療支援部会を設立して、多職種従事者の研修会や情報交換を通じて、小児がん診療のレベルアップを目指す予定です。

## 図1： 東北大学病院での小児がん診療体制の進歩

1. 東北大学病院がんセンター内に<小児腫瘍センター>を組織化した。

2. 長期入院環境の整備

- 1) 西5階病棟に付き添い者用ベッド(図1)を購入した。
- 2) 病棟内セミクリーン域(個室6床)の設置とプレイルーム増設、セキュリティシステムの導入の施工

図1



3. 脳脊髄腫瘍の診療体制の強化

脳神経外科中心の診療体制から、小児科も参画する共同診療体制へ。

4. 新規治療医師主導型治験への参加

難治性神経芽腫に対する新規抗体療法の治験実施施設となった。

5. 臨床心理士、CLSの病院雇用と保育士の増員

臨床心理士2名、CLS1名の雇用と、保育士を2名増員して計6名とした。

6. 長期フォローアップ外来の充実、移植後フォローアップ外来の開設

医師、専属看護師、臨床心理士による長期および移植後フォローアップ外来体制。

7. 緩和ケアチームとの連携強化

東北大学病院がんセンター内で連携体制による、終末期の早い段階からの介入。

8. 遠隔医療設備の充実

宮城県立こども病院とのインターネットカンファレンスを開始した(図2)。東北地区小児がん診療病院9施設で合同インターネットカンファレンスが可能になった。

図2



9. 研修会の開催

医師、看護師、臨床心理士、臨床検査技師の参加による勉強会の開催。

10. 病院ホームページへの掲載準備、情報提供

病院ホームページに小児がん拠点病院および小児腫瘍センターのホームページ(図3)を開設した。

図3





(写真1) 小児腫瘍センター セミクリーン域全体



(写真2) 小児腫瘍センター 個室病室



(写真3) 小児腫瘍センター 専用プレイルーム

## テレパソロジーセンター

テレパソロジーセンター長 渡辺 みか

テレパソロジーセンターは、がん診療には特に重要とされる病理組織診断を、遠隔地から伝送された画像をコンピュータのモニター上で観察しながら行う遠隔病理診断（テレパソロジー telepathology）を専門におこなう部門として、2015年10月に新たに設置された。テレパソロジーは術中迅速診断の領域で最も威力を発し、センターではこれを日常業務として行っている。術中迅速診断は即時性と高い診断技術を要するため、常勤病理専門医不在病院での実施が困難であることから、そのような病院に対するテレパソロジーの貢献度は大きい。その他にも遠隔からのコンサルテーション、カンファレンス、若手医師の教育などに適応できるものである。

テレパソロジーが必要とされる背景には、日本における慢性的な病理医不足、都市部への偏在や病理専門医の高齢化などが挙げられる。平成27年での病理専門医は2319名にとどまり、その1/3は関東に、1/5は東京に集中している。東北地方は東北6県+新潟でも全国の8%にすぎず、東京の半分にも及ばない。また病理専門医の全国での平均年齢は54.2歳、東北では56.8歳であり、高齢化は病理医不足に拍車をかける危険性を秘めている。地域の中核病院でも、病理医不在や一人病理医が多いのが現状であり、これらの病理医不足と偏在を補う手段として、テレパソロジーは大きな威力を発している。

### 【東北大学病院における遠隔病理診断システム】

2013年10月にバーチャルスライドを用いた新たな遠隔病理診断システムを導入している。バーチャルスライドは“仮想顕微鏡”の意味で、別名 whole slide imaging と呼ばれ、病理標本全体を一枚の大容量画像とし、モニター上で拡大縮小や視野の移動などを自由にできるようにしたものである。さらに iPad を用いた無線環境下での診断システムも構築し、制約を減らすとともに若手病理医の診断支援などにも積極的に取り組んでいる。また相手側の病理部門システムと連携し、オンラインでの病理診断を送る遠隔病理レポートングシステムも構築し、迅速な病理診断を実装している。

### 【テレパソロジーの実績】

東北大学病院はこれまで気仙沼市立病院、大崎市民病院（旧古川市立病院）、石巻市立病院、女川町立病院、十和田市立病院との間で行っており、1994年から2015年の21年間で3111件に及ぶ日本屈指の実績を重ねてきた。常勤病理医の赴任や東日本大震災に伴う施設の閉鎖などにより3施設が中止を余技なくされ、現在は気仙沼市立病院と十和田市立病院との二施設の間で行っている。

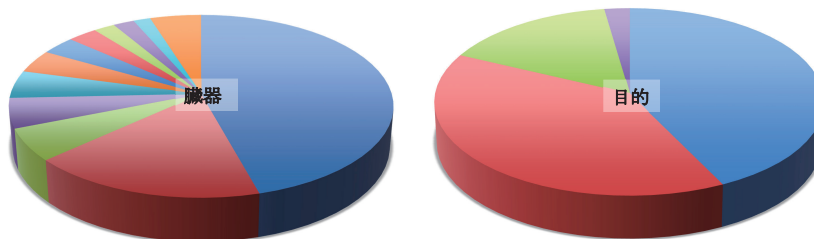
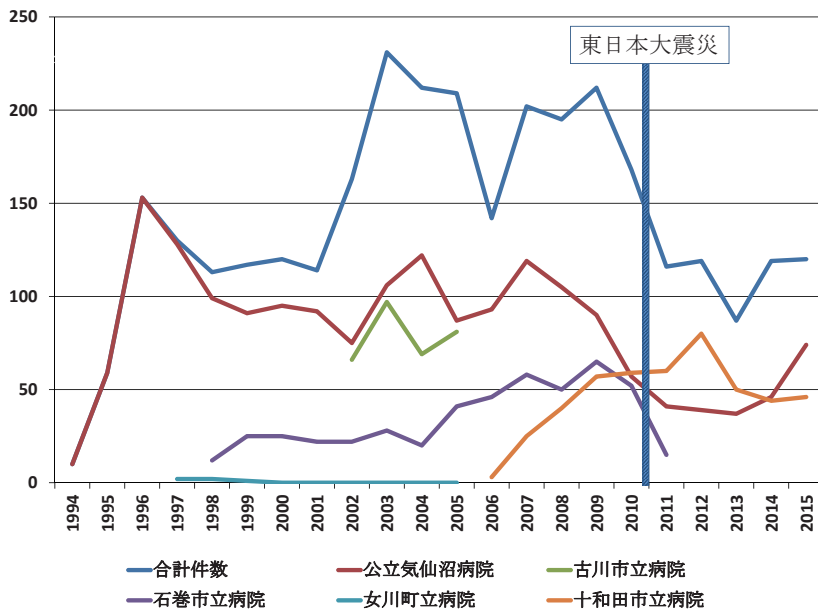
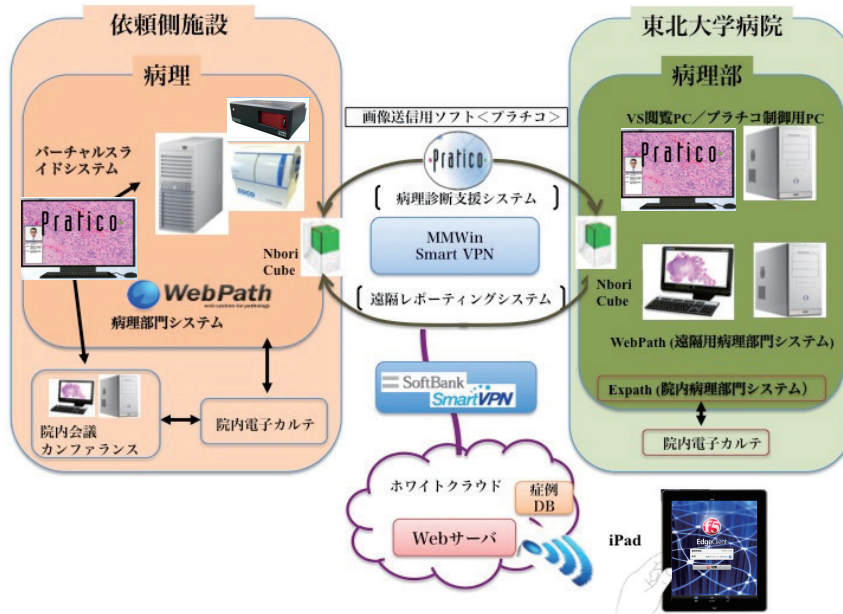
2013年10月-2015年12月の新システムでの全診断件数は284件で、十和田市立病院108件、気仙沼市立病院121件、東北大学病院55件であった。東北大学病院のものは主として若手の診断支援として iPad によるモバイル診断が主体であった。iPad でのモバイル診断件

数は 96 件で、全遠隔病理診断の 33.8%であった。遠隔病理診断に要する時間の平均は 1 症例あたり 5.5 分と短く、リンパ節(45.7%)、乳腺(17.6%)、膵臓(5.7%)、腹膜(5.3%)、脳(4.9%)、その他胆管、皮膚など様々な臓器の診断を行った。診断内容としては転移の有無(42.7%)、断端(39.3%)が各々半数近くを占め、良悪性・組織型診断が 15.6%であった。遠隔病理診断と固定後の永久標本での診断不一致例は 3 例にとどまり、98.9%の高い正診率であった。

#### 【テレパソロジーセンターの役割】

当センターではテレパソロジーを通して、病理診断支援と若手医師の育成への貢献を目指している。地域の拠点病院に対する病理診断支援により、医療の質の向上やがん診療にかかる均てん化に寄与し、遠隔会議やカンファランスを通して、病理医や若手医師の育成、プロフェッショナル育成、生涯教育などに寄与していく。今後も東北地方の地域医療を支えるべく、さらに努力していきたい。





- |        |       |           |       |
|--------|-------|-----------|-------|
| ■ リンパ節 | ■ 乳腺  | ■ 転移      | ■ 断端  |
| ■ 脾臓   | ■ 腹膜  | ■ 良悪性・組織型 | ■ その他 |
| ■ 脳    | ■ 胆管  |           |       |
| ■ 皮膚   | ■ 胃   |           |       |
| ■ 副甲状腺 | ■ 軟部  |           |       |
| ■ 卵巣   | ■ その他 |           |       |

### 3. 東北がんプロフェッショナル養成推進プラン

#### 東北がんプロフェッショナル養成推進プラン

統括コーディネータ 石岡千加史

東北がんプロフェッショナル養成推進プランは、東北大学、山形大学、福島県立医科大学、新潟大学の4大学協定による共同プランです。当プランは、高齢化社会における地域のがん医療の課題解決のため、地域がん医療に貢献するがん専門医療人養成に重点を置きました。宮城、山形、福島および新潟の4県の地域のがん医療水準を向上させるために、がん診療連携拠点病院と連携して放射線治療、化学療法、緩和医療、外科治療、歯科治療の専門医、がん看護専門看護師、がん専門薬剤師、医学物理士などのがん専門医療人を養成します。

当プランでは、がん医療に必要な学識と技能や国際的レベルの臨床研究を推進する能力を育み、大学、地域、多職域(医療チーム)、患者会が連携して在宅医療や緩和ケアを含めた地域のがん医療とがん研究を推進するための広域かつ包括的教育プログラムを提供します。教育システムは、宮城、山形、福島、新潟県の4大学の大学院医学研究科が中心となり、大学間、学科間、専攻間、大学—病院間連携を含む高度な教育システムです。がん医療者養成のために重要な基盤学識形成のための講義・臨床腫瘍学特論は、大学間、学科間、専攻間で共有し、eラーニング(東北大学インターネットスクール:ISTU)により履修することが可能です。ISTU システムは、講義履修の空間的・時間的問題を解決し、履修者の十分な実習時間の確保を可能にします。東北大学においては病院がんセンターと連携して、専門医等のがん専門医療従事者の指導の下でがん専門医療従事者の養成に必要な様々な臨床トレーニングを行います。さらに、実習の一部は大学外の連携するがん診療拠点病院での履修が可能であり、専門資格取得のためにより多くの臨床経験を積み、専門資格取得後の就職を円滑に行えるような教育システムを実現します。連携4大学が教育コアとして大学院に新たに3つの講座やセンターと42の教育コースを設置し、地域のがん診療連携拠点病院(以下、がん拠点病院)等との連携により、多職域のがん専門医療人を養成し地域の人材交流を推進します。例えば、東北大学では平成25年4月に医学系研究科に地域がん医療推進センターを設置(専任の教授と講師が着任)し、東北大学病院がんセンターの先進包括的がん医療推進室と協力して宮城県を中心とする地域がん医療のボトムアップのための活動を開始しています。また、平成28年2月6日にごんプロ教員が中心になって4大学合同学生セミナーを福島市で開催しました。

本プランの運営体制は、新たに新潟が参加する東北がん評議会(医学系研究科長、がん拠点病院、職能団体、行政が委員として参加)が本プランのアドバイザー・コミティとなり、各団体が円滑に連携して本プランを推進します(平成24年度と26年度に開催、および28年度に開催予定)。本プランの意思決定と事業運営は4大学合同の運営委員会(統括コーディネータ、分担コーディネ

ネータ、コース責任者が委員として参加)が行います。また、本プランの成果は、各県のがん拠点病院の事業責任者、各職域の学識経験者、患者団体代表者等からなる評価委員会で年 1 回進捗や効果を評価されています。最近では、平成 28 年 3 月 10 日に実施しました。また、平成 27 年 5 月 20 日の文部科学省による「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」中間評価報告で、当プランは A 評価を受けました。学内外の関係者の御協力がなければ本プランの目標達成はなし得ません。今後とも本プランへの御理解と御協力を宜しくお願い申し上げます。

## 4. 東北大学病院化学療法センター看護業務概要

平成27年度 東北大学病院・化学療法センター看護業務報告

化学療法センター

看護師長 松田 千恵子

副看護師長 尾形 由美

### 1. 看護要員

- ・東4階（化学療法センター・腫瘍内科外来）看護要員13名（看護師長1名、副看護師長1名、常勤看護師7名、部分休業看護師2名、パート看護師1名、パート助手1名）のうち、化学療法センターの看護師は、9名の専任体制（がん看護専門看護師1名を含む）をとっている。クラークは、化学療法センター・腫瘍内科外来兼務で2名配置されている。
- ・勤務体制は、通常8時30分～17時15分と遅番（9時30分～18時15分）または、居残り（8:30～治療終了まで）2名の体制とし、治療時間の延長に対応している。

### 2. 投与実績

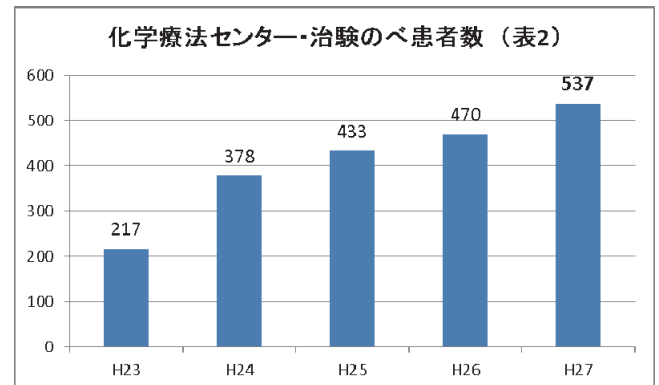
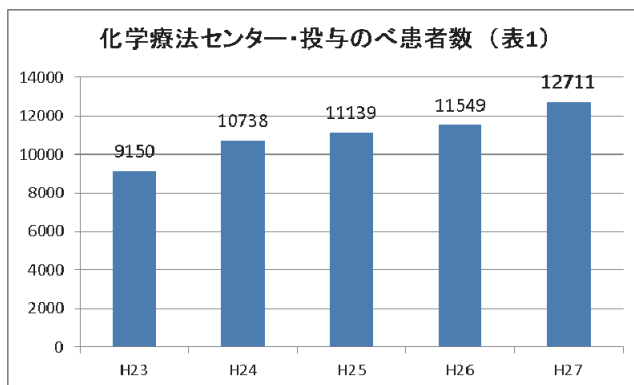
投与のべ患者数：12700名（表1）

#### (1) 外来化学療法

- ・患者数の増加に伴い、抗がん剤治療が総治療件数の8割以上を占めた。
- ・小児のべ患者数：122名

#### (2) 抗がん剤治験のべ患者数：537名（表2）

- ・件数の大幅な変動はなかったが、モニタリングの必要な治験が増加した。
- ・臨床試験推進センターとは定期ミーティング（1回/2ヶ月）を行い、さらに、新規治験開始前にも情報を共有し、連携を図りながら治験を実施した。



#### (3) 筋肉注射・皮下注射

##### ① 筋肉注射

- ・メソトレキセート：143件（婦人科限定）
- ・フェソロデックス：217件

##### ② 皮下注射

- ・ベルケイド：49件（血液免疫科限定）
- ・ランマーク：75件

待機時間等の問題もあり、化学療法の予約のない患者については、診療科で実施してもらっている。

### 3. 主な業務状況・実績

#### 1) リスクマネジメント

##### (1) 情報共有

###### ①業務ミーティング：毎朝8時30分～8時40分

～看護師間で、治療予定患者のアレルギー、血管トラブル、転倒転落ハイリスク因子等の情報と対応について情報共有を行った。

###### ②薬剤師・看護師ミーティング：毎日16時30分～16時45分

～当日の投与状況（アレルギー等）、翌日の投与患者の情報、薬剤知識の共有等を行った。

###### ③薬剤部・看護部定期ミーティング（月1回・第2火曜日）

～7月から開始し、問題点を共有しながら検討を行い業務改善を図った。

###### ④化学療法センターミーティングの定期開催（月1回・第4木曜）：9回開催した。

⑤診療科、外来看護師とのミーティング：今年度は9診療科と実施した。診療科により開催回数は異なるが、問題点や要望等を検討し業務改善に繋げた。

⑥プロトコール審査委員会への参加：スタッフ全員で査読を担当し（輪番）、審査委員会に参加した。

##### (2) アレルギー対応

アレルギー出現数は46件、ほとんどがGrade1～2であった。

今年度も、医師とともに急変対応ロールプレイを実施し、急変対応に関する体制の見直しを行った。昨年度作成した急変時役割分担表を確認する機会となった。

##### (3) 血管トラブル

血管外漏出は19件、血管炎は11件であった。

血管の状態や薬剤によっては自然滴下での投与を実施し、投与中の予防ケアや自宅でのセルフケア指導、調剤方法変更等の対応を行った。

##### (4) ライン確保

看護師によるライン確保は、全体の70%であった。

###### ① 末梢確保

実施件数は6284件であった。

実施している診療科は6科であり、未実施の診療科からの要望もあり、末梢確保の拡大に向けての検討が急務となっている。

###### ② 中心静脈（CV）ポート

実施件数は2765件であった。

全診療科のCVポート穿刺を行っているが、今年度も投与に関するインシデントは発生していない。

#### 2) 患者教育・支援

##### (1) センター利用オリエンテーション・薬剤オリエンテーション：432件

薬剤師と協働で行う体制を整備し、教材を使用しながら実施した。

##### (2) 在宅抗がん剤治療のセルフケア

セルフケア教育手順、チェックリスト、教材DVD「携帯型ポンプとポート針の取り扱いの実

際」を用いて、セルフケア指導：889件、自宅での自己抜針指導：108件を実施した。

#### 4. 研修等の受け入れ

- 1) 通年                                    東北薬科大学、東北大学薬学部学生研修  
   東北大学医学部保健学科見学研修
- 2) 平成28年1～3月                    平成27年度・がん薬物療法研修×5回（10施設・30名）
- 3) 院内看護師の見学研修

### Ⅲ 資料編

#### ○東北大学病院がんセンター内規

制定 平成18年 9月14日  
改正 平成19年 4月26日  
改正 平成23年 6月23日  
改正 平成24年 4月 1日  
改正 平成25年 6月20日  
改正 平成26年12月11日  
改正 平成27年 7月16日  
改正 平成27年 9月10日

#### (設置)

第1条 東北大学病院に、がん医療の均てん化等に関する業務を行うため、東北大学病院がんセンター（以下「がんセンター」という。）を置く。

#### (組織)

第2条 がんセンターに、がんセンター長、副がんセンター長その他の職員を置く。

- 2 がんセンターの教授、准教授、講師又は助教は、病院長が指名する者をもって充てる。
- 3 がんセンター長及び副がんセンター長は、病院長が指名する。
- 4 センター長及び副センター長の任期は、1年とし、再任を妨げない。

#### (業務)

第3条 がんセンターは、がんに関する診療を行うほか、次の各号に掲げる業務を行うものとする。

- (1) がん医療従事者の研修、院内外の講師による公開カンファレンスに関すること。
- (2) 全県域における先進がん医療及び標準的がん医療普及に関すること。
- (3) 都道府県がん診療連携協議会の設置及び運営に関すること。
- (4) 院内がん登録に関すること。
- (5) がん相談支援事業に関すること。
- (6) 緩和ケアを推進すること。
- (7) 小児がん診療を推進すること。
- (8) 放射線治療における精度管理に関すること。
- (9) 病理診断支援及び病理医の育成に関すること。
- (10) がんに対する普及啓発及び情報提供事業に関すること。
- (11) 腫瘍評議会の運営に関すること。
- (12) がん会議の運営に関すること。
- (13) その他がん医療の均てん化等に関すること。

#### (腫瘍評議会)

第4条 がんセンターに、前条各号に掲げる業務の総括、企画・立案及び自己評価を行うため、腫瘍評議会を置く。

- 2 業務を円滑に進めるため、下部組織として診療部会、研究部会、教育部会、相談支援・情報部会、がん登録部会を置く。
- 3 腫瘍評議会の構成員は、病院長が指名する者をもって充てる。
- 4 部会の構成員は、がんセンター長が指名する者をもって充てる。

(がん会議)

- 第5条 がんセンターに、腫瘍評議会から付託された個別の事項を行うため、がん会議を置く。
- 2 がん会議が行った個別の事項の対応は、逐次腫瘍評議会に報告するものとする。
  - 3 がん会議の構成員は、病院長が指名する者をもって充てる。

(内部組織)

- 第6条 がんセンターに、第3条各号に掲げる業務のため、次の組織を置く。
- (1) 化学療法センター
  - (2) 緩和ケアセンター
  - (3) がん診療相談室
  - (4) 院内がん登録室
  - (5) 先進包括的がん医療推進室
  - (6) 小児腫瘍センター
  - (7) 医学物理室
  - (8) テレパソロジーセンター

(院内の協力体制)

- 第7条 本院のがん対策に係る関連の委員会及び各部署等はがんセンターが行う業務に対して必要な協力を行うとともに、院内挙げてがん対策及びがん防止等に努めるものとする。
- 2 がん対策及びがん防止等に対応するため、研修センターを置く。

(雑則)

- 第8条 この内規に定めるもののほか、がんセンターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この内規は、平成18年10月1日から施行する。
- 2 この内規の施行後最初にセンター長に指名される者の任期は、第2条第4項の規定にかかわらず、平成19年3月31日までとする。

附 則 (平成19年4月26日改正)

この内規は、平成19年4月26日から施行し、平成19年2月19日から適用する。ただし、第2条第2項の規定は、平成19年4月1日から適用する。

- 3 附 則 (平成23年6月23日改正)

この内規は、平成23年6月23日から施行する。

附 則 (平成24年4月1日改正)

この内規は、平成24年4月1日から施行する。

附 則 (平成25年6月20日改正)

この内規は、平成25年4月1日から施行する。

附 則 (平成26年12月11日改正)

この内規は、平成26年12月11日から施行する。

附 則 (平成27年7月16日改正)

この内規は、平成27年7月16日から施行する。

附 則 (平成27年9月10日改正)

この内規は、平成27年9月10日から施行する。



## ○東北大学病院化学療法センター細則

制定 平成17年 4月21日

改正 平成19年 4月26日

平成20年 7月24日

(設置)

第1条 東北大学病院（以下「本院」という。）に、東北大学病院化学療法センター（以下「センター」という。）を置く。

(目的)

第2条 センターは、がん患者に対し快適な環境で安全に、且つ、効率的にがん化学療法を行い、併せてがん化学療法に関する教育及び研究を行うことを目的とする。

(組織)

第3条 センターに、センター長、副センター長及びその他の職員を置く。

2 センター長は、本院の専任又は兼務の教授の中から、病院長が指名する者をもって充てる。

3 副センター長は、本院の専任又は兼務の准教授又は講師の中から、病院長が指名する者をもって充てる。

4 センター長、副センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。

5 センター長は、病院長の命を受け、センターの業務を掌理する。

6 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故があるときは、その職務を代行する。

(小委員会)

第4条 センターに、その運営に関する重要な事項を審議するため、東北大学病院化学療法センター小委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) センター長

(2) 副センター長

(3) 副薬剤部長 1人

(4) 副臨床検査技師長 1人

(5) 看護師長 1人

(6) その他委員長が必要と認めた者 若干人

3 前項第2号に掲げる委員は、病院長が指名する。

(委員長)

第5条 委員長は、センター長をもって充てる。

2 委員長は、会務を総理する。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめその指名する委員が、その職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させて説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、医事課において処理する。

(プロトコール審査委員会)

第8条 センターに、化学療法プロトコール審査委員会（以下「審査委員会」という。）を置く。

2 審査委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

(化学療法センター事務局)

第9条 センターに、化学療法センター事務局（以下「事務局」という。）を置く。

2 事務局の運営に関し必要な事項は、別に定める。

(外来化学療法室)

第10条 センターに、外来化学療法室を置く。

(雑則)

第11条 この内規に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この内規は、平成17年4月21日から施行する。
- 2 東北大学病院外来化学療法センター内規（平成16年4月1日制定）は、廃止する。

附 則

この内規は、平成17年4月21日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

附 則（平成19年4月26日改正）

この内規は、平成19年4月26日から施行し、平成19年2月19日から適用する。ただし、第3条第2項第2号の規定は、平成19年4月1日から適用する。

附 則（平成20年7月24日改正）

この内規は、平成20年7月24日から施行する。

## ○東北大学病院化学療法センター事務局要項

制定 平成17年 4月21日

改正 平成19年 4月26日

平成20年 7月26日

（趣旨）

第1条 この要項は、東北大学病院化学療法センター細則（平成17年4月21日制定）第9条第2項の規定に基づき、東北大学病院化学療法センター（以下「センター」という。）に設置される東北大学病院化学療法センター事務局（以下「事務局」という。）の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（設置場所及び目的）

第2条 事務局は、薬剤部内に置く。

- 2 事務局は、院内で実施される化学療法プロトコールの登録及びデータ管理を行うほか、化学療法プロトコールに関する窓口業務を行う。

（組織）

第3条 事務局は、事務局長及び事務局員をもって組織する。

- 2 事務局長は、薬剤部長をもって充てる。
- 3 事務局員は、事務局長が指名する。

附 則

この要項は、平成17年4月21日から施行する。

附 則（平成19年4月26日改正）

この要項は、平成19年4月26日から施行し、平成19年2月19日から適用する。

附 則（平成20年7月24日改正）

この要項は、平成20年7月24日から施行する。

## ○東北大学病院化学療法プロトコール審査委員会要項

制定 平成17年 4月21日

改正 平成19年 4月26日

平成20年 7月24日

### (趣旨)

第1条 この要項は、東北大学病院化学療法センター細則（平成17年4月21日制定）第8条第2項の規定に基づき、東北大学病院化学療法センター（以下「センター」という。）に設置される東北大学病院化学療法プロトコール審査委員会（以下「委員会」という。）の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

### (目的)

第2条 委員会は、院内で実施される化学療法プロトコールについて、その質、安全性及び効率性の観点から事前審査を行い、これに助言を与えることを目的とする。

### (組織)

第3条 委員会は、委員長及び次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 医師 若干人
- (4) 薬剤師 1人
- (5) 看護師 1人
- (6) センター事務局長
- (7) その他委員長が必要と認めた者

2 前項第3号、第4号及び第5号に掲げる委員は、病院長が指名する。

3 委員長は、委員の互選をもって選出する。

### (委員以外の者の出席)

第4条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を審査委員会に出席させて説明又は意見を聴くことができる。

### (庶務)

第5条 委員会の庶務は、センター事務局において行う。

### 附 則

この要項は、平成17年4月21日から施行する。

### 附 則（平成19年4月26日改正）

この要項は、平成19年4月26日から施行し、平成19年2月19日から適用する。

### 附 則（平成20年7月24日改正）

この要項は、平成20年7月24日から施行する。

## ○東北大学病院緩和ケアセンター運営内規

制定 平成12年 3月16日

改正 平成12年 7月19日

平成13年 2月 9日

(題名改称)

平成14年 2月21日

平成19年 4月26日

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学病院緩和ケアセンター病棟入退棟基準により入院した患者並びにその家族に対して、入院及び外来を含めた緩和ケアの高度なチーム医療を行うため、必要な事項を定めるものとする。

(治療の基本方針)

第2条 がん性疼痛並びに末期諸症状の緩和及び患者、家族の精神的ケア等を行い、延命のためのみの治療・検査は行わない。

(運営)

第3条 センターは次のように運営する。

- (1) 平成12年10月1日より、個室22床で運営する。入棟判定待機や在宅患者の急性増悪、センター入院患者の医療処置を要する場合のために、別に緩衝的病床（緩和医療病床4床）を充てることできる。
- (2) センターに係る患者の入退棟は、別に定める審査基準により、判定会議が当該患者に対する緩和的及び根治的な医療処置の必要性、妥当性を検討の上、決定する。  
緊急の入退棟については、速やかに判定会議に報告するものとする。
- (3) 随時スタッフ・ミーティングを行い、患者情報とケア方針の共有に努める。兼任スタッフを含め、それぞれの立場から患者中心のケアを検討する。
- (4) 主治医は緩和医療部の医師が担当するが、前主治医による回診を妨げるものではない。
- (5) 患者の生活の場として可能な限りプライバシーに配慮し、意思を尊重する。
- (6) 職員、学生ほかの教育、見学は可能な範囲で受け入れる。
- (7) 医師、看護師、その他医療従事者並びに学生等に対して疼痛制御及び終末期医療の実践を通じて教育を行う。

(診療科との連携)

第4条 センターに関連する内科系・外科系の各診療科、麻酔科、精神科及び放射線治療科は、センターの要請により支援を行う。また、緩和医療部の医師による日直・当直が困難な場合にも、前述の診療科は、これを支援する。

(外来診療)

第5条 紹介医、患者からの入棟申込みの受付及び在宅となった患者の診療は、緩和医療科（外来）

で行う。緩和医療部の医師をはじめとするスタッフが支援する。

(看護体制)

第6条 センターは次のように看護体制を敷く。

- (1) 勤務形態は三交替で準夜2人、深夜2人で夜勤回数月8日を原則とする。新人は配置せず、卒後3年以上を配置する。病棟のローテーションは年度始めの4月に行う。
- (2) 看護体制はモジュール型継続受持方式を原則とし、2つのモジュールに分けて行う。モジュールの交替は能力等を考え看護師長が決定する。日勤では原則としてプライマリー・ナースが受け持ち、夜勤では同じモジュールの看護師が患者のケアにあたる。
- (3) 看護記録は、POS方式を原則とする。

(ボランティア)

第7条 センターは次のようにボランティアを置く。

- (1) センター内に『社会的環境』、『温もりの空間』を創り出し、患者及び家族の家庭的、人間的な関わりを保つためにボランティアを導入する。
- (2) センターのボランティアは、東北大学病院ボランティア活動員受入れ、実施要項に基づく活動員で、センターが行う研修を受けた者のうち、緩和医療部長が適当と認めたものとする。
- (3) センターのボランティアは、専らセンターで活動するものとする。

(運営内規)

第8条 この内規に定めるもののほか、必要な事項については、別に定める。

(運営内規の改廃)

第9条 この内規の改廃については、緩和医療部運営委員会で審議する。

附 則

この内規は、平成12年3月16日から施行する。

附 則 (平成12年7月19日改正)

- 1 この内規は、平成12年10月1日から施行する。
- 2 東北大学病院緩和ケアセンターで病棟入退棟判定委員会規程(平成11年11月18日制定)は、廃止する。

附 則 (平成13年2月9日改正)

この内規は、平成13年4月1日から施行する。

附 則 (平成14年2月21日改正)

この内規は、平成14年3月1日から施行する。

附 則 (平成19年4月26日改正)

この内規は、平成19年4月26日から施行し、平成19年2月19日から適用する。

## ○東北大学病院緩和ケアセンター細則

制定 平成27年7月16日

(趣旨)

第1条 この細則は、東北大学病院がんセンター内規第6条第2号の規定に基づき、緩和ケアセンター（以下「センター」という。）の運営に関する必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、悪性腫瘍の患者の疼痛・倦怠感・呼吸困難等の身体的症状及び不安・抑うつ等の精神症状の緩和及びケアを行うこと、並びに緩和ケアの教育・研修を推進することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 病棟におけるチームによる専門的緩和ケアの提供に関すること。
- (2) 外来における専門的緩和ケアの提供に関すること。
- (3) 緊急緩和ケア病床への入院による症状緩和治療の実施に関すること。
- (4) がん看護を専門とする看護師による外来看護業務の支援及び強化に関すること。
- (5) 外来化学療法室及び病棟等の看護師の連携に関すること。
- (6) 緩和ケアに関する高次の専門相談支援に関すること。
- (7) がん診療に携わる医療従事者に対する研修会に関すること。
- (8) 地域の緩和ケアの提供体制の実情把握と適切な緩和ケアの提供体制に関すること。
- (9) その他緩和ケアに関すること。

(組織)

第4条 センターに、センター長、ジェネラルマネージャー、及びその他の職員を置く。

- 2 センター長は病院長が指名する者をもって充てる。
- 3 ジェネラルマネージャーは、本病院看護師のうちから、看護部長の推薦に基づき病院長が指名する。
- 4 センター長及びジェネラルマネージャーの任期は、1年とし、再任を妨げない。

(小委員会)

第5条 センターに、その重要事項を審議し、運営の円滑化を図るため、小委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- 2 委員会は、委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。
  - (1) センター長
  - (2) ジェネラルマネージャー
  - (3) 身体症状の緩和に携わる医師 若干人
  - (4) 精神症状の緩和に携わる医師 若干人
  - (5) 緊急緩和ケア病床の担当医師 若干人
  - (6) がん看護関連の認定看護師 2人以上

- (7) 薬剤部から選出された者 若干人
- (8) 歯科医師
- (9) 管理栄養士
- (10) リハビリテーションに関連する医療従事者
- (11) 臨床心理士
- (12) 歯科衛生士
- (13) 医療ソーシャルワーカー
- (14) 医事課長
- (15) 地域医療連携室長
- (16) その他委員長が必要と認めた者

3 委員長は第2項第1号の委員をもって、副委員長は同項第2号の委員をもって充てる。  
(委員長)

第6条 委員長は会務を総理する。

2 委員長に事故があるときは、副委員長が、その職務を代行する。  
(委員以外の者の出席)

第7条 委員長が必要であると認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。  
(庶務)

第8条 委員会の庶務は、地域医療連携室において処理する。  
(雑則)

第9条 この細則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

#### 附 則

この細則は、平成27年7月16日から施行する。

### ○東北大学病院緩和ケアチーム設置要項

制定 平成18年11月16日

改正 平成19年 4月26日

改正 平成24年 9月14日

#### (趣旨)

第1条 この要項は、東北大学病院がんセンター内規第6条2号の規定に基づき、緩和ケアチームの運営に関する必要な事項を定める。

#### (業務)

第2条 緩和ケアチームは、本院における悪性腫瘍の患者の疼痛・倦怠感・呼吸困難等の身体症状又は不安・抑うつ等の精神症状の緩和ケアを行う。

また、緩和ケアチームはコンサルテーション型として、当該診療科のサポートを行う。

(構成)

第3条 緩和ケアチームにチーム長を置き、身体症状の緩和を担当する医師がその任に当たる。

2 緩和ケアチームは以下の構成員で構成する。

- (1) 身体症状の緩和を担当する医師
- (2) 精神症状の緩和を担当する精神科医師
- (3) がん性疼痛看護認定看護師・緩和ケア認定看護師及びチーム長と看護部が相談の上必要と認めた関連領域看護師
- (4) 薬剤師
- (5) メディカルソーシャルワーカー
- (6) 管理栄養士
- (7) 事務
- (8) その他チーム長が必要と認めた者

(活動内容)

第4条 緩和ケアチームは症状緩和に係わるカンファランスを週1回程度開催するものとする。

また、必要に応じて主治医、看護師などが参加し、以下の活動を行う。

- (1) がん患者の緩和ケアの実践
  - ① 疼痛を緩和するための薬物療法のアドバイス
  - ② 精神症状を緩和するためのカウンセリングや薬物療法のアドバイス
  - ③ その他緩和ケアに関する相談
- (2) 社会的苦痛に関する相談
- (3) 必要に応じての緩和ケアミーティングの開催
- (4) 院内スタッフへの緩和ケア勉強会の開催

2. 必要に応じ、緩和ケア病棟と連携し、症状緩和のケアを行うこと。

附 則

この要項は、平成18年11月16日から施行する。

附 則 (平成19年4月26日改正)

この要項は、平成19年4月26日から施行し、平成19年2月19日から適用する。

附 則 (平成24年9月14日改正)

この要項は、平成24年9月14日から施行する。



## ○東北大学病院院内がん登録室細則

制定 平成20年 2月21日

改正 平成23年 7月28日

改正 平成27年 3月13日

### (目的)

第1条 この細則は東北大学病院がんセンター内規第6条の規定に基づき、がんセンターに置く東北大学病院院内がん登録室（以下「院内がん登録室」という。）について必要な事項を定めるものとする。

### (組織)

第2条 院内がん登録室は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 室長 1名
- (2) 副室長 1名
- (3) 室長が指名する者 若干名

2 室長及び副室長は、それぞれ病院長が指名する者をもって充てる。

### (業務)

第3条 院内がん登録室は、次の業務を行う。

- (1) がん治療成績データの集積・分析・管理に関すること。
- (2) がん患者登録データの研究利用に関すること。
- (3) 地域がん登録へのデータ提供に関すること。
- (4) 宮城県内におけるがん診療連携拠点病院等に対する精度管理指導に関すること。

### (小委員会)

第4条 院内がん登録室に、その運営に関する重要な事項を審議するため、東北大学病院院内がん登録小委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 院内がん登録室長
- (2) 院内がん登録副室長
- (3) メディカルITセンター副部長
- (4) 診療情報管理士
- (5) 地域医療連携室長
- (6) 医療情報室長
- (7) その他委員長が必要と認めた者 若干名

3 院内がん登録情報の外部提供については、がん登録部会において協議し決定するものとする。

### (委員長)

第5条 委員長は、院内がん登録室長をもって充てる。

2 委員長は、会務を総理する。

3 委員長に事故があるときは、院内がん登録副室長がその職務を代行する。

### (委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させて説明又は意見を聴くことができる。

### (その他)

第7条 この細則に定めるもののほか、院内がん登録室に関し必要な事項は、がんセンタ

一長が定めることができる。

附 則

この細則は、平成20年2月21日から施行する。

附 則

この細則は、平成23年7月28日から施行し、平成23年7月1日から適用する。

附 則

この細則は、平成27年3月13日から施行し、平成27年3月13日から適用する。

## ○東北大学病院院内がん登録実施要領

制定 平成20年 2月21日

### (目的)

第1条 この要領は、東北大学病院院内がん登録室細則第7条の規定に基づき、院内がん登録業務に関し必要な事項を定めるものとする。

### (登録対象と登録内容)

第2条 院内がん登録は本院で診断・治療を行った全てのがん患者について、その診断から治療、および予後に関する情報を登録する。

- 2 登録対象疾患は、上皮内がんを含む全悪性新生物及び良性を含む頭蓋内の腫瘍とする。
- 3 一人に複数の独立した腫瘍（重複がん）が診断された場合には、それぞれの腫瘍について登録する。
- 4 登録は、入院・外来のがん（疑診を含む）を問わず、病院における初回の一連の診断・治療情報とする。
- 5 登録項目は、「がん診療連携拠点病院院内がん登録標準登録様式」に従う。
- 6 病院として、独自に付加する情報については、院内がん登録小委員会において協議し決定する。

### (登録の実施、手順)

第3条 院内がん登録は下記の手順により、診断、治療に関する腫瘍毎の登録を行う。

- (1) 腫瘍見つけ出し
- (2) 登録対象の確認
- (3) 登録情報の抽出及びコード化
- (4) 疑義照会

### (予後調査の実施、手順)

第4条 登録患者について、次の手順により予後調査を行い、診断から3年目、5年目及び10年目の生死を明らかにし、併せて死亡者の死因を把握する。

- (1) 予後調査対象者ファイルを作成し、来院歴情報、死亡診断書情報と照合する。
- (2) 紹介施設に予後を問い合わせる。
- (3) 地域がん登録から届出患者について死亡情報の提供を受ける。
- (4) 第1号から第3号で予後が把握できない場合は住民票照会等を行う。
- (5) 死亡者については、法務省の許可を得て法務局に死因を問い合わせる。

(地域がん登録への提出)

第5条 院内がん登録情報から、地域がん登録において要請される情報を抽出・編集し、地域がん登録室へ届け出る。

(集計結果の作成・報告・公開)

第6条 集計結果はがん登録部会で承認を得た後、病院年報として取りまとめ、腫瘍評議会に報告するとともに病院外の関係機関にも公表する。

- 2 年報で得られた集計結果のうち、公開することによって公衆衛生の向上に寄与し、特定の個人に不利益を及ぼす可能性のない項目については、院内がん登録小委員会で承認後、施設に掲示、あるいは病院ホームページに掲載するなどして、成果の公表に努める。
- 3 公開した資料に対する問い合わせ、資料請求への対応は、院内がん登録室が担当する。問い合わせや資料請求の内容・件数について、院内がん登録小委員会及びがん登録部会に定期的に報告する。

(院内の情報サービス)

第7条 診療科が、その診療内容を把握・評価する目的で、院内がん登録資料を利用する場合、あるいは院内がん登録で把握している患者の予後情報を利用する場合は、利用希望者ががん登録部会長に所定の申請書を提出し、がん登録部会長の承認を得なければならない。

- 2 施設内部で、あるいは施設外の公的調査に協力するために、当該施設の診療機能に関する集計値が必要な場合にも、所定の申請書によりがん登録部会長に申請する。
- 3 院内がん登録室は、申請者と作業手順・時期などについて協議の上、登録情報の提供、集計値の作成にあたる。

(研究的利用にかかわる事務処理)

第8条 院内がん登録資料を研究目的で利用する場合は、別途定める病院院内がん登録における個人情報保護および利用に関する規定に基づき、利用希望者ががん登録部会長に所定の申請書を提出し、がん登録部会長の承認を得なければならない。

- 2 がん登録部会長の承認が得られた場合に限り、院内がん登録室は、必要なデータを登録資料に基づき作成し、利用希望者に提供する。

附 則

この要領は、平成20年 2月21日から施行する。

## ○東北大学病院院内がん登録における個人情報保護及び利用に関する要領

制定 平成20年 2月21日

### (目的)

第1条 この要領は、東北大学病院院内がん登録における個人情報の取り扱い及び院内がん登録情報の利用に関する必要な事項を定める。

### (定義)

第2条 この要領における院内がん登録従事者とは、雇用形態にかかわらず東北大学病院において、院内がん登録に関する各種情報の収集、整理、登録、解析、報告等の業務に従事する者をいう。

### (登録室管理者)

第3条 東北大学病院院内がん登録における個人情報の保護及び管理のため、登録室管理者を置く。登録室管理者は院内がん登録室長をもって充てる。

2 登録室管理者は、院内がん登録における個人情報の保護及び管理についての監督並びに必要な応じこれを向上させるための対策を講ずることを責務とする。

### (個人情報保護の義務)

第4条 院内がん登録従事者及び院内がん登録従事者であった者は、業務上知り得た患者個人についての事項を他にもらしてはならない。また本要領を遵守する義務を負う。

2 登録室管理者以外のがん登録従事者は、登録室管理者の指導、監督に基づき、個人情報の保護及び管理対策の維持、向上に努めるとともに、業務を実施するに当たっては、登録資料の取り扱いに関し、紛失、破損を防止するとともに、資料ががん登録従事者以外の目に触れないよう十分な注意を払わなければならない。

### (患者等への接触禁止)

第5条 がん登録従事者は登録情報の収集や確認のために、患者本人や患者家族に直接接触してはならない。

### (登録資料の管理)

第6条 院内がん登録の作業上の必要により、登録資料を印刷すること及びフロッピーディスク等の磁気媒体に保存することは必要最低限に留める。登録資料を印刷したものは作業終了後裁断または溶解により廃棄する。磁気媒体に保存された記録は、当該業務が終了した時点で直ちに消去する。

2 登録室管理者が特に登録作業上必要があると認めた場合を除き、紙もしくは磁気媒体に記録された登録資料を院内がん登録室以外の場所に持ち出してはならない。

(入退室管理)

第7条 登録室管理者は、特に必要がある場合を除き、がん登録従事者以外の者を院内がん登録室に立ち入らせてはならない。

(院内がん登録情報の利用)

第8条 東北大学病院に所属する者が診療内容の把握、評価をする目的、東北大学大学院医学系研究科に所属する者（以下「研究者」と定義する）が研究を行う目的及び都道府県地域がん登録やがん診療連携拠点病院腫瘍データ収集調査へのデータ提供の目的で院内がん登録情報を利用することができる。

(院内がん登録情報の利用申請を行うことができる範囲)

第9条 東北大学病院、東北大学大学院医学系研究科の職員は、院内がん登録情報の利用申請を行うことができる。また、都道府県地域がん登録責任者は地域がん登録への登録を行う目的で院内がん登録情報の利用申請を行うことができる。

(院内がん登録情報を利用できる者の範囲)

第10条 院内がん登録情報のうち、公表された以外の集計値・生存率計算結果、個人識別情報を除いた腫瘍個票データを利用できる者は下記のいずれかに該当する者とする。

- (1) 本要領第9条により利用申請をし、承認を受けた者。
- (2) 上記以外の東北大学病院、東北大学大学院医学系研究科に所属する者で利用申請者の管理下において情報を扱う者。
- (3) 東北大学病院、東北大学大学院医学系研究科以外に所属する者で、利用申請者が共同研究者である者。

2 院内がん登録情報のうち、個人識別情報を含む腫瘍個票データを利用できる者は以下のいずれかに該当する者とする。

- (1) 本要領第9条により利用申請をし、承認を受けた者。
- (2) 個人情報保護について医師と同様の守秘義務を負うことについての誓約を東北大学病院長に対して行い、かつ東北大学病院、東北大学大学院医学系研究科において利用申請者の管理下に情報を扱う上記以外の者。

(院内がん登録情報の利用申請)

第11条 院内がん登録情報の利用に当たっては、以下の各号に定める利用手続きを経なければならない。

- (1) 公表された以外の集計値及び生存率計算結果のみを利用する場合には「東北大学病院院内がん登録情報利用申請書」（様式1）によりがん登録部会長に利用申請する。
- (2) 個人識別情報を除いた腫瘍個票データの利用を希望する場合には、「東北大学病院院内がん登録情報利用申請書」（様式1）によりがん登録部会長に利用申請する。研究者が研究目的で個人識別情報を除いた腫瘍個票データの利用を希望する場合には、「東北大学病院院内がん登

録情報利用申請書」(様式1)及び東北大学医学系研究科医学部倫理委員会の倫理審査承認書の写しによりがん登録部会長に利用申請する。

- (3) 個人識別情報を含んだ腫瘍個票データの利用を希望する場合には、「東北大学病院院内がん登録情報利用申請書」(様式1)及び「個人識別情報を含む東北大学病院院内がん登録情報利用に関する誓約書」(様式2)によりがん登録部会長に利用申請する。研究者が研究目的で個人識別情報を含んだ腫瘍個票データの利用を希望する場合には、「東北大学病院院内がん登録情報利用申請書」(様式1)、「個人識別情報を含む東北大学病院院内がん登録情報利用に関する誓約書」(様式2)及び東北大学医学系研究科医学部倫理委員会の倫理審査承認書の写しによりがん登録部会長に利用申請する。都道府県地域がん登録責任者が地域がん登録への登録目的で個人識別情報を含んだ腫瘍個票データの利用を希望する場合は本要領第11条第4項に定めた手続きに従うものとする。
- (4) 都道府県地域がん登録責任者が地域がん登録への登録目的で個人識別情報を含んだ腫瘍個票データの提供を希望する場合には、「東北大学病院院内がん登録情報提供申請書」(様式3)によりがん登録部会長に申請する。

(申請の承認)

第12条 がん登録部会長は、利用、提供の申請があった場合、申請内容を審査し、適当と認められる場合には情報の利用、提供を承認することができる。

(院内がん登録情報の提供)

第13条 がん登録部会長は「東北大学病院院内がん登録情報利用(提供)承認書」(様式4)を添え、申請を行った対象範囲及び項目についてのみ磁気媒体または出力帳票により情報を提供する。

(院内がん登録情報の受領)

第14条 第11条第2項から第4項に従って申請を行い、院内がん登録情報の提供を受けた者は、「東北大学病院院内がん登録情報受領書」(様式5)をがん登録部会長に提出しなければならない。

(個人識別情報を含んだ腫瘍個票データ利用者の責務)

- 第15条 個人識別情報を含んだ腫瘍個票データの利用者は、次の各号を遵守しなければならない。
- (1) 承認された目的、方法以外に資料を利用してはならない。また第三者に資料を譲渡、貸与、閲覧させてはならない。
  - (2) 資料から得た患者個人の情報を他にもらしてはならない。
  - (3) 資料の保管に最大限配慮しなければならない。
  - (4) 利用期間が終了したとき、又は利用期間内であっても利用目的が完了したときは、提供を受けた資料の全てを、速やかに院内がん登録室に返却または消去し、「個人識別情報を含む東北

大学病院院内がん登録情報返却・消去報告書」(様式6)を提出しなければならない。

(個人識別情報を含んだ腫瘍個票データの利用者への立ち入り検査等)

第16条 がん登録部会長は個人識別情報を含んだ腫瘍個票データの保管状況について、第11条第3項から第4項により個人識別情報を含んだ腫瘍個票データの提供を受けた者に対して、立ち入り検査、又は利用者から説明を求めることができる。

2 第11条第3項から第4項により個人識別情報を含んだ腫瘍個票データの提供を受けた者はがん登録部会長より求めがあった場合は前項の検査、説明に応じなければならない。

3 がん登録部会長は立ち入り検査等の結果、個人識別情報を含んだ腫瘍個票データの利用、保管状況に遵守事項の違反があった場合は直ちに提供した資料の返還を求めることができる。

附 則

この要領は平成20年2月21日から施行する。

## ○東北大学病院がん診療相談室細則

平成21年3月制定

平成23年4月改正

平成23年12月改正

平成26年5月改正

(設置)

第1条 東北大学病院がんセンターがん診療相談室は、地域医療連携センター内に設置し、がんセンターと地域医療連携センターの協働のもと運営を行う。

(組織)

第2条 がん診療相談に関して次の部会を置く

相談支援・情報部会

- (1) 部会長 がん診療相談室長
- (2) 看護部から1名
- (3) がんセンターから1名
- (4) がん相談員から1名
- (5) 総務課(広報担当)から1名
- (6) 地域医療連携室から1名
- (7) その他部会長が認めるもの若干名

(がん診療相談実務者会議)

第3条 室長は業務を遂行するため、がん診療相談実務者会議を開催する。

会議は原則として月1回定期開催するものとする。

2. 実務者会議は次の者で構成される。

- (1) 専従相談員 1 名
- (2) 専任の相談員（看護師、MSW）
- (3) 地域医療連携室から 1 名
- (4) セカンドオピニオン担当者 1 名
- (5) 兼務保健学科教員など

（業務）

第 4 条 所掌事項として当分の間は以下の通りとする

- (1) がんの病態、標準的治療法等がん診療およびがんの予防・早期発見等に関する一般的な情報の提供、およびがん関連図書等の管理運営に関すること
- (2) 診療機能、入院・外来の待ち時間および医療従事者の専門とする分野・経歴など、地域の医療機関および医療従事者に関する情報の収集、提供
- (3) セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介
- (4) がん患者の療養上の相談
- (5) 地域の医療機関および医療従事者等におけるがん医療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供
- (6) アスベストによる肺がんおよび中皮腫に関する医療相談
- (7) HTLV-1 関連疾患である ATL に関する医療相談
- (8) 就労に関する相談
- (9) 医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援
- (10) 相談支援センターの広報・周知活動
- (11) 相談支援に携わる者に対する教育と支援サービス向上に向けた取組
- (12) その他相談支援に関すること

（院内の協力体制）

第 5 条 がん相談に関する関連の診療科および部署は業務に対して必要な協力を行う。

（報告）

第 6 条 相談支援・情報部会及びがん診療相談室実務者会議での決定事項は腫瘍評議会、及び地域医療連携センター会議に報告し了承を得る。

## ○東北大学病院小児腫瘍センター細則

制定 平成 26 年 12 月 11 日

（趣旨）

第 6 条 この細則は、東北大学病院がんセンター内規第 6 条第 6 号の規定に基づき、小児腫瘍センター（以下「センター」という。）の運営に関する必要な事項を定める。

（目的）



第7条 センターを総合的小児がん医療部門と位置づけ、小児系診療科及びそれ以外の診療科の小児がん患児に対し、効率的かつ安全で高度な小児がん診療を行うことにより、小児がんの治療成績向上と、患児及びその家族のアメニティと生活の質（QOL）の向上を図り、さらに退院後も長期的な医療と支援体制を提供することを目的とする。

（組織）

第8条 センターに、センター長、副センター長、及びその他の職員を置く。

- 2 センター長及び副センター長は病院長が指名する者をもって充てる。
- 3 センター長及び副センター長の任期は、1年とし、再任を妨げない。

（小委員会）

第9条 センターに、その重要事項を審議し、運営の円滑化を図るため、小委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- 2 委員会は、委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。
  - (1) センター長
  - (2) 副センター長
  - (3) 小児科及び小児腫瘍科の各病棟医長
  - (4) 小児外科病棟医長
  - (5) 小児腫瘍センターを利用する各診療科から選出された者 各1人
  - (6) 薬剤部から選出された者 1人
  - (7) 栄養管理室から選出された者 1人
  - (8) 東・西5階各病棟看護師長
  - (9) 小児科及び小児腫瘍科外来看護師
  - (10) 医事課長
  - (11) 地域医療連携室長
  - (12) その他委員長が必要と認めた者
- 3 委員長は第2項第1号の委員をもって、副委員長は同項第2号の委員をもって充てる。

（委員長）

第5条 委員長は会務を総理する。

- 2 委員長に事故があるときは、副センター長が、その職務を代行する。

（委員以外の者の出席）

第6条 委員長が必要であると認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

（庶務）

第7条 委員会の庶務は、地域医療連携室において処理する。

（雑則）

第8条 この細則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この細則は、平成26年12月11日から施行する。

## ○東北大学病院テレパソロジーセンター細則

制定 平成27年9月10日

(趣旨)

第10条 この細則は、東北大学病院がんセンター内規第6条第8号の規定に基づき、テレパソロジーセンター（以下「センター」という。）の運営に関する必要な事項を定める。

(目的)

第11条 センターは、遠隔地の地域の病院より伝送された病理画像の病理診断、コンサルテーション及びセカンドオピニオン、遠隔会議や遠隔カンファレンスなどを施行し、地域の病院との医療連携や病理診断支援を行うとともに、診療レベルの維持・向上や均てん化、研修医や若手医師の教育、医師および病理医に対する生涯教育、病理医育成事業を行うことを目的とする。

(組織)

第12条 センターに、センター長、副センター長、及びその他の職員を置く。

- 2 センター長及び副センター長は病院長が指名する者をもって充てる。
- 3 センター長及び副センター長の任期は、1年とし、再任を妨げない。

(小委員会)

第13条 センターに、その重要事項を審議し、運営の円滑化を図るため、小委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 病理部より選出された医師 若干人
- (4) 病理部所属の副技師長または主任技師
- (5) 内科系診療科より選出された医師 1名
- (6) 外科系診療科より選出された医師 1名
- (7) 医事課長
- (8) 地域医療連携室長
- (9) その他委員長が必要と認めた者

3 委員長は第2項第1号の委員をもって、副委員長は同項第2号の委員をもって充てる。

(委員長)

第5条 委員長は会務を総理する。

2 委員長に事故があるときは、副センター長が、その職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要であると認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、地域医療連携室において処理する。

(雑則)

第8条 この細則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この細則は、平成27年9月10日から施行する。

## ○宮城県がん診療連携協議会規約

(名称)

第1条 本会は、宮城県がん診療連携協議会という。

(目的)

第2条 本会は、県内におけるがん診療連携の円滑な実施を図るとともに質の高いがん医療の提供体制を確立することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- 1 会議の開催。
- 2 県内におけるがん医療情報の収集。
- 3 診療支援医師の派遣、研修計画の調整等。
- 4 その他本会の目的達成に必要な事業。

(事務局)

第4条 本会の事務局は、会長の属する病院内に置く。

(会員)

第5条 本会の会員は、厚生労働省の「がん診療連携拠点病院」の指定を受けた宮城県内の病院とする。

構成メンバーは、会員病院の院長等及び担当医並びに事務（局・部）長をもって構成する。

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。

会 長	1名
副会長	2名
監 事	1名

- 2 役員は総会で会員のうちから選任する。
- 3 役員の任期は2年とする。ただし、その終期は選任された年の翌々年の定期総会終結の日とする。

(作業部会)

第7条 本会に事業計画の詳細な検討を行うための必要な作業部会を置く。

- 2 作業部会の部会長は会長が指名する。
- 3 作業部会のメンバーは、会員病院の院長より推薦を受けた者によって構成する。
- 4 作業部会は部会長が必要に応じ招集する。

(顧問及び参与)

第8条 本会に顧問及び参与を若干名を置くことができる。

- 2 顧問及び参与は、本会に功労のある者、学識経験のある者、県内の関係機関並びに団体の役員の中より総会の承認を経て会長が委嘱する。

(総会)

第9条 定期総会は毎年1回、臨時総会は必要のある場合会長が招集しその議長となる。

(会費)

第10条 本会の運営のための会費は1病院あたり年1万円とする。

(会計)

第11条 本会の運営に要する費用は、会員の会費及びその他の収入をもってあてる。

- 2 本会の会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

附 則

- 1 この規約は平成17年4月1日から施行する。
- 1 この規約は平成17年12月7日から施行する。
- 1 この規約は平成18年12月9日から施行する。
- 1 この規約は平成24年7月18日から施行する。

## ○宮城県がん診療提供体制検討委員会内規

制定 平成26年2月10日

(設置)

第1条 宮城県がん診療連携協議会（以下「協議会」という。）に、宮城県がん診療提供体制検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、宮城県におけるがん診療の質の向上及びがん診療連携協力体制の構築、PDCAサイクルの確保などを目的とし、必要な事項の審議を行ない協議会に提案する。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 会員病院の院長等が指名する者（各施設1名ずつ）
- (2) その他委員会が必要と認めた者

(委員長)

第4条 委員長は、第3条（1）号委員のうちから互選する。

- 2 委員長は、会務を総理する。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員が、その職務を代行する。

(任期)

第5条 第3条各号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 前項の委員は、再任されることができる。

(委員会の召集)

第6条 委員会は、委員長が召集する。

- 2 委員会は、委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。
- 3 委員の総意がえられた事項に関しては電子メールなどを用いて審議をすすめることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、協議会事務局において処理する。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この内規は、平成26年2月10日から施行する。